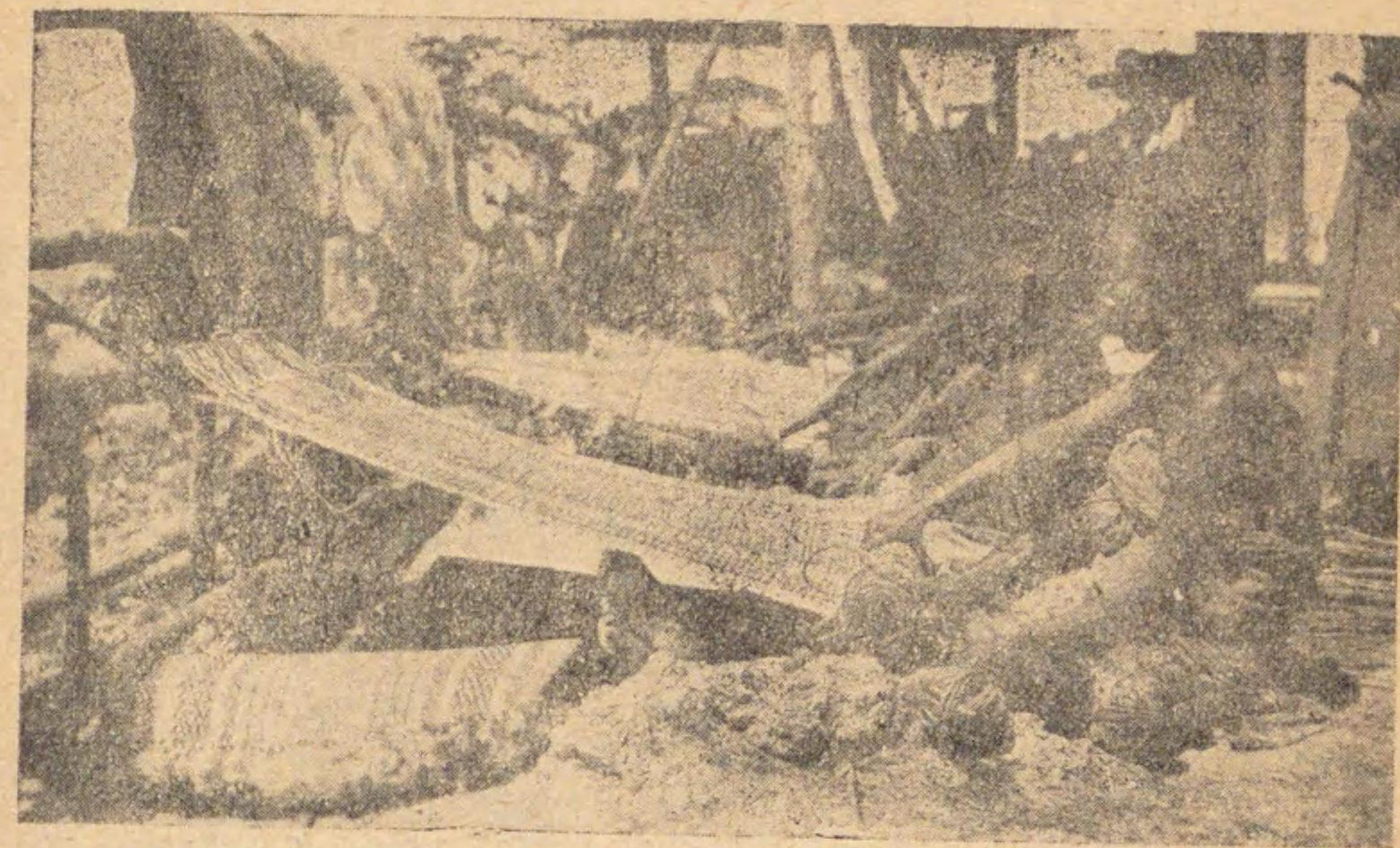


將來性ある  
農産物

織手のルザイサ



第九章 葡萄牙領各地

子女ルーモチる織をルザイサ

農業資源  
(イ) 土人生産物(玉蜀黍、米)土人の主食物たる玉蜀黍の生産は島内需要を充たす程度で一人當消費量から年産約二百萬擔と推算される。米に至る所で栽培されてゐるが常食物ではない。併し初めは輸入労働者の主食物として、後には之を模倣する土著人も含めた食糧として將來重視すべきである。米・玉蜀黍の適地は南海岸に多い。

珈琲・煙草に就ては後述する。

サイザル麻はマウバラ、デリー附近にも産するが、南海岸丘陵地の排水良き斜面が之に適してゐる。その他、大豆・蔬菜・果實等をも産する。

(ロ) 農園栽培物及び將來性あるもの 珈琲は十八世紀に輸入され、最近五十年間に廣く栽培されるに至つたチモール島の代表的物産であり、其の香氣を以て名高い。産額は一九三一年の輸出量二、四三八噸を時として漸減し、現在は年産千五百噸前後である。其の九割を占めるアラビカ珈琲は七百

S、A、P、  
Tの試作

別選の非珈るけ於にルーモチ



第一節 チモール

五十米以上、ロブスター及びリベリア種は六百米以下の地に生育する。上述最適地を占めるS・A・P・T(愛國勤勞農事會社)は、ファツベシ、タロ農園から全産量の一五%、コンパーニヤ・デ・チモール其の他の農園から五%を産し、他は土人の栽培に係はる。生産技術に改良の餘地が多い。一部日本、歐洲向の他、大部分マカッサル市場に積み出される。護謨、カカオ 共にS・A・P・Tの試作によれば非常に良質のものを産し、少量乍ら輸出される。護謨は南海岸平原東部、カ、オは西部にその適地がある。

コプラは年産一萬二千擔の大部分はサンオ・ドミンゴス、ラウテン兩郡の北海岸、竝に南海岸のロレ、ヴィケケ、ヴィラ・デ・カマラ地方から産する。凡てサン・ドレイで栽培法は改良を要する。將來南海岸平原が有望である。

煙草はアラス、バリポーを主産地とし土人の需要を充たしてゐるが、品種劣悪、技術も幼稚である。アラス、ルカ



地方で優良種を適良な方法で耕作すれば有望である。

棉花はヴィケケ政府農場のジ・ランゴ種試作の結果はストリクト・ミドリリング級の良質棉を得た。自然的條件、勞力の低廉等を考慮するにアラス、アリアンバーク間の草原に於ける棉作はチモール農業開發上最も期待すべき企業である。

カミン(主産地ヴィラ・サラザール背後の丘陵)、カポック(各地殊に南海岸丘陵地に産す)、マニラ麻(ライメラ産)、油椰子(ベアソ産)等にも關しても發展の餘地がある。

農業に關する法制

租借料

チモール土地租借法(一九二四年)によれば、葡本國政府は二萬五千ヘクタール、總督は二千五百ヘクタール迄の土地租借權を許與する權限を有し、又甘蔗、煙草、棉花の新規栽培には七年間農業税を免除する(一九二七年九月の總督令)。一九三四年三月總督令による永租借料左の通りである。

五〇〇ヘクタール以上	高級栽培物農園	下級栽培物農園	牧草地
〃	每ヘクタール 二・〇〇弗	每ヘクタール 一・〇〇弗	每ヘクタール 〇・五〇弗
以下	〇・五〇	〇・五〇	〇・二〇

- 一、二分の一を耕作したる時は租借料五分の一を減じ、二十年を経たる時は完全なる管理權を獲得する。又舊租借地の二分の一を耕作せる時は新永租借をなし得。
- 二、永租借出願に必要な費用は出願者の負擔とし、又耕作義務履行の保證としてヘクタール當り一〇弗を政府に供託し、耕作の進行に従ひ返還を受ける。

農業關係關稅

一、農業地租借者に對する輸入免稅品 肥料・化學製品・農業用機械器具・麻袋・籠・種苗・建築材料・石炭・コークス等。

二、輸出税(一九三七年二月施行)

- 從價 一%(コブラ、カミン實、カポック等)
- 同 二%(棉花、其他ノ纖維植物等)
- 同 八%(護謨、カ、オ)
- 同 一五%(白檀、蜜蠟)
- 從量(每疋)(アラビカ珈琲〇・二三弗、ロブスター珈琲〇・二二弗)

但し特殊の算定法による爲め關稅額は事實上甚だ多くなる。尙ほ護謨、カカオ、茶、米の新規栽培には十年間、他の一定の栽培物には五年間免稅する。

開發の現状

開發の現状 一般的農業恐慌のほか高關稅と爲替管理とが、該地方の農業開發を阻害してゐる事は否めない。嘗て南海岸で農園經營を目論んだ者もあつたが資金難から失敗し、今日では日葡合辦のS・A・P・T以外見る可きものがなす。

即ち昭和十一年夏、南洋興發株式會社(社長松江春次氏)は、同島代表的商社ソシエダデ・アグリコラ・パトリア・エ・トラバリーヨ・リミタード(略稱S・A・P・T)と貿易業に關し提携したが、翌十二年九月同社に對する南



洋興發會社の加入及び増資の形式で、葡領チモールの一般的開發を目的とする合辦會社に改めた。

〔備考〕 S・A・P・Tは本國資本の誘引に失敗したシルヴァ總督が同族を糾合して一八九九年に設立したもので、葡萄牙の利益の爲にチモールの經濟的開發を試みた總督の意圖は、此の「愛國勤勞農事會社」といふ社名にも現はれてゐる。

然るに此の合辦は葡國植民地確保政策と之に利害關係を有する第三國の安全感に衝撃を與へたものゝ如く、上述した一聯の法令が發布され、之に基いて一應其の成立を否認されたが、曲折の末、始めより成立せる事を承認せしめた上、葡政府の希望により南洋興發會社の持株を四割とし、且つ葡政府代表として「海外植民地銀行」を加へ、昭和十四年十月改組登記を完了した。現在はチモール最良の沃地に一萬六千町歩の珈琲・護謨・カカオ農園及び獨占的勢力を占める貿易業の經營に従事してゐる。資本金總額百八十九萬弗である。我が國のチモールに對する基礎的利權で、今後日葡共存共榮の趣旨に基き各方面に對する發展が期待されてゐる。

〔備考〕 本章中の「地誌」「政治」「貿易」「交通」の項參照。

## 六、貿易

島内配給組織

島内に於ける配給組織は次の通りであり、殆んど華僑の勢力下に在ると言つてよ。

輸入品

卸賣商業 砂糖・酒精・葡萄酒・ガソリン等はS・A・P・Tの獨占到屬し、高級雜貨も葡蘭兩國商人の壓倒的支配下にあるが、綿絲・綿織物・絹織物・低級雜貨に於ては華僑の勢力も相當大きい。

小賣商業 葡商の獨占品と高級雜貨とは直接小賣されるが、其の他に於ては華僑の勢力が壓倒的で、葡蘭商の各地に於ける代理店も全部華僑經營である。

輸出品（農園生産物を除く）

輸出業者たる葡蘭商人は其の取扱商品を直接買付ける外、華僑が仲介商人として大きな役割を演じてゐる。  
蔬菜、果實等 島内向の物産並に低級雜貨の一部は重要地に於て日曜毎に開かれるバザールに於て取引される。要之、葡領チモールに於ける華僑は小賣商人仲介商人として、或る程度の勢力を有するに過ぎない。

現在輸出される國際商品は珈琲・コブラ等、單一化された熱帶農産物の少量で、其の八割はマカッサル市場に依存してゐる。他には僅少の白檀・蜜蠟・護謨等である。輸入品は全部消費財で土人用綿布・石油類・酒精・葡萄酒・小麦粉・雜貨類を主とし、六割は日本製雜貨・綿布であるが、積出地は七割迄蘭印であり、一割五分を占める砂糖・葡萄酒は特惠關稅の關係で、本國及びモザンビークから輸入される。

一九三八年の輸出中、九十七萬三千弗はS・A・P・Tが取扱ひ、内二十四萬五千弗は日本向であつた。又同年同社の輸入額は石油・砂糖・葡萄酒等の獨占品十四萬五千弗、對日取引額八萬六千弗を含み四十八萬五千弗であつた。但し貿易統計に於ける輸入額はデリー沖著値段、輸出額は課稅標準として定められた市場價格を遙かに下廻る名目價格を以て示されてゐる爲め、實際は統計の示す以上に順調であると見ねばならぬが、我國の如き至近の位置にある工業國にして熱帶資源の需要大なる國との通商關係を密にする事は、チモール植民地の繁榮上、一層望ましい事である。併し此の點に於て、上述農業關係輸出税が實際上高率なると共に遺憾なのは、同じく特殊の算定方法に基く輸入

高率税



税の異常に大なる事である。最近に至りダンピング税を設けた。  
尙ほ過去數ヶ年の輸出入貿易額は左の通りである。

年次	輸出 (パタカ)	輸入 (パタカ)	差引 (パタカ)
一九三一年	九七三、九二六	七四七、九三七	出超 二二五、九八九
一九三二年	一、〇六三、五八二	四八〇、七四九	出超 五八二、八三二
一九三三年	七二九、〇四二	九三二、七八〇	入超 二〇三、七三八
一九三四年	推定 一、一七二、七八八	七八九、五八六	出超 三八三、二〇二
一九三五年	推定 八九八、四三八	七七七、三八三	出超 一二一、〇五六

〔備考〕 爲替管理法施行一九三三年十一月

爲替管理 以上の如き統計上の事由を考慮するとしても、一九三二―三三年に激化した工業生産品と農業生産品との  
缺状價格差は、純熱帯農業植民地として深刻な影響を被るべき条件を具備した葡領チモールに對し、幾多の經濟的・  
財政的變動を與へた事はいなめない。是に於て一九三三年十一月總督令を以て爲替管理を行ひ、輸入並に貿易外支拂  
の制限を通じて植民地經濟の保護を計り、併せて國際決済の手段たる外貨の確保とパタカ貨の島内流通力補強とを企  
てた。其の内容を要約せば左の通りである。

(イ) 貿易に於ては各取引國を個別的に決済尻の均衡を計り、輸出は無爲替取引を豫想せず、凡て仕向國貨幣建荷  
爲替付又は現金取引とし、輸入の限度は積出國貨幣保有額の全額とするも、先づ其の三割に自由處分を許るし、殘餘  
は許可を要する事とし、此の目的の爲め右積出國仕向輸出の際、受取りたる外貨の七割を爲替基金に納入せしめ、其  
の代償として相當額の弗貨を交附する。現實には右納入金を伴ふ限り無爲替輸出も認めてゐる。  
(ロ) 貿易外支拂に就ても嚴重な許可制とした。本制度の目的は各取引國との決済尻をば結局受取超過とならずと  
するも、支拂超過となるを免れんとするにあるが、其の反面現在の農業生産品の輸出を増進せざる限り、生産擴充の  
爲にする資材の輸入も不可能となるの循環論的矛盾に陥り、右資材の無爲替輸入を敢行する實力を有する在外商社が  
開發に著手せざる限り、積極的なチモール植民地の經濟的開發を期待する事は不可能である。殊にバーター制による  
取引に就ても、右爲替託金の納入を要求するが如き、決して同島の繁榮に寄與する所以ではない。

七、交通及び通信

交通、通信

島外との交通及び通信

(一) 海上交通 唯一の開港場デリーは季節風と外洋の波浪とに對して安全な小灣で、港内の平均水深二〇米、五  
千噸級船舶の碇泊も可能であり、五百噸級船舶は長さ三十米の棧橋に横付けし得るが、錨地は狭小である。此の他左  
記碇泊地もあるが、孰れも船舶は外海に開放された海面に沖掛りせねばならぬ。

(イ) 北海岸 マウバラ、リキサ、マナツト、ヴェマッシ、ヴィラ・サラザール、ラガ、ノヴァ・アンコラ、  
ヴィラ・ノヴァ・マラカ、オクシ地方のヴィラ・タヴェイロ。

(ロ) 南海岸 ベソ、ベタノ、ベアソ、アリアンバータ、イリオマイル、ロレ。

和蘭王立汽船會社は、一、五〇〇噸級貨客船二隻をスラバヤ(四週一回)、デリー間所要日數一〇日)マカッサル(二週



一回、デリー間所要日數五日)の定期航路に配船してゐるが、事實上の獨占なるが爲め運賃甚しく高率である。同社爪哇・濠洲線並に西貢・爪哇・ヌメア線も特別申込によりてはデリーにも寄港する。一九三六年以來、我が南洋興發株式會社の補助帆船(二四〇噸)は南洋群島パラオとの間、直行距離一、一七〇哩を五晝夜半で連絡してゐる。澳門連絡航路は政治的に重視されて居り、澳門政府から補助金を交付する筈であるが未だ實現を見てゐない。

(二) 陸上交通 七月乃至十一月の乾季にはクーバン、デリー間、四八〇軒の道路が交通可能となつてゐるが、定期的自動車連絡は行はれてゐない。

(三) 航空路 蘭領のクーバンは英濠航空路の要地であるが、デリー陸上飛行場は時に外國機の來訪があるだけである。一九三九年夏、濠洲航空相は連絡航空路開設の爲め、デリーを訪問してゐる。

(四) 通信 デリー無電局はクーバン、マカオ兩局經由世界各地と通信を交換してゐる。

### 島内の交通及び通信

(一) 海上交通 上述の通り一九三八年一月以來、沿岸航海を官營として政府所有船オクシ號(八六噸、舊邦船)が運航してゐるが、沿岸航海條例並に右の方針にも拘らず、K・P・Mスラバヤ、チモール航路船はベソ、ロレ、ヴィラ・サラザール等に寄港してゐる。

(二) 陸上交通 毎年賦役により修築される道路は雨季に多數の決潰箇所を生じ、且つ河川によりては橋梁なき爲め渡河不能となる場合が尠くない。乾期に於て輕貨物自動車を使用し得る道路は其の延長約九〇〇軒である。輸送機關としては矮馬が廣く用ひられ、又屯所長を通じて擔夫を雇傭することも出来る。鐵道の設けは全然ない。

通信

(三) 通信 有線電話が重要地を連絡し、其の延長一、六五六軒(一九三六年)である。

## 第二節 澳門

### 一、沿革

葡人の進出

十六世紀初頭馬來に進出した葡萄牙は、中葉極東に驥足を伸ばし、西曆一五四三年(天文十二年)には種子ヶ島に來著、又四九年(天文十八年)來朝したフランシスコ・シャヴィエルは、一五五二年(明の世宗嘉靖三十一年)支那に客死してゐる。此の嘉靖卅年代前半は倭寇の最も猖獗を極めた時で、餘勢は澳門・廣東にも及んだが、葡の援助はその頭目として有名なシャン・シー・ラウの討伐に寄與せる爲め、一五五七年(嘉靖卅六年)同地に居住を許された。其の後は權利確保の爲め多額の献金を續けて來たが、一八四九年(清宣宗道光廿九年)之を廢止し、一八八七年(清德宗光緒十三年、明治廿年)葡清修好條約締結と同時に割讓を受けた。併し廣東との通商を禁ぜられた一六三一年を境とし、我國の鎖國令(一六三九年、寛永十六年)和蘭の支那貿易加入、西班牙より獨立せる結果たる比律賓貿易の禁止等により、更に一八四二年以來英領となつた香港の勃興と葡本國の衰微とにより、嘗ては西歐文化の直接影響の下に外國貿易の中心たりし澳門も、現在では政治的文化的に殆んど其の意義を失ひ、敗殘軍閥・退隱華僑の安住地・避暑地となり、公許賭博に「東洋のモナコ」の名を留めるに過ぎぬ。尤も支邦事變後、對香港政策の反面として、新的意義を持つて來た。因に澳門の正式の名稱は、「神聖なる名稱の都市マカオ」である。



二、地誌

南支珠江の大三角洲が南支那海に面する澳門島の南端にある小半島と、タイパ、コロアヌ兩小島より成り、面積は二八方軒である。

人口 一九三七年三月末の人口調査によれば、總人口一五七、一七五人、内男八七、五四八、女六九、六二七、又その内、支那人一五二、七三八、但し支那人に關しては調査洩れ多く、其の實數は廿萬以上と推算されてゐる。最近は事變の影響を受け、支那難民の遁入により更に人口を増してゐる。

三、政治、財政及び軍備

政治・財政

澳門は總督の支配下にある自治植民地で、市部二區中一は支那人街である。一九三八年度歳出入五、三九八、二一七弗で、主要財源は賭博税・阿片專賣利益（兩者にて全額の約六割を占む）である。本國に對する植民地債は二八、五〇二、七〇〇エスクードとなつてゐる。

軍備 駐屯軍は支那事變前、陸軍に於ては歩兵三箇中隊（葡・支・黑人各一）、機關銃隊（高射機銃・裝甲自動車二台を有す）、野砲兵・要塞砲兵各一箇中隊、將校二、下士官兵五一を有してゐたが、最近は總數二千内外に増加した。海軍勢力としてはスループ二・砲艦一・河用砲艦二が配屬され、又航空隊はタイパ島に在りて英國製小型水上機四機を有するに過ぎない。

四、産業及び貿易

澳門に於ける主なる製造工業は鹹魚（年額約五百萬弗）、爆竹（約百五十萬弗）、線香（約百五十萬弗）、燐寸（約百萬弗）、果實罐詰、油脂類、菓實、襪衣、靴下等であり、近時セメント・煉瓦工場が勃興しつつある。

貿易

貿易は通過貿易を主とし、一九三七年に於ける貿易額次の通りである。（一元＝一志二片半＝一香港弗として）

(一) 輸入總額 一九、八〇五、四五七香港弗

輸出總額 一五、五二六、三三二香港弗

(二) 右の内香港との取引はその大部分を占め左の通りである。

輸入額 一七、一〇七、八四四香港弗

(雜貨・油脂類・織物・煙草・紙類・食料品・金屬・藥品類等)

輸出額 一一、五〇九、七九〇香港弗

(雜貨・食料品・鑽石・油脂類・被服類・煙草・酒類等)

(三) 支那領との取引は次の如し。

輸入額 三、六九七、六一三元

(家禽・鮮魚・木炭・果實・齒刷子等)

輸出額 四、〇一六、五四二元



(食料品・鹹魚・木材・油脂類・石炭等)

澳門に於ける通貨としては、上述、パンコ・ナシヨナル・ウルトラマリーノ(支那名「大西洋海外分局銀行」)がチモールと同じシステムで、香港弗と同價値のパタカ紙幣の發行權を有し、又植民地政府發行の銀・銅補助貨幣があるが、香港弗及び支那銀貨も廣く通用してゐる。支那銀貨を、パタカ紙幣又は香港弗に換算する場合、その名目價値の七〇%を以てしてゐる。

### 五、交通及び通信

澳門は香港より四〇哩、廣東より八八哩に位置し、事變前は香港との間に英・支船による毎日三航海の船便があり、廣東との間にも定期航路があつたが、現在では香港との間は毎週航海、廣東との間は軍運送船による定期連絡が行はれてゐる。

澳門港は内港・外港に分たれ、前者は河川用船舶並に漁船用、後者は大型船舶の爲に用ひられるが、共に水深不充分で設備も不完全である。近時築港・埋立工事に努力しつつあるが、未だ言ふに足る實績を見てゐない。(一九二六年に竣工した澳門東側埋立地の一部及び之に面する外港の一部海面は汎米航空路の空港として使用されてゐる。)無線電信所二箇所(政府所有及び汎米航空會社所有)あり、又有線電話線の延長は一八九杆である。

## 太平洋二千六百年史終

港灣

航空

本	七 辺民元ヲ侵ス 八二 元寇 (正安三) 一〇 元寇 (弘安四) 一〇 蒙古襲來 (文永十)	一五五 西共和國成立 一五七 獨逸共和國成立 一五九 一七 一八一 一七
東洋 (括弧内ハ西曆ヲ示ス)	那日本府設置(崇禎七) 國ニ造船ヲ入ル(崇禎十七) 五四 昆明池ヲ水戰練習前二〇 四六七 箕子朝亡ト朝鮮ヲ吞ム前八四 四九 垓下ノ戰 (前二〇二) 四四七 長城増築 (前二二四) 四五 秦始皇即位 (前二四六) 三四三 迦谷關ノ戰 (前三一八) 二五〇 孟子生ル (前二七二) 二六 戰國時代始 (前四〇三) 一八四 釈迦入滅 (前四七七) 一七九 孔子没ス(前四七九) 一七九 吳越和ス(前四八二)	五二 漢王次ホ王戰争(前二八) 四三 漢王次ホ王戰争(前二八) 四二 エカテ海戰 (前二四) 四二 ドレバナム海戰 (前二四九) 四〇 エカテ海戰 (前二四九) 四〇 ミレ海戰 (前二六〇) 三五七 漢王次ホ王戰争 (前二四) 一八二 サラミス海戰 (前四八〇) 一三九 カルガノ獨立國ナル(前五三〇)
西洋 (括弧内ハ西曆ヲ示ス)	前四三 リンドコルガ海戰(前四三) 前四三 リンドコルガ海戰(前四三)	前四三 リンドコルガ海戰(前四三) 前四三 リンドコルガ海戰(前四三)

(大島良之助案)





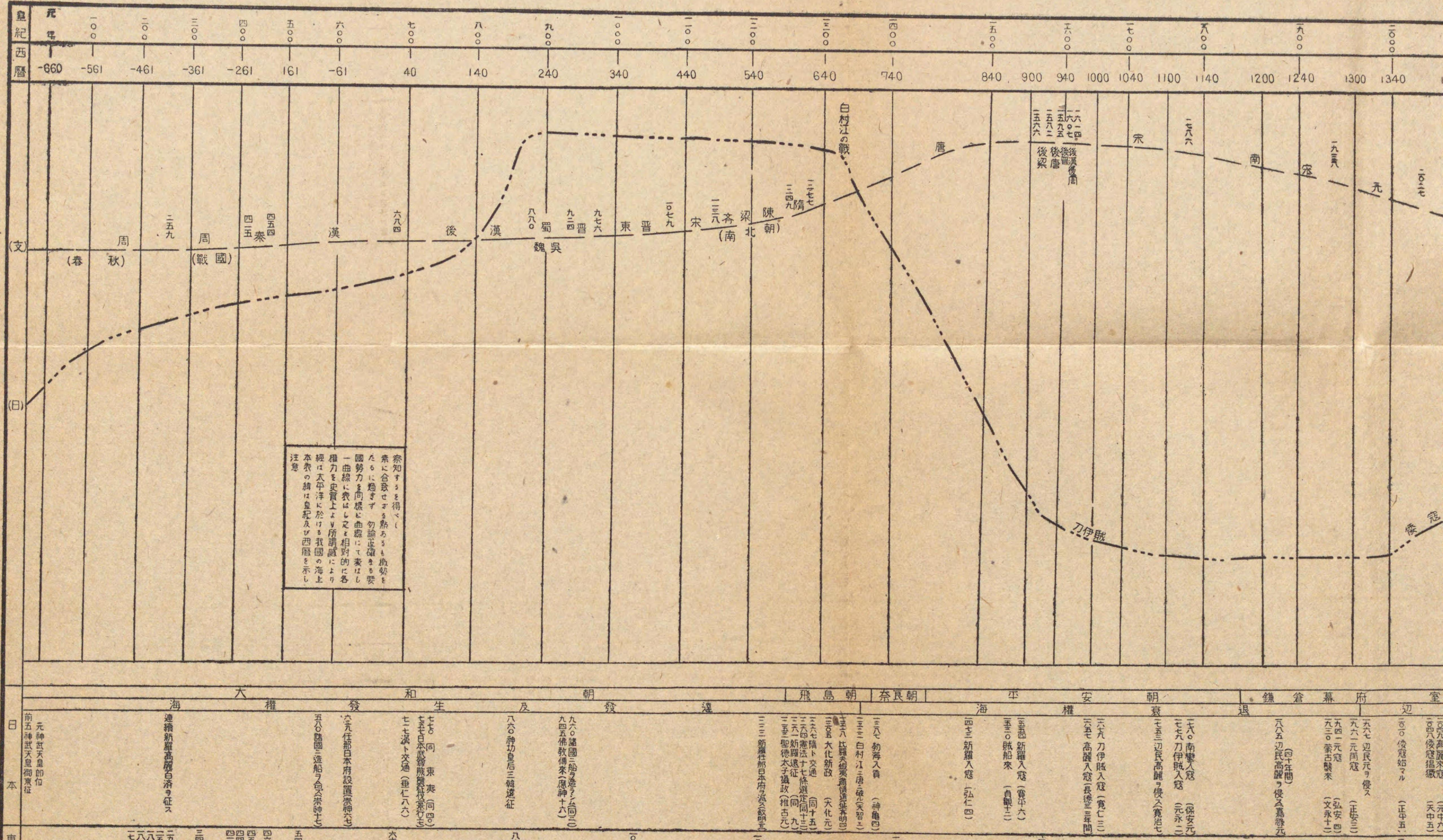






附表第一

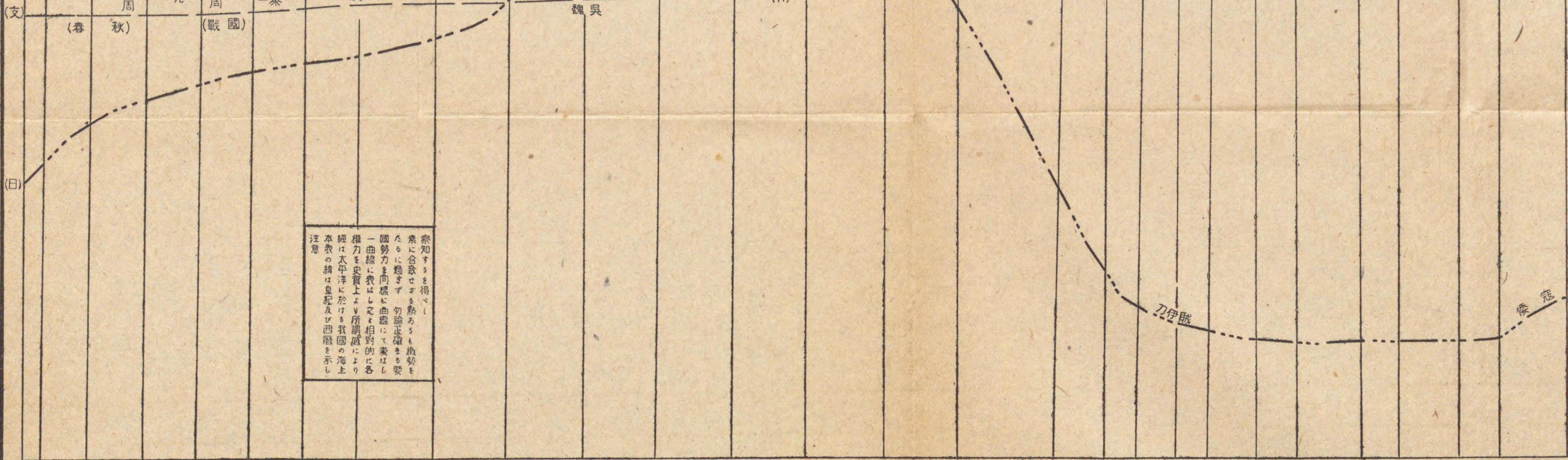
太平洋ニ於ケル列國海上權力ノ消長



察知するを得べし  
 素に合致せざる點あるも趨勢を  
 たんに懸す。勿論正確なる要  
 國勢力を同様と曲線にて表はし  
 一曲線に表はしと相對的に各  
 權力を史實上より所謂感により  
 概は太平洋に於ける我國の海上  
 本表の續は皇紀及び西曆を示し  
 注意



平洋ニ於ケル列國海上權力ノ消長



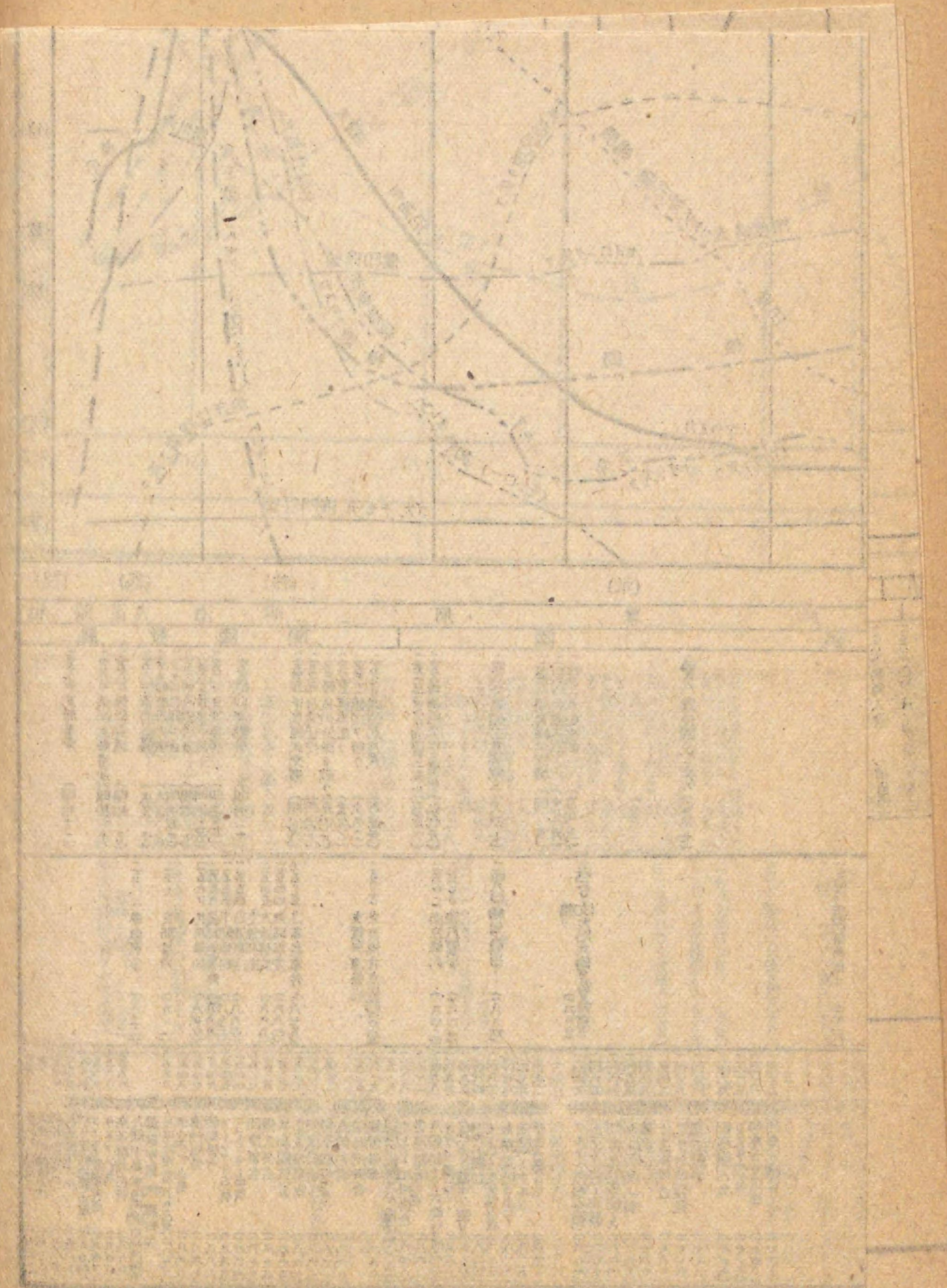
察知するを得べし  
素に合致せざる點ありしは、趨勢を  
たゞに懸念す。勿論正確なる要  
國勢力を向標と曲線にて表はし  
一曲線に表はしと相對的に各  
權力を史實上より所感により  
標は太平洋に於ける我國の海上  
本表の線は皇紀及び西暦を示し  
注意

室邊	府	幕	倉	鎌	退	安	平	海	奈良朝	飛島朝	邊	發	朝	及	生	和	發	大	海	
二〇五二高麗王朝鮮トナル 二〇五九高麗來寇 (元中六) 二〇八八倭寇猖獗 (天中五) 二〇〇倭寇始マル (正平五) 二〇〇明國防ニ努メ水軍ヲ整ヘ	一八〇岳飛金ヲ破ル (一一四〇) 二〇〇スロイ大海戰 (一一四〇) 一九九六年戰爭 (一一三九)	一九〇蒙古高麗ヲ討ツ (一一〇七) 一五五マルボロ元ニ入ル (一二七五)	一八〇岳飛金ヲ破ル (一一四〇)	一五八〇英海軍基礎定ル (九〇〇)	一四八七英王國建國 (八一七)	一五八〇渤海滅ビ (九三二) 一五六〇英海軍基礎定ル (九〇〇)	一四八七英王國建國 (八一七)	一四八七英王國建國 (八一七)	一四八七英王國建國 (八一七)	一四八七英王國建國 (八一七)	一四八七英王國建國 (八一七)	一四八七英王國建國 (八一七)	一四八七英王國建國 (八一七)	一四八七英王國建國 (八一七)	一四八七英王國建國 (八一七)	一四八七英王國建國 (八一七)	一四八七英王國建國 (八一七)	一四八七英王國建國 (八一七)	一四八七英王國建國 (八一七)	一四八七英王國建國 (八一七)

(大島良之助案)



航空 港灣



〔附表第二〕

甲、開國時代の偉人

海外發展の偉人 (附著名漂流者)

姓	名	郷里、家系等	経歴
松	前季廣	若狭武田氏の支族 蝦夷松前領主(若狭守)	天文の初、蝦夷地を開拓し、松前に住す。
小笠原	貞頼(彦七郎又七郎)	信濃深志の城主(民部大輔)	文祿二年朝鮮征伐に従軍し軍檢使たり。 小笠原島を發見す。
原田	孫七郎	出身不明 秀吉の臣	天正の初、呂宋に往來しマニラに住し西班牙語に通ず、天正十八年秀吉に呂宋經略を具申し、文祿二年自ら同地に赴きしも秀吉中逝し初志を達せず。
呂宋	助左衛門(魚屋)	泉州堺の魚商人 納屋氏又は茶屋	呂宋を攻掠して巨利を博し、文祿三年七月二十日歸朝す、歿年不詳。
島井	宗室(茂勝徳太夫虚白軒端翁)	博多の富豪、茶人	朝鮮呂宋支那暹羅に交易し、支店を諸港に置く、天正十八年六月十五日秀吉の内命により博多より釜山に航し朝鮮の地理を精査し十二月歸朝復命す、大正五年四月十一日贈從五位。
伊達	政宗(梵天丸後藤次郎孫二郎)	仙臺藩主 永祿十年八月生	羅馬に使節を送り陰に國勢を調査せしむ。寛永十三年五月二十四日歿(年七十)。 大正七年十一月贈從二位。
支倉	常長(幼名與市六右衛門)	仙臺藩士、大御番組 伊達政宗の臣	慶長十八年九月十五日陸奥牡鹿郡月浦發(隨行六十八人)。 同十九年一月廿五日アカブルコ著 九月十二日ローマ著

附表



濱田 彌兵衛(兄)	長崎の船頭(貿易商)	元和元年十月三十日マドリッド著
同 小左衛門(弟)	末次平藏の配下	同 六年八月廿八日呂宋便船により月浦歸著。
山田 長政(仁左衛門)	駿河安倍郡藁科郷の農夫(又は伊勢とも云ふ)	元和八年七月一日歿(年五十二)
津田 又左衛門	長崎の人	寛永五年臺灣の和蘭甲比丹を懲す。
木谷 久左衛門	長崎の人(又は和泉とも云ふ)	大正四年十一月贈從五位
角屋 七郎兵衛(榮吉)	慶長十五年三月伊勢松坂に生る。	年二十七にして密航し臺灣運羅に至り、寛永二年運羅に雄飛し六昆侯となる、寛永十年毒殺せらる。
荒木 宗太郎	熊本の士 本名 藤原一清 (後ち惣右衛門と改む)	山田長政と共に運羅に在り、寛永四年長崎に歸り運羅通事として畢る。
關 某	丹波篠山藩士	商業のため運羅に渡り、日本人退去の際捕へらる、爪哇人襲來の時、八巨象に石火箭を附して敵を攻め之を破る。
米澤 徳兵衛(通稱天竺)	元和五年播州加古郡船頭町(高砂)に生る。	慶長の頃安南に往復し、長政時代に互利を博し、寛文十二年一月九日歿す。

乙、鎖國時代の偉人 (附 著明漂流者)

松倉 豊後守重正(九一郎)	大和國添上郡高田の人 肥前島原の城主	家康より天主教珍滅を命ぜられ、呂宋征討の雄志を懐きしも寛永七年急死す。
紀國屋 文左衛門(文吉)	紀州加田浦の人 俳號 千山	太平洋の航海により巨利を博す。 享保十九年二十四日歿。(年六十六)
鄭 成 功	泉州人芝龍の子 母は平戸の人	明朝の忠臣、臺灣を征服す。 寛文二年(西曆一六六二)歿。(年三十九)
伊能 忠 敬	延亨二年正月生 下總武射郡小塊村の人 神保貞恒の第三子	寛政十二年四月十四日蝦夷測量(年五十六)。 同 和 元年三月三日伊豆半島以東測量。 同 二年 出羽より越後海岸測量。 同 三年 伊豆以西尾張測量。 同 四年 日本地圖作成(年六十)。 文政 四年四月十三日病歿(年七十七)。
間 宮 林 藏(倫宗)	常陸筑波郡上平柳村の人	文化五年七月十三日樺太測量(年二十六)。
近藤 重藏守重(正齋)	幕 臣	寛政十一年七月十一日江戶に歸る。 弘化二年二月二十六日深川にて歿。(年六十五)。 明治三十七年四月二十二日贈正五位。
高 田 屋 嘉 兵 衛	兵庫の船主 尾張の人	寛政七年長崎奉行手附 同 十年蝦夷巡視 文化十二年六月十六日病歿(年五十九)。 明治四十四年八月贈正五位。 寛政十一年幕命によりカムチャツカ方面に活動す。 文政十四年八月贈正五位。



錢屋五兵衛 <small>(俳名龜集)</small>	加賀石川郡宮腰浦 <small>(今の金石)の船商</small>	嘉永の頃米露と密貿易を行ひ巨利を博す。嘉永五年卒死。 <small>(年八十)</small>
孫 七 <small>(伊勢丸)</small>	筑前志摩郡唐泊浦の人 伊勢丸千六百石積	寶曆十二年十月十九日船頭十右衛門以下二十名鹽屋沖よりボルネオに流さる。明和七年八月二十六日唐泊に歸る。 <small>(九ヶ年)</small>
大黒屋幸太夫 <small>(神昌丸)</small>	伊勢白子浦の人	天明二年十二月十三日上乗左次郎以下十七人駿河沖より露領アミシツカ島に漂流。 寛政四年九月三日根室歸著。
船頭左平 <small>(若宮丸)</small>	仙臺の人	寛政五年十一月廿一日舟子十六人と共に石巻發奥州岩城附近海上よりアリユシヤンに漂流。 文化元年九月六日南米經由布哇より長崎歸著。
中濱萬次郎	土佐幡多郡中濱浦の漁夫 悦介の第二子	天保十二年一月五日漁夫五名高岡郡宇佐浦より出漁し漂流して十三日無人島著。十七人中十五人殺害され二人は露都に行きしも歸らず。 嘉永四年上海經由一月三日那覇歸著。 明治三十一年十一月十二日病死。
ササ及びびゴンサ	薩摩の人	享保十四年勘察加東岸に漂著。十七人中十五人殺害され二人は露都に行きしも歸らず。
竹内徳兵衛	佐井港の船頭 千二百石積船	延享元年勘察加に漂著し彼地にて一部は役人となり全部客死す。
船頭津太夫 <small>(若宮丸)</small>	寒風澤の船頭 八百石積船	寛政五年石巻沖より十六人乗組みアリユシヤン列島オンテレーツケ漂著、文化元年歸朝。
繼右衛門 <small>(慶祥丸)</small>		文化元年漂流。 文化三年千島經由歸朝。

五郎次	擇捉の番人	文化四年漂流。 文化九年歸朝。
喜三右衛門 <small>(永壽丸)</small>		文化十年漂流。 文化十三年歸朝。
長右衛門 <small>(賢乘丸)</small>		文化十二年漂流。 文化十三年歸朝。
壽三郎		天保二年クウイン・シャロット島 <small>(米國西岸)</small> 漂著、米・英・澳門經由歸朝。
某		弘化二年日本北海より漂流。 同年米國捕鯨船にて浦賀歸著。
紀州の長助		嘉永三年米國に漂著。

右の外、元祿の末、寶永、享保に漂流者相當あるも記事正確を缺く。



附 表	洋 平			
	大	亞		
	新西 洲 (英)			
	ジウバジエハカサグ布内 ヨエルンウンモア哇 ンヤダラトア南 スミカトア南 トラスビド諸 ン 島島島島島島島洋	印 度 チ 澳 洲 モ ガダゴ ル ウマ 島 東	東 印 度 バモバリニチセボス瓜 ンカリモレルマ 州 リカリンギベネト 島ッピンガニ ロカリガニ ン諸 諸 島島島島島島島	廣 州 シマカボヤ度 ン リジナ 支 カエオ リ ガ ル エ ル ン 那
	(米)	(葡)	(蘭)	
	(日委)		(佛)	

七

太	部 東 洋 平 太			地 區			
	細 亞	米 南	米 中		北 米		
泰 國 (舊暹羅)	滿 洲 國	日 本			君 主 政 立 國		
蘇 聯 邦	中 華 民 國		チベ エ ク ロ リ ド ル ア	パコニ ス ナ リ マ カ	メ ホ グ メ ン ア キ テ シ マ ラ コ	米 國 合 衆 國	共 和 政 國
	(半 獨 立)	比 律 賓 (米)			カ ナ ダ (英)	自 治 領 屬	
九 香 海 馬 比 錫 印 香 サブ 北 海 馬 比 錫 印 ラ 爾 來 蘭 島 度 ボ 峽 來 聯 邦 及 保 護 州 ル 殖 民 地 ▼ 尼 民 地			イ ー ス タ ー 島 (智)	ガ ラ バ ゴ ス 島 (エ ク ワ ド ル)	パ ナ マ 運 河 地 帯 (米)	ア ラ ス カ (米)	其 他 領
龍 港 クイオ地							(英)

〔附表第三〕

太平洋沿岸獨立國及び屬領

附 表

六







附表

五二	九〇	一〇五	一二〇	九一	九七	七三	九八	六二	七〇	七六	一〇二	八九	九九	九七	九七	一〇八	八一
嵯峨	龜山	後奈良	仁孝	後宇多	後村上	堀河	長慶	村上	後冷泉	近衛	後花園	後深草	後小松	後龜山	後光嚴	後村上	後東山
弘長	治化	安國	興和	曆保	平治	正元	應永	康安									元曆
一四七〇	一九二一	二二一五	二五〇四	一九三八	二〇〇〇	一七五九	二〇三九	一六二四	一七一八	一八〇二	二一一五	一九一六	二〇四九	二〇〇二	二〇二一	二二七五	一八四四
六六	一一〇	九七	一一四	一〇二	八六	八三	九〇	九六	八九	九二	九三	四八	四五	九九	五五	九八	九八
一	後光明	後村上	中御門	後花園	後堀河	土御門	龜山	後醍醐	伏見	後伏見	稱徳	聖武	後龜山	後醍醐	文德	長慶	弘和
曆保	平德	長中	治元	正嘉	應安	神護	神龜	至徳							齊衡	弘和	二〇四一
一六五〇	二三〇四	二〇〇六	二三七一	二〇八八	一九八四	一八五九	一九九二	一九一七	一九四八	一九五九	一四二七	一三八四	二〇四四	一五二四	二〇四一	二〇四一	二〇四一
五一	七五	一二三	一〇四	八一	四一	二四	五四	七二	七二	六一	七三	八三	八四	一一〇	八〇	六〇	九五
平崇	大正	孝德	後柏原	安持	今上	仁明	白河	朱雀	堀河	土御門	順徳	後光明	高倉	醍醐	花園	正和	承昌
同治	正化	永	大	壽	朱鳥	昭	和	和	曆保	平德	元久	應安	泰	和			
一四六六	一七八六	二五七二	一三〇五	二一八一	一八四二	一三五六	二五八六	一四九四	一七三七	一七三四	一五九一	一七五七	一八六七	一八七九	二二二二	一八三一	一五五八

附表

一〇八	一一九	一〇五	一一四	一〇二	七六	八六	九六	七三	八七	五四	七三	九四	九九	一〇二	八〇			
後水尾	光格	後奈良	中御門	後花園	同右衛門	近衛	後醍醐	堀河	四條	仁明	堀河	後二條	後龜山	後花園	高倉	嘉應		
寬永	和祿	保德	享壽	久安								嘉元	嘉慶	嘉應				
二二八四	二四六一	二一八八	二三七六	二一一二	一八一四	一八〇五	一八八五	一九八六	一七五四	一五〇八	一七六六	一九六三	二〇四七	二一〇一	一八二九	一八二九		
八三	一〇七	一二	四二	一一〇	九七	六五	一一五	五九	一一一	六八	六九	七三	一一九	一〇二	六八	八六	一一六	
土御門	後陽成	孝明	文武	後光明	後醍醐	崇光	花山	櫻町	宇多	後西院	後一條	後朱雀	堀河	光格	後花園	後醍醐	桃河	
建永	長應	雲	安	慶	和保	平文	仁德	治政	正弘	元喜	延						寬延	
一八六六	二二五六	二五二五	一三六四	二三〇八	一六四五	二四〇一	一五四九	二二二一	一六七七	一七〇四	一七四七	二四四九	二一二〇	一六六四	一九〇三	一八八九	二四〇八	
一一五	八六	九六	九九	一二一	九六	五七	九六	八三	一〇六	九六	七四	九四	八四	九六	八三	九九	八九	八二
櫻町	後醍醐	後龜山	孝明	後醍醐	陽成	後醍醐	土御門	正親	後醍醐	鳥羽	後二條	同右	順徳	後醍醐	土御門	後龜山	後深草	後宇多
文仁	德中	治弘	慶享	久龜	應永	元曆	保武	仁德	長治	久								建久
二三九六	一八八四	一九八九	二〇四四	二五二四	一九九一	一五三七	一八六一	二二三〇	一九七九	一七七八	一八七二	一八七一	一九九四	一八六一	二〇三〇	一九〇九	一九三五	一八五〇



八六	八七	六七	一〇二	六九	六六	七三	七五	六八	七八	一〇三	六九	七〇	八〇	六八	四二					
後堀河	四條	三條	後花園	後朱雀	同右	堀河	崇徳	後一條	二條	後土御門	後朱雀	後冷泉	高倉	後一條	文武					
貞				長						長			治	大寶						
應永		和祿	曆保	德治	承元	寛享	久曆	承安												
一八八二	一八九二	一六七二	二一七	一六九七	一六五九	一七六四	一七九二	一六八八	一八二二	二一四七	一七〇〇	一七二五	一八三七	一六八一						
四六	四五	七四	六二	五三	七五	九八	七五	一〇六	六四	六一	七〇	五〇	六四	七四	五五	九七	九七	六四	五六	一一二
〇孝謙	聖武	鳥羽	村上	淳和	崇徳	長慶	崇徳	正親町	圓融	朱雀	後冷泉	桓武	圓融	鳥羽	文徳	後光嚴	後村	後圓融	清和	靈元
天平感寶	平仁	徳長	治授	承正	元慶	喜應	延永	安和	天	天	天	天	天	天	天	天	天	天	天	天
一四〇九	一三八九	一七六八	一六一七	一四八四	一七八四	二〇三五	一七九一	二二三三	一六三八	一五九八	一七一三	一四四一	一六三三	一七七〇	一五一七	二〇〇五	二〇二二	一六三六	一五一九	二三四四
七六	五八	八七	五五	七九	九四	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一
近衛	光孝	四條	文徳	六條	後二條	後一條	後一條	後一條	後一條	後一條	後一條	後一條	後一條	後一條	後一條	後一條	後一條	後一條	後一條	後一條
平	和	治	壽	安	徳	治	徳	治	徳	治	徳	治	徳	治	徳	治	徳	治	徳	治
一八一	一五四五	一九〇〇	一五一	一八二六	一九六六	一八二六	一八二六	一八二六	一八二六	一八二六	一八二六	一八二六	一八二六	一八二六	一八二六	一八二六	一八二六	一八二六	一八二六	一八二六

八七	一〇三	九五	九八	八二	一〇二	一〇三	一一九	一一一	一〇四	九〇	一〇二	四〇	三六	三六
後土御門	四條	花園	長慶	後鳥羽	仁孝	後土御門	光格	孝明	後柏原	同右	龜山	後花園	文	孝徳
曆明	保中	治政	正化	久龜	應永	安								
一八九四	二二二九	一九七七	二〇三二	一八四五	二四七八	二二二六	二四六四	二五二一	二一六一	一九二〇	二一〇四	一九二四	一三三〇	一三二〇
六八	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一
後一條	孝明	桃園	後花園	後深草	光仁	東山	後白河	崇徳	鳥羽	鳥羽	鳥羽	鳥羽	鳥羽	鳥羽
萬壽	延	曆	徳治	龜永	元	延	安	平治	平治	平治	平治	平治	平治	平治
一六八四	二五二〇	二四一一	二一〇九	一九〇七	一四三〇	二二六四	一八一六	一七九五	一七八〇	一七八〇	一七八〇	一七八〇	一七八〇	一七八〇
四三	四四	八七	九六	八一	四四	八一	四四	八一	四四	八一	四四	八一	四四	八一
〇元明	〇元正	四條	後醍醐	安徳	〇元正	安徳	〇元正	安徳	〇元正	安徳	〇元正	安徳	〇元正	安徳
和銅	靈龜	仁	養老	和	養老	和	養老	和	養老	和	養老	和	養老	和
一三六八	一三七五	一八九八	一九九八	一八四一	一三七七	一八四一	一三七七	一八四一	一三七七	一八四一	一三七七	一八四一	一三七七	一八四一



[附表第五]

太平洋諸國通貨一覽

國別	單位名稱	1936年爲替平均率 (圓基準)	備考 (邦貨爲替相場は昭和十二年の平均なり)
日本	圓 (Yen)	1.00000	昭和八年(1933)八月以降爲替管理 公定相場 1圓=(英)1志2片 昭和十年(1935)十二月以降爲替管理 公定相場 1圓=(日)1圓
滿洲國	圓 (Yuan)	1.00000	公定相場 1圓=(日)1圓
中華民國	元 (Yuan)	1.04318	公定相場 1元=(英)1志2.5片
香港	弗 (Dollar)	1.11216	1弗=1.06945圓
佛領印度支那	ピアスター (Piaster)	2.07000	1ピアスター=0.01400圓
暹羅	バート (Baht)	1.58497	公定相場 實(英)1磅=11.20ピアスター =10.80
馬來	海峽弗 (Straits Dollar)	2.01465	法定比價 1海峽弗=(英)2志4片 1海峽弗=2.01389圓
英領印度	留比 (Rupee)	1.29560	法定比價 1留比=(英)1志6片 1留比=1.29167圓
比荷律	ペソ (Peso)	1.73516	法定比價 1ペソ=(米)50仙 1ペソ=1.73611圓
葡萄牙領各地	P. \$ (Pataca)	1.08696	1 P. \$ = 7 Escudo = 1.08696圓 1 Escudo = 0.15538圓
英領ボルネオ 領印度 蘭領印度	海峽弗 (Straits Dollar) 盾 (Guilder) 又は フロリン (Florin)	2.01465 2.22336	法定比價 1海峽弗=(英)2志4片 1盾=1.90403圓
濠洲	濠洲磅 (Australian Pound)	13.71040	公定相場 125濠洲磅=(英)100磅 1濠洲磅=13.68056圓
新西蘭	新西蘭磅 (N. Z. Pound)	13.74540	1932年12月以降爲替管理 1新西蘭磅=13.79167圓

北米	中米	南米	歐
カナダ	メキシコ	コロロン	蘇聯
カナダ弗 (Canadian Dollar)	クェツァル (Quetzal)	ペソ (Peso)	聯邦
3.45470	—	1.88300	留磅 (Rouble)
法定比價 1カナダ弗 1弗=(米)1弗 平均相場 4.97弗=(英)1磅	1.37840	0.32920	磅 (Pound)
1弗=3.45833圓	1.68920	0.85940	
貨幣法 1ペソ=(米)0.884弗	1.33300	0.17660	
1ペソ=0.94444圓	0.55750		
公定相場 1クェツァル=(米)1弗	—		
1クェツァル=3.45834圓			
平均相場 2.5コロソ=(米)1弗			
1コロソ=1.37500圓			
1934年6月以降爲替管理			
法定比價 1レムピラ=(米)0.5弗			
1レムピラ=1.72917圓			
1931年11月以降爲替管理			
公定相場 1.10コロソ=(米)1弗			
1コロソ=3.14393圓			
1930年12月以降爲替管理			
法定比價 4.5コロソ=(米)1弗 平均相場 6.18コロソ=(米)1弗			
1コロソ=0.55966圓			
1コロソ=0.55966圓			
名目平價 1バルボア=(米)1弗			
1バルボア=3.45833圓			
1931年9月以降爲替管理			
法定比價 1.13ペソ=(米)1弗 平均相場 1.83ペソ=(米)1弗			
1ペソ=1.94445圓			
1936年7月以降爲替管理			
公定相場 10.5ヌクレ=(米)1弗			
1ヌクレ=0.29944圓			
平均相場 4.02ソル=(米)1弗			
1ソル=0.89375圓			
1931年7月以降爲替管理			
法定比價 1ペソ=(英)1.5片 平均相場 28.59ペソ=(米)1弗			
1ペソ=0.13292圓			
爲替管理			
法定比價 1留=(佛)4法			
1留=0.66361圓			
平均相場 1磅=(米)4.97弗			
1金留=4.38新留			
1磅=17.11111圓			



種 別	國 名	度	量	衡
佛 獨 和	法 (France)	メートル (米)	0.20700	1 法 = 0.14000 圓
	ドイツ (Reichs Mark)	キロメートル (料)	1.39530	1 ライヘンマルク = 1.38839 圓
日 本	リッ (Florin)	リットル (立)	2.22180	1 盾 = 1.90403 圓

〔附表第六〕

太平洋各地度量衡一覽

種 別	國 名	度	量	衡
メートル法	メー	メートル (米)	三・三 尺	グラム (瓦)
	キロ	キロメートル (料)	九町十間 〇・二五四三 里	キログラム (尪)
平方	アール	アール (阿)	リットル (立)	キントナル (百尪)
	ヘクタール	ヘクタール (陌)	ヘクト・リットル (碩)	メートル噸 (尪)
尺	尺 (十寸又は)	尺 (十寸又は)	立方尺	斤 (十兩又は百錢)
	引 (百尺)	引 (百尺)	ト (施)	擔 (百斤)

種 別	國 名	度	量	衡
支 那	支	尺	四町三十五間 五〇〇 米	斤
	丈	丈 (十尺又は百寸)	〇・八四〇五 步	斤
泰 國	ワ	ワ (二ケン)	〇・三七八六 平方尺	擔 (百斤)
	セン	セン (二〇ワ)	一・〇〇三三 段	擔 (百斤)
同	カ	カ (四〇〇)	一〇〇 阿	斤
	コ	コ (百又は一六〇)	一〇〇 立	斤



英里 (哩)	〇・四七五里	クオート (1/4 呷)	六・三〇三合	ロングトン (重噸)	二七〇・九四六貫
マイル (哩)	一六・九四町	ガロン (呷)	一・三六五立	ポンド	一六九・四二斤
テューン (鎖)	〇・四九里	ベック (二呷)	二・五〇六立	セントラル (百封度)	一〇・二六五斤
ヤード (碼)	一四・七三町	ブッシュェル (物)	四・四五九立	ポンド (封度)	二四〇〇封度
フィート (呎)	一・六〇五町	クォーター (八物)	五・〇〇二立	ストーン (十四封度)	一三・四七三貫
インチ (吋)	六・三三五尺	ラスト (八〇物)	九・〇九二立	オンス (号)	一二・〇九五八匁
エーカー (噓)	二〇・二七六米	ロード (木材)	二・〇二六立	ポンド	七・五九八七匁
平方哩	三〇・七五二尺		二・九〇九立	オンス	二八・三四五五匁
	〇・九四四四米		一・六二八四石		九九・五三二匁
	三〇・四七九七尺		二・九〇九四石		三七五・二四三瓦
	八・三二一八分		二・九〇九四石		八・二九四三匁
	二・五三九九厘		〇・二四六立方尺		三・一〇三五瓦
	四〇・八五七畝				二・七二七七厘
	四〇・四六五阿				六四・七九八九厘
	三二・一五八町				
	二・五八九平方尺				

英里 (哩)	〇・四七五里	クオート (1/4 呷)	六・三〇三合	ロングトン (重噸)	二七〇・九四六貫
マイル (哩)	一六・九四町	ガロン (呷)	一・三六五立	ポンド	一六九・四二斤
テューン (鎖)	〇・四九里	ベック (二呷)	二・五〇六立	セントラル (百封度)	一〇・二六五斤
ヤード (碼)	一四・七三町	ブッシュェル (物)	四・四五九立	ポンド (封度)	二四〇〇封度
フィート (呎)	一・六〇五町	クォーター (八物)	五・〇〇二立	ストーン (十四封度)	一三・四七三貫
インチ (吋)	六・三三五尺	ラスト (八〇物)	九・〇九二立	オンス (号)	一二・〇九五八匁
エーカー (噓)	二〇・二七六米	ロード (木材)	二・〇二六立	ポンド	七・五九八七匁
平方哩	三〇・七五二尺		二・九〇九立	オンス	二八・三四五五匁
	〇・九四四四米		一・六二八四石		九九・五三二匁
	三〇・四七九七尺		二・九〇九四石		三七五・二四三瓦
	八・三二一八分		二・九〇九四石		八・二九四三匁
	二・五三九九厘		〇・二四六立方尺		三・一〇三五瓦
	四〇・八五七畝				二・七二七七厘
	四〇・四六五阿				六四・七九八九厘
	三二・一五八町				
	二・五八九平方尺				



米 國 英 國 = 同 ジ	比 律 賓	印 度 支 那
バレル (乾量) ガロン (液量) ガロン    四クオート    八パイント    三二ジル バレル (液量)	ガンダ トオ トオ    ニホオ	リニヤ (一〇トチカ) ドイム (十リニヤ)
六四〇九四斗 二五・六一七立 二〇九八四六升 三・七八五三立 六六二〇五斗 二九・三二七立	二・二五五升 三・九六立 三・一三九斗 五・五三立	八・三六八厘 二・五五耗 八・七八一分 二・五四厘
ハンドレッド (米本) ウエイト (百封度) ボンド (封度) オンス (号)	ビクル ビクル    百カッチー	ブルト 葡萄酒 イカト 麥酒
二二〇九五九貫 四五・五九七庇 二二〇・九五九匁 四三・五九二匁 七・五四九五匁 二八・三四九八匁 九・五三二匁 三七三・二四二匁 八・三四二六匁 三二・一〇三匁 一・七七九七厘 六四・七八九厘	一六・八六三貫 六三・三四五庇 一六・〇六貫 一六・一〇六匁 六四・〇匁	四・二六三合 〇・七六七立 三・四〇九合 〇・六四九七立
衡 輕 封 度 オンス グレーン	ゴロトニク ドーリヤ カン カン    一六〇ドン	シトフ (クルシカ又ハ) ウエドロ (ナシトフ) ガルネツ チエトウエリク オシミナ チエトウエルチ
三・四二六匁 二・七九七六匁 一〇九・二三匁 四〇九・五二四匁 四・三六八三匁 一六・三六〇四匁 一〇九・〇三匁 四〇九・五二四匁	一六・六〇六石 三〇・〇石 一三・二四匁 四九二・一六七匁 一三二・七五匁 四九四・〇九三匁 二二八ドラク	一・四五四斗 二六・三九立 一・八八一七升 三・三七九立 一・四四八五斗 二六・三九立 五・八一八五斗 一〇四・九五六立 一・一六三五石 二〇九・九二立
ロート フント プード フント (藥量)	ラスト ボンド マボンド    ニマルク    二二八ドラク	ウエルシヨーク フート (呎十二吋) アルシン (二吋六ウエ ルシヨーク) サージエニ (露尋) ウエルステ (露里) 露里    五〇〇露尋    千五百アルシ 平方アルシン 平方ウエルステ デシアチン 立方アルシン
一六・六〇六石 三〇・〇石	一・四六八五寸 四・四四五厘 一・〇〇五四尺 三〇・四八尺 二・三六六尺 七・二二厘 七・四〇八尺 二・三三六尺 七・七七九吋 一・〇六八尺 〇・五〇五八平方呎 〇・五〇五八平方呎 一・四・七四吋 一・三・八〇六吋 一・〇・一六六呎 一〇九・五匁 一・二・八六立方呎 〇・三九七立方呎	一六・六〇六石 三〇・〇石

和 蘭	蘇 聯 邦
ラスト ボンド マボンド    ニマルク    二二八ドラク	ウエルシヨーク フート (呎十二吋) アルシン (二吋六ウエ ルシヨーク) サージエニ (露尋) ウエルステ (露里) 露里    五〇〇露尋    千五百アルシ 平方アルシン 平方ウエルステ デシアチン 立方アルシン
一六・六〇六石 三〇・〇石 一三・二四匁 四九二・一六七匁 一三二・七五匁 四九四・〇九三匁 二二八ドラク	一・四六八五寸 四・四四五厘 一・〇〇五四尺 三〇・四八尺 二・三六六尺 七・二二厘 七・四〇八尺 二・三三六尺 七・七七九吋 一・〇六八尺 〇・五〇五八平方呎 〇・五〇五八平方呎 一・四・七四吋 一・三・八〇六吋 一・〇・一六六呎 一〇九・五匁 一・二・八六立方呎 〇・三九七立方呎



葡 萄 牙	東 印 度		
	マ ラ ッ カ	ボ ル ネ オ セ レ ベ ス	爪 哇
			スマトラ ボ ー
			七・五六町 九・九六五町
アラムデー(液量)	フアネガ(乾量)		
九・四六一升 一六・五立	三・〇六九斗 五・三六四立		
キンタル(四アロバ)	リブラ(ニマルコ)	ビクル	ビクル(百カッチ)
一五・六七三貫 五八・七五三担	一三三・四 五九・〇瓦	一六・二六六七貫 六・〇担	一六・四九五貫 六・七六三担
	ビクル	ビクル	同 右
		コーヤン	四四・六貫 一六七・五担
			一六・四〇七貫 六・五三九担

【附表第七】

主なる参考圖書

第一、歴史篇 第一章

東西交渉史の研究 南海編 昭和 七年 藤田 豊八  
 蒲壽庚の事蹟 同 十年 桑原 騰藏  
 東西交渉史論 上、下巻 同 十四年 史學會編  
 東邦近世史 明治卅三年 田中華一郎  
 支那近代外國關係史 昭和十二年 矢野 仁一  
 瓜哇史 大正十三年 フロイン・メリス夫人著  
 海外交通史話 昭和 五年 松岡靜雄譯  
 日支交渉史研究 同 十四年 辻 善之助  
 十六日歐交通史の研究 同 十一年 岡本 良知  
 日本と和蘭 大正 三年 日蘭協會  
 長崎市史 通航貿易編 昭和 十年 長崎市役所  
 西洋諸國部 貿易史上の平戸 大正 六年 村上直次郎  
 日暹交通史考 昭和 九年 三木 榮

日英交通史の研究 昭和十三年 武藤 長藏  
 朱印船貿易史 大正 十年 川島 元次郎  
 十七世紀に於ける日暹關係 昭和 九年 郡司 喜一  
 開國文化 同 四年 朝日新聞社  
 綜合日本史大系 株外書籍  
 日本歴史 岩波書店  
 日本文化史大系 誠文堂新光社  
 中世南島通交貿易史の研究 昭和十四年 小葉田 淳  
 朝鮮役と我が造船の發達史學雜誌 昭和十四年 渡邊 世祐  
 南洋日本人町の研究 昭和十五年 岩生 成一

近世支那外交史 昭和 五年 矢野 仁一  
 支那近代外國關係研究 同 三年 同 右  
 近代支那史 同 十三年 同 右

第三章



臺灣文化史	昭和三年	伊能嘉矩
近代露支關係の研究	大正十一年	宮崎正義
東邦近世史	昭和十五年	田中粹一郎
東洋近世史(世界歴史大系一)	同 十一年	浦 廉一
同 (同)	同 年	松 井 等
滿洲發達史	同 十二年	稻葉岩吉
爪哇史	同 十一年	松岡靜雄譯
History of the Indian archipelago, Containing an account of manners, arts, languages, religions, institutions and Commerce of it's inhabitants. (Edinburgh, John Crawford, 1820.)		
Java, Sumatra and the other islands of the Dutch East Indies, (London, A. Cabaton, Translated by B. Miall, 1920.)		
Geschiedenis van Java, 2vols. (Wetenreden, W. Fruin-Mees, 1920-1922.)		
The History of Java, (London, Thomas Stanford Raffles, 1817.)		
A brief history of the Philippines, (Boston, Leandro H. Hernandez, 1919.)		

H. Sargent, 1920.)		
Anglo-Chinese relations during the seventeenth and eighteenth Centuries, (London, E. H. Pritchard, 1930.)		
Historie Macao, (Hongkong, M. de Gesus, 1902.)		
Americans in Eastern Asia, (New York, Tyler Dennett, 1922.)		
The history of early relations, between the U. S. and China, 1784-1844. (New Haven, K. S. Latourette, 1917.)		
Voyages of American Ships to China, 1784-1840, (New Haven, K. S. Latourette, 1927.)		
Formosa under the Dutch, described from Contemporary records. (London, Wm. Campbell, 1903.)		
The Island of Formosa, past and present. (London, J. W. Davidson, 1903.)		
Russian expansion on the Pacific, 1641-1850. (Cleveland, F. A. Golder, 1914.)		
The Russians on the Amur. (London, E. G. Ravenst-		

History of Philippine Islands from their discovery, by Magellan in 1521 to the beginning of the XVIII Century, 2vols. (Ohio, A. de Morga, 1907.)		
The Cambridge History of India, Vol. 5, 6. (Cambridge, H. H. Dodwell, 1932.)		
The economic history of India under early British rule, from the rise of the British power in 1757 to the accession of Queen Victoria in 1837. (London, Romesh Dutl, 1908.)		
The rise and expansion of British dominion in India, (London, A. C. Lyall, 1905.)		
Histoire moderne du pays d'Annam, 1592-1820. (Paris, Ch. B. Maybon, 1919.)		
Un empire Colonial Francais, L'Indo-Chine, (Paris, G. Maspero, 1930.)		
International relations of the Chinese Empire, (London, H. B. Morse, 1910-18.)		
The Chronicles of the East India Company trading to China, 5vols. (Oxford, H. B. Morse, 1926.)		
Anglo-Chinese Commerce and diplomacy, (London, G.		

ain, 1861.)		
The Russians on the Pacific and the Siberian railway, (London, Vladimir, 1899.)		

第四章

近代日本外國關係史	昭和五年	田保橋潔著
近世に於ける北方問題の進展	同 三年	末松保和著
維新史	同 十四年	維新史料編纂事務局編
明治維新史研究	同 四年	史學會編
支那制覇戦とアメリカ	同 四年	カントロウイナ著 廣島定吉、堀江邑一譯
シーボルト日本交通貿易史		吳秀三譯
シーボルト最終日本紀行		小澤敏夫譯
維新前史の研究		井野邊茂雄著
新撰北海道史	昭和十二年	北海道廳編
ペルリ提督遠征記		土屋喬雄編 玉城肇譯
幕末の外交	昭和九年	大塚武松
薩藩海軍史	同 三年	島津家編輯所



幕末外交談	明治卅一年	田邊太一著
海軍歴史	同 廿二年	勝 海舟
陸軍歴史	同 廿二年	勝 海舟
近世帝國海軍史要	昭和十三年	海軍有終會編
幕末軍艦咸臨丸	同 十三年	文倉平次郎著
幕末に於ける我海軍と和蘭	同 四年	海軍有終會編
徳川慶喜公傳	大正 七年	澁澤 榮一
黒船前後	昭和 八年	服部 之聰
Correspondence respecting Affairs in Japan, (Great Britain, 1859-66.)		
Papers relating to Foreign Affairs, (Diplomatic Correspondence) U. S. Department of State, 1861-68.		
Western Barbarians in Japan and in Formosa in Tokugawa days (Pasko-Smith, 1930)		
The life of Sir Harry Parkes. (F. V. Dickins and S. Lane-Poole, 1894.)		
A Diplomat in Japan, (Ernest Satow, 1921.)		
<b>第五章</b>		
西力東侵史	明治卅五年	齋藤 阿具
最新世界植民史	昭和 九年	大鹽 龜雄
支那制覇戦と太平洋		カントロウィツチ原著 堀江邑一、廣島定吉譯
近世支那外交史	昭和 四年	矢野 仁一
世界文化史大系大戦前の世界	同 十四年	新光社版
支那邊疆と英露の角逐	同 十年	入江啓四郎
綜合日本大系(12)明治時代	同 九年	藤井甚太郎 森谷 秀亮
日本政治史大綱	同 十一年	今中 次麿
明治政史(明治文化全集) (第二、三卷)	同 四年	指原 安三
續日本經濟史概要	同 十四年	土屋 喬雄
日本資本主義發達史概説	同 十二年	土屋 喬雄 岡崎 三郎
近世帝國海軍史要	同 十三年	海軍有終會
大日本外交文書	同 十一年	外務省調査部
最近極東外交史	同 六年	偕 行 社
明治大正史(2)外交編	同 五年	朝日新聞社

世外井上公傳	昭和 五年	井上侯傳記 編纂會
明治史 第三編 外交史	明治卅八年	博文 館
小笠原諸島(歴史地理) の回收問題(第卅九、四十卷)	大正十一年	田保橋 潔
明治政府と(同卅四卷) 小笠原諸島(第卅四卷)	昭和 九年	津 下 剛
日本近世外交史	同 十三年	渡邊 幾治郎
邦人海外發展史	同 年	入江 寅次
The History of Colonization. (1908, H. C. Morris.)		
Die territoriale Entwicklung der Europäischen Kolonien, (1906, A. Supan.)		
Imperialism. (1902, J. A. Hobson.)		
The Far East in World Politics. (G. F. Hudson.)		
The international relations of the Chinese Empire, (1918, H. B. Morse.)		
British Foreign Policy from 1815-1933. (1934, W. Edward.)		
Diplomatic Relations between the U. S. A. and Japan (1932, P. J. Treat.)		

Far Eastern International Relations. (1931, Morse and Mc. Nair.)

**第六章、第七章**

帝國外交の基本政策	昭和十三年	鹿島守之助
歐洲近世外交史下卷	同 十年	林 毅 陸
最近世界外交史中篇	同 九年	芦 田 均
二大外交の真相	同 三年	信夫 淳平
魂の外交	同 十三年	本多 熊太郎
外交餘録	同 五年	石井 菊次郎
加藤高明 上、下	同 四年	加藤伯傳記 編纂會
公爵桂太郎傳 乾、坤	大正 六年	徳富 猪一郎
列國の對支投資	昭和九年	シム、エフ、レーマー著 東亞經濟調査局譯
日露戦争と(ウイット伯回想) 露西亞革命(記 上、中、下)	昭和十一年	ウイット伯著 大竹博吉譯
高橋是清自傳	同 三年	高橋 是清
最近世界植民史	同 三年	大鹽 龜雄
近世植民史	大正 七年	拓 植 局



- 支那制覇戦と太平洋上、下、昭和十三年  
カントロウイチ著  
廣島定吉、堀江邑一共譯
- 明治時代の經濟  
 大内 兵衛
- 明治工業史造船、鐵鋼、機械篇  
 日本工學會
- 明治大正史外交、經濟篇  
 朝日新聞社
- 日本貿易精覽  
 昭和十年 東洋經濟社
- 續日本經濟概要  
 同 十四年 新報
- 日本產業及貿易之大勢  
 明治四十四年 土尾 喬雄
- 日本近世外交史  
 昭和十三年 會議 濱商會
- 外交論  
 渡邊 幾治郎
- 邦人海外發展史上、下卷  
 昭和十三年 信夫清三郎
- 本邦人口増加の傾向及び  
 同 十年 入江 寅次
- 數量的變動に就いて  
 同 十年 人口問題會
- Japanese Immigration (Raymond Leslie Buell, 1924.)
- Far Eastern International Relations, (Boston, 1931.)
- Foreign Rights and Interest in China, 2Vols. (Baltimore, W. W. Willoughby, 1927.)
- The Anglo-Japanese Relations, (Baltimore, C. F. Ch-
- ang, 1931)
- Russia and the Soviet Union in the Far East, (New York, V. A. Yakhotoff, 1931.)
- The Russo-Japanese Treaties of 1907-1916, (Baltimore, E. B. Price, 1933.)
- China and the World War, (Stanford University Press, T. E. La Fargne, 1937.)
- Woodrow Wilson and World Settlement, 3vols., (New York, R. S. Baker, 1922.)
- The Diplomatic Relations between China and Germany since 1898, (Shanghai, F. D. Djang, 1936.)
- Diplomatic Relations between U. S. and Japan, 1895-1905, (Stanford University Press, P. J. Treat, 1938.)
- Treaties and Agreements with and Concerning China, (New York, J. V. A. McMurray, 1921.)
- An American Diplomat in China, (New York, P. S. Reisch, 1922.)
- Hawaii and Philippines. (Philadelphia, Frank Forest Bunker, 1928.)
- A. History of Hawaii. (New York, Ralph Simpson Keykendall, 1926.)
- L'Indochine Francaise, (Paris, Henri Russief et Henri Brenier, 1911.)
- History of French Colonial Policy, 1870-1925, 2vols. (London. Stephen H. Roberts, 1929.)
- The Panama Canal, (Baltimore, Darrell Hevenor Smith, 1927.)
- Le Condominium et la mise en valeur des Nouvelles Hebrides. (Paris, Philippe Grignon Dannonin. 1928.)
- Der Nikaragua-Kanal. (Berlin, Kurt Edward Imberg, 1920.)
- Die territoriale Entwicklung der Europäischen Kolonien (Gotha, Alexander Supan, 1906.)
- War Memoirs of Robert Lansing, (New York R. Lansing, 1935.)
- American Diplomacy during the World War, (Baltimore, C. Seymour, 1934.)
- The New Pacific; British Policy and German Aims. (London, C. Brnnsdon Fletcher, 1917.)
- The Pacific; Its Past and Future and Policy of the Great Powers from the 15th Century. (Gvy H. Seholdefld.)
- History of Australian Land Settlement, 1788-1920. (Fevendon, Stephen H. Roberts.)
- The Americans in the Philippines; A History of the Conquest and First Years of Occupation, with an Introduction Account of the Spanish Rule, Vol. I. (Boston and New York, James A. Le Roy, 1914.)
- The Development of Philippine Politics, 1872-1920. (Maximo Mangniat Kalsaw)



第八章

近世帝國海軍史要 昭和十三年 海軍有終會  
 海軍參考年鑑 大正十三年 同  
 海軍及海軍要覽 大正十五年 同  
 海軍要覽 昭和十四年 同  
 昭和六、七年事變海軍戰史 昭和九年 軍令部  
 軍縮讀本 同 海軍省軍事部  
 華府會議と其後 大正十一年 伊藤正徳  
 西洋人名辭典 昭和七年 岩波書店

第二、現勢篇

海南島

海南島誌 民國三十三年 陳銘樞編纂  
 同 譯文 昭和十二年 南洋協會  
 海南島 同 十四年 臺灣支那部  
 最近の海南島事情 同 十一年 臺灣總督府熱帶産業調査會貿易獎勵資料第二十三輯  
 海南島の研究 同 十四年 第一二二輯

海南島事情 第二 大正十年 臺灣總督府南支那及南洋調査  
 同 第三 同 同  
 海南島に於ける農業調査 昭和四年三月 同  
 調査瓊崖實業報告書 民國九年 海口海南書局  
 海南島最近の事情 昭和十二年 熱帯文化協會  
 海南島旅行記 民國廿五年 田曙嵐  
 海南遊記 同 十七年 謝彬  
 中國民族史 上 同 廿五年 林惠祥  
 海南島特輯號 昭和十四年 臺灣時報社  
 南支南洋海南島水源林調査報告 同 十三年 臺灣總督府  
 瓊州府志 道光廿一年修  
 Die li-Stämme der Insel Hainan. (H. Stübel)  
 C. M. C., Decennial Reports. (1882-1891, Vol. II)  
 " " (1892-1901, Vol. II)  
 " " (1902-1911, Vol. II)  
 " " (1912-1921, Vol. II)  
 " " (1922-1931, Vol. II)  
 Monographie De Hainan. (1929, M. Savina)  
 The Chinese Repository. Vol. I. V. VIII. XII. XIII.  
 (H. B. Morse.)  
 The Trade and Administration of China, (1921, H. B. Morse.)  
 The Chronicles of the East India Company, Trading to China, (1926, H. B. Morse.)  
 Far Eastern International Relations, (1928, Morse & Mac Nair.)  
 The Englishman in China, (1900, Michie.)  
 The Chinese Repository, Vol. I-VIII, X-XX

廣 東

南支那の開港場 第一編 昭和五年 臺灣總督府南支那及南洋調査(第一八四輯)  
 臺灣と南支那 同 十二年 同(第二三六輯)  
 廣東省概説 同 十三年 同府  
 廣東省調査書 同 十月 同府  
 南支那の産業と經濟 同 十月 同府  
 アヘン戦争と香港 同 七月 矢野仁一  
 近世支那外交史 同 五年 同  
 廣州府志 光緒五年重刊  
 廣東通志 道光二年修  
 The China Year Book, 1939.  
 Modern Canton. (1936, Edward Bing Lee.)  
 C. M. C. Decennial Reports, (1882-91, 1892-1901, 1902-1911, 1912-21, 1922-31.)  
 The International Relation of the Chinese Empire.

泰 國

南洋叢書第四卷 シヤム篇 昭和十三年 東亞經濟調査局  
 訪暹經濟使節報告書 同 十一年 訪暹經濟使節團事務所  
 暹羅國情 同 四年 暹羅協會  
 日本タイ協會々報(一五號) 自同十年 日本タイ協會  
 研究資料(第二八號) 同 十四年 南洋經濟研究所  
 暹羅國民經濟の特徵 同 十三年 松尾弘著



南洋年鑑 第三回版	昭和十二年	臺灣總督府
暹羅王國統計年鑑	自一九三三年至一九三五	泰國大藏省
暹羅之事情	大正十一年	在暹日本人會
南洋華僑 <small>第一卷 タイ國に於ける華僑</small>	昭和十四年	滿鐵東亞經濟調查局
暹羅王國 <small>(暹羅國磐谷府 暹南商會編纂)</small>	明治三十年	經濟雜誌發行社

濠洲、ニュージールランド

大洋洲の發見及び探檢	昭和十年	飯本信之著
政治地理學研究 上卷	同 十二年	同
太平洋諸問題 <small>自昭和十一年八月號至同十三年一月號</small>	同	同
國際事情 第五五六號	昭和十四年	外務省情報部
人種問題研究		綾川武治著
世界年鑑	昭和十四年	日本國際問題調查會編
世界貿易年鑑	同 年	橫濱貿易協會發行
A Regional Geography Part III (1930, London, Stamp. L. Dudley)		
Australia in its Physiographic and Economic Aspects.		

ets. 5th Edition. (1928, Oxford, Taylor, Griffith.)  
 "Agricultural Regions of Australia" Economic Geography, Vol. 6, No. 2. (April 1930, Taylor, Griffith)  
 "The Distribution of Pasture in Australia," Geographical Review, Vol. XXVII. No. 2. (April 1937, New York, Taylor, Griffith)  
 Human Geography, The Pacific Lands, (1936, London, Fairgrieve, J. and Young, E.)  
 The Statesman's Year-Books. (1929, London.)  
 The New World (1926, London, Bowman, Isaiah.)

海峡殖民地

Malayan Year-Book (1938, Singapore.)  
 The Statesman's Year-Book (1939, Macmillan & Co. London)  
 Hand Book to British Malayan. (1935, Malayan Information Agency)

The Story of our Colonies (1888, London, Bournie H. R. Fox.)

英領ボルネオ

南洋年鑑 第三回版	昭和十年	臺灣總督府
南洋事情講演集	同 年	同
太平洋に於ける國際經濟關係		三菱經濟研究所
英領馬來南洋叢書 第三卷		東亞經濟調查局
南支那及南洋情報	二〇、二八、三二、三七、九四、九五、一〇八、一一一、一二三、一四五、一七〇、二〇〇、二〇二、二一四、二二四、三〇〇、三〇一、三四二、三四三、三四四、三四五	臺灣總督府
南支南洋	一五八、一六〇、一七一、一七三、一七五、一七六、一七七、一七八	同
中國植民史	民國廿六年	李長傳
中國南洋交通史	同年	馮承鈞
British North Borneo, (1922, Owen Rutter.)		
The Ordinances and Rules of the state of North Borneo, (1891-1936)		
The Dominions office and Colonial office list for 1939,		

(Great Britain.)  
 Hand-Book of the State of North Borneo, 1934.  
 Notes on the Malay Archipelago and Malacca, (1876, Groeneveldt.)  
 Malayan Branch Royal Asiatic Society Journal, Vol. III, Part II.  
 Chinese Migration, with special reference to labour conditions, (1923, Fa Chen.)

太平洋諸島

太平洋及び濠洲	昭和八年	滿川龜太郎
調 報	同	南洋 廳
南洋群島の水産	昭和八年	同
暗黒ニギニアの真相	大正十二年	神村 與三
ニギニア地名集成	昭和十三年	増井 貞吉
ニギニア	大正十二年	同
ニギニア旅行斷片記	昭和十二年	金平 亮三



ニューギニア水路誌	昭和二年	水路部	Drama of the Pacific. (1934, Maj. R. V. C. Bodley.)
ニューギニア 西部水路誌	昭和七年	水路部	Pacific Relations. (1936, Hoffman.)
英領ニューギニアの研究	一九一八年	臺灣總督府	Missionary voyage to the South Pacific Ocean Performed in the Year 1776-1798. (Compiler.)
英領ニューギニア及パプアニューギニア事情(パプア領篇)	大正十三年	南洋協會	South Sea Islands. (1924, F. Shober.)
ニューギニアパプア族作品集	昭和十四年	南洋廳	The Social and Political septems of Central Polynesia. (1924, Camb.)
濠洲委任統治領ニューギニア事情	大正三年	丸藤屋出版部	
英領パプア	昭和十三年	拓務省	
佛領ニューカレドニア事情	同 年	外務省歐亞局	
英佛共同統治ニューヘブリデス諸島事情	同 七年	外務省通商局	The statesmen's Year-Book (1939, Macmillan & Co. London.)
フィジー諸島	同 十四年	南洋廳	The Canada Year-Book (1938, Dominion Bureau of Statistics Ottawa.)
フィジー諸島の現勢	昭和十二年	外務省歐亞局	The Dominion of Canada (1922, London, Karl Baedeker.)
フィジー諸島の現勢	同 十一年	南方經濟調査會	Trade Index Canada (1938, Canadian Manufacturer's Association Toronto, Canada.)
ミクロネシア民族史	同 二年	松岡 靜雄	
ミクロネシア語の綜合研究	同 十年	同	
The Riddle of the Pacific. (1925, T. Fisher.)			
The New Pacific, British Policy and German Aims. (1917, Mc. Millan.)			

カナダ

米 國

布哇諸島

大日本外交文書	昭和十三年	外務省調査部	布哇鳳梨事業	大正十二年	南洋協會
亞米利加讀本	昭和十四年	内閣統計局	布哇大學に於ける バインアップル事業講演	同 十五年	同
列國々勢要覽	昭和十二年	三菱經濟研究所	布哇に於ける木瓜	同 十二年	同
太平洋に於ける國際經濟關係	同 十四年	内閣情報部	布哇歴史	昭和 十年	渡邊 七郎
週報及び寫眞週報	大正 六年	東洋タイムス社	布哇五十年史	大正 八年	森田 榮
植民地大鑑		東亞出版社	布哇日本人史	昭和 十年	木原 隆吉
國際事典	昭和 七年	岩波書店			
西洋人名辭典	昭和 十四年	同盟通信社			
時事年鑑	同 年	日本飛行協會			
航空年鑑	同 十三年	日本郵船株式會社			
海事及び經濟調査	同 十年	平凡社			
大百科事典					
The World Almanac, (1938, New York World-Telegram)					
			西洋史精講	昭和八年三月	高市 慶雄
			世界植民史	同 九年四月	大鹽 龜雄
			世界商業史	明治四十年三月	上 正 毅 著
			太平洋と圍繞する諸洲の地理	大正十五年	長谷川 與三
			太平洋を繞る國々	昭和 十年	小野 鐵二
			あめりか大觀	大正十二年	美濃部 董

比 律 賓



米國膨脹論	大正三年三月	正岡 猶一
米國極東政策の真相	昭和十二年 ラルフ・タウンセンド著	大江專一譯
海上權力史論	明治三十九年七月	マ軍大佐
太平洋資源論	昭和十四年七月	澤田 謙
世界經濟鬭爭史	同 八年九月	白柳 秀湖
南洋年鑑	同 七年十月	臺灣總督府 官房調査課
比律賓の現狀	同 二年三月	商工省商務局
獨立比律賓を語る	同 十年十月	今村 忠助
南洋叢書第五卷比律賓篇	同 十四年三月	東亞經濟 調査局
比律賓在留邦人商業發達史	同 二十年二月	渡邊 董
南洋雄飛記	同 九年三月	實業之日本社
倭寇記	同 十四年三月	竹越與三郎
比律賓に於ける華僑	同 十四年三月	東亞經濟 調査局
華僑の研究	同 十四年三月	小林 新作
海軍讀本	昭和十二年十一月	阿部 信夫
海外水産調査	同 十三年三月	拓務省拓務局

研究資料	昭和十三年六月 同 十五年一月	南洋經濟 研究所
比律賓精神と國語問題	同 十五年二月	三吉朋十
拓殖と貿易 第二號	昭和十五年二月	日本殖大 學科
海を越えて 第二卷第十二號	同 十四年十二月	拓殖獎勵館
Religion and Moralo of the Early Filipinos. (Dante M. Edmunds Delheke, 1928, Manila.)		
A Brief History of the Philippines, (Leandro H. Fernandez, 1932, London.)		
The Archive (Philippine Linguistic) (Otto Scheerer, 1932, Manila)		
Elementary Civico (Jose P. Melencio, and S. Reyes, 1932, Manila)		
The Psychology of the Filipino (Hon Noserbo Romualdez, 1925, Bagino)		
For Freedom and Dignity (Jorge Boccho, 1933, Manila)		
Time for aback-to-the Orient movement in the Phil-		

ppines (Pio Duron, 1935, Manila)  
 Rizal's Life and Minor Writings (Auchin Craleg, 1927, Manila)

Lines of the Presidents (Jean S. Remy, 1900)  
 A General History of Commerce (William C. Webster, 1918, London)

佛領印度支那

佛領印度支那  
 Les Relations Commerciales Entre La France et L'Indochine. Lois et Fatrs (Raoul L. M. Colas, 1933, Paris)  
 French Policy and Developments in Indochina (Thomas Ennis, 1936)  
 Atlas Colonial Francsais (Edite Par L'illustration, 1937, Paris)  
 The Statesman's Year-Book (1939, London)

蘇 聯 邦

蘇聯邦諸新聞		
小百科字典(露文)	一九〇七年版	
小「ソヴィエト」百科字典(露文)	一九二八年版	
カムチャツカ國民經濟(露文)	一九三六年	セルゲ エルフ 著
カムチャツカ地方(露文)	一九三四年	同 人
極東地方「ソヴィエト」を強化せむ(露文)	一九三四年	極東地方執行 委員會編
亞細亞露西亞(露文)	一九一四年	農務土地整理 本部移民局編
全西比利亞及び極東(露文)	一九二六年	タマーリン編
蘇聯邦經濟地理(露文)	一九二七年	キラーン著
西比利亞(露文)	一九一五年	ピサリョフ著
沿黑龍江誌(露文)	一九〇九年	全地方議會 協會編
一九三九年人口調査(露文)	一九三九年	
各種蘇聯邦(露西亞帝國)地圖(露文)		
露領漁業の沿革と現狀	昭和十四年	露領水産 組合編
ロシア侵寇三百年	同 年	本山桂川著



cy)	790, 904	—銀行 (1895年)	453
ロスアンゼルス市 (米 Los Angels)	891	露佛同盟 (1891年)	451, 493, 495, 521, 960
ローゼン (露公使男爵 Rosen)	454, 486, 498	—借款 (1895年)	454
ロタ島 (内南洋 Rota I.)	664	露米會社 (寛政十一年1799年)	200, 229
ロッキー山脈 (米 Rocky Mt.)	869	露獨購和 (1918年 Bres-Litovsk)	569
ロックハムプトン (濠 Rockhampton)	788	露 梁	91
ロックフェラー・スタンダード石油 會社 (Rockefeller Stan- dard Oil Co.)	440	蘆溝橋事件 (昭和十二年 1937)	638
ロッシュ (佛公使 Leon Roches)	260, 267, 270, 277, 280	浪泊澳 (南支)	57
ロッシュアート (佛駐清公使 Roch- owart)	395	六國借款團 (1912年英米獨佛日露)	538, 563
ロッセル島 (Rossel I.)	843	六 昆	104
ロード・シドニー (英 Viscount Lo- rd Sydney 1622-83)	771	倫敦會議 (昭和五年1930年)	589, 590, 592
ロトマ島 (Rotuma I)	850		
ロハス (比島下院議長 Lohas)	966		
ロバートソン (英領事 Russel Rob- ertson)	389		
ローマ帝國 (Rome Empire)	21		
—會議 (1932 年)	595		
—法王	53		
ロマノフ王朝 (露 Romanov)	144, 567		
ローヤルティー諸島 (Loyalty Is.)	1010		
ローレンシア山脈 (カナダ Lauren- tian Mt.)	869		
ローレンス號 (米捕鯨船 Lawrence)	219		
ロンドン (加奈陀 London)	872		
—宣言 (1905年)	323, 552		
露西亞帝國	567		
—森林會社	484		
露支銀行	454		
露清密約 (1896年)	453		

[ワ]

ワイオミング號 (米艦 Wyoming)	257
ウォーリス (英 Samuel Wallis)	1014
ワシントン群島 (Washington Is.)	1012
—會議 (*華府會議)	
ワリニャーニ (伊耶蘇會巡察使 Ale- ssandro Valignani 1537 -1606)	73
ワリヤーク號 (露艦 Variag 後ち 帝國軍艦宗谷)	486, 487
ワルデナール (蘭出島商館長 Will- em Wardenaar)	209
ワルデック (獨青島總督 Waldeck)	553
ワンダー號 (英船 Wander)	844
倭 寇	28, 47, 88, 101, 125, 933, 1083
滙豐借款協定	604
渡邊華山	212
—胤 (久藏、目付)	204

[索引終]

澳門  
Annuario Comercial de Portugal Separata Colonias  
(1932)  
香港總領事館

澳門

太平洋に於ける國際經濟關 係	同	十二年	研究
南太平洋讀本 (國際讀本 第十卷)	同	十三年	三 菱 經 濟 所
蘭領印度民族史 (南洋叢書 第一卷)	同	十年	外務省情報部
蘭領東印度篇 (南洋叢書 第一卷)	同	十二年	外務省調查部
總覽	同	十五年	東 亞 經 濟 局
各國通商の動向と日本 通商上より見たる各國現勢	同	十三年	同 右
南洋年鑑 (第三回版)	同	昭和十二年	通商局編

蘭領東印度

東韃紀行  
極東外交史概観  
間宮林藏述  
青柳篤恒著

チモール

蘭領チモール植民地調査 報告書	昭和十一年	熱帯文化協會
諸調査資料		株南 式洋 會興 社發
Timor (ante-Camara do Inferno, 1930, Teófilo Duarte)		
Exploration of Portuguese Timor (Geographical Journal, 1938, S. F. Wiltonck)		
Annuario Comercial de Portugal Separata Colonias (1932)		

附 表



リットン卿 (英 Victor Alexander George Robert Lytton 1876-)	632	一且 (海寇頭目)	127
——報告書	632	一德裕 (唐)	678
リデイ (米陸軍大佐 Clarence S. Reidy)	924	一楊材 (清國廣西の將)	318
リード (米公使 William B. Reid)	190	琉球	391
リビエール (佛將 H. L. Riviere)	319	劉永溥	684
リフ島 (Lifou I.)	1011	一永福	317
リファウ (チモール Lifau)	1059	一紹琨 (中國新青年黨幹事長)	646
リーフデ號 (蘭船 Liefde)	76	一銘傳 (清の將)	320
リフトヴァレー平原 (濠 Rift Valley plains 地裂谷平原)	772	龍濟光 (廣東都督)	684, 695
リベラ (比太守 Governor-General Rivera)	952	龍驤 (帝國軍艦)	652
リマホン (支那海賊 Li-Ma-Hong 又 Dim-Mhon 林鳳又は李馬奔)	90, 934, 944	柳條溝事件 (昭和六年 1931 年)	602, 610
リム (新西蘭木材 Rimu)	795	陸戦重砲隊	490, 553
リュイ (佛外相 Edouard Drouyn de Lhuys)	270, 279	陸軍傳習所 (横濱)	288
リリオカラニ (布哇女王 Queen Lil iuokalani)	925	立志社	344
リーワード諸島 (Lee-Ward Is.)	1012	旅順租借條約 (1898年)	457
リンカーン (米16代大統領 Abraham Lincoln 1809-65)	832	遼	41
リンスホーテン (蘭 Jan Huygen von Linschoten 1563-1611)	61	遼東半島還附勸告書	450
李煥 (朝鮮國王)	415, 417	——條約	603
一鴻章 188, 319, 320, 331, 396, 398, 194, 420, 421, 452, 453, 457, 462		梁鴻志 (維新政府主席)	646
一根源 (海疆邊防督辦)	684	兩國人雜居規則書 (樺太慶應三年)	247
一守信 (蒙古聯合自治政府首席代理)	646	林則徐 (清湖廣總督)	174
一舜臣	91	臨時政府 (北京)	645, 646
一宗仁	696	——南洋群島防備隊	651

[ル]

ルイシェード島 (Louiadiade I.)	841
ルイジアナ州 (Louisiana Provin ce. 1803年佛より米へ)	889
ルイピン城砦 (Fort Ruipin)	145
ルシタニヤ號 (英船 Lusitania)	559
ルージン (露 Teodor Luzhin)	152
ルーズヴェルト (米共和黨26代大統領 Theodor Roosevelt 1858-	

1919)	
412, 495, 496, 498, 896, 965	
—— (米32代大統領 Fran-	
klin Delano Roosevelt	
1887-)	892, 966
ルソン島 (呂宋 Luzon I.)	59, 101, 938
ルート (米軍縮全權、國務卿 Elihu Root 1845-)	587
ルートン (サラワク Lutong)	828
——精油所	834
ルネタ (比マニラ郊外 Luneta)	951
ルルアイス (ニューギニアの頭目 Luluais)	858
呂宋島 (*ルソン島)	
——助左衛門 (泉丞堺の人)	97

[レ]

レイス號 (英帆船 Leith)	979
レイチャート (獨 Friedrich Wilhelm Ludwig Leichhardt 1813-48)	773
レヴォ リューション諸島 (Revolution Is.)	1012
レヴカ港 (フィジー Levuca)	850
レガスビー (西 Miguel Lapez de Legaspi)	59, 70, 930
——市 (比 Legaspi)	946
レグロス (葡領世襲土王 Regulo)	1065
レザノフ (露 Nikolai Petroitch Rezanov -1807)	200, 214
レジャン線 (サラワク Rejang Line)	831
レシデンシア (比島太守の制度 Residencia)	948

レセップ (佛 Vicomte de Ferdinand Lesseps 1805-94)	446, 915
レッサー (露駐清公使 Lessar)	471
レーニン (露 Nikolai Lenin 本名 Vladimir Ilitch Ulianov 1870-1924)	567, 1021
レパントの戦 (Lepanto)	60
レ・マイヤー (蘭 Maximilaam Jacob Le Maire 1641)	844, 852
レリア河 (チモール Laleia R.)	1062
レロの城跡 (内南洋クサイ島 Rero)	652
黎元洪 (中華民國大總統)	561, 695
黎族	683
連鎖群島 (Chain Archipelago)	1013

[ロ]

ロイス河 (チモール Lois R.)	1072
——盆地 (Lois basin)	1072
ロイド・ジョージ (英首相 Dyvid Lloyd George 1863-)	567, 568, 570, 571
ロエスレス (獨御屋法律顧問 Karl Friedrich Herman Roessler)	351
ログハン地方 (比島 Lughang)	973
ロジェストウエンスキー (露第二艦隊司令長官海軍中將 Sinovii Petrovitch Rozhdestvensky 1848-1909)	490, 491, 492
ロス屬領 (新西蘭 Ross dependen-	



矢矧 (帝國軍艦)	937
矢部讓五郎 (海軍大尉)	624
柳原前光 (駐清公使)	394
山縣有朋 (第一軍司令官、陸軍大將)	364
——ロバノフ議定書 (露 Alexei Borisovitch Lobanov Ros-tovskii 1824-96)	453
——協定	483
山口尙芳 (外務少輔)	406
——錫次郎 (箱館奉行支配調度並)	294
——傳一 (矢矧艦長、海軍大佐)	938
山田顯義 (參議、陸軍少將)	346, 406
——長政	104
山上憶良	39
山内豊信 (高知藩主)	282
——豊範 (土佐藩主)	340, 342
——容堂 (同上)	342
山本五十六 (海軍中將)	592

[ユ]

ユーカリ屬 (Eucalyptus alba)	1071
ユーコン (カナダ Yukon)	870
——河 (アラスカ Yukon R.)	912
ユースデン (英書記官)	253
ユニオン諸島 (Union Is)	790, 851
ユーリアラス號 (英旗艦 Euryalus)	255
U20號 (獨潜水艦)	559
愈鴻均 (上海市長)	640
榆林港 (海南島)	679, 681
熊津江 (錦江)	36
郵便蒸氣船會社 (明治四年)	356
夢物語 (高野長英著)	212

[ヨ]

ヨーク島 (York I.)	842
——ジャイア-號 (英船 Yorkshire)	329, 368
ヨダ金坑 (バプア Yoda)	840
ヨッフエ (露 Adolf Abramvitch Joffe 1883-1927)	568
余漢謀 (廣東綏靖主任)	685, 692
葉肇 (瓊崖警備司令)	684
葉名探 (兩廣總督)	189
楊虎 (淞滬警備司令)	640
楊子江協定 (英獨 1900 年)	466
揚州	25
横須賀製鐵所	368
横瀬浦 (大村領)	72
吉田清成 (駐米公使)	407
——丸左衛門	935

[ラ]

ライエルス・ゾーン (蘭提督 Cornelius Reijerszoon)	127
ライクス商會 (Lykes Bross. Ripley S. S. Co.)	908
ライト (米民主黨、比島總督 L. F. Wright)	965
ラウテン郡 (チモール Circumsericao Civil da Lantem)	1067, 1075
ラウンセストン (濠 Launceston)	788
ラエ島 (マーシャル群島 Rae I.)	400, 652

ラガ (チモール Laga)	1081
ラクスマン (露陸軍中尉 Adam Kyrilovitch Laxman)	199, 213
—— (露博物學者 Kyril Gustavovitch Laxman)	199
ラグナ州 (比 Lagna)	944, 949
ラグルネル (佛全權 Theodose Marie Melchior Joseph de Lagrene 1800-62)	181
ラクロ河 (チモール Lacro R.)	1070
ラゴダ號 (米捕鯨船 Lagoda)	219
ラサ工業株式會社	672
ラジャ (比酋長 Rajah)	932
ラッセル伯 (英外相 Earl John Russell 1792-1878)	252, 264, 309
——島 (Rossel I.) (*ロッセル島)	
ラッフルス卿 (英 Sir Thomas Stamford Raffles 1781-1826)	209, 801, 1037
——大學 (Raffles College)	805
ラドローネ島 (マリアナ Ladrome I.)	400
ラドロン (グァム島)	976
ラナイ島 (布哇 Lanai I.)	926
ラバウル市 (ニューギニア Rabaul)	649, 857, 860
ラビニア女王 (トンガ島女王 Lavinia)	853
ラブアン (ブルネイ Labuan)	171, 310, 835
——島 (海峽殖民地 Labuan I.)	802, 811
ラブラドル高臺 (カナダ Labrador Hight)	869
ラ・ペローズ (佛 Jean Francois Galanp de La Perouse	

1741-88)	844, 845, 864, 1009
ラホール (印 Lahore)	164
ラムスドルフ (露外相 Vladimir Nikolaievitch Lambsdroff 1845-1907)	331
ラムート族 (Ramute)	1018
ラロトノガ島 (クック諸島 Rarotonga I.)	855
ラングーン (Rangoon 蘭貢)	161
ランシング (米國務卿 Robert Lansing 1864-)	564
ランダク (ボルネオ Landak)	812
羅針儀 (指南針)	26, 51
落下傘部隊 (空中デサント)	1021

[リ]

リウライ (葡領 世襲酋長 Liurai)	1065
リカチョフ (露太平洋艦隊司令官海軍少將 Likachoff)	243
リキサ (チモール Vila de Liquica)	1081
リコール (佛 Ricault)	115
リコルド (露ヂャナ副長 Peter Ivanovitch Rikord)	202
リザール (比 Jose Rizal)	951, 964
リスボン條約 (Lisbon Treaty 1850 年葡支)	605, 1060
リターン號 (英船 Riturn)	208
リチモンド河 (濠 Richmond R.)	780
リチャードソン (英商人 Charles Lenox Richardson 1862)	251
リッチョン (比島の馳走 Lechon)	946
リッテルトン (新西蘭 Lyttelton)	800



水野忠精 (和泉守) 261  
 —— 忠邦 (越前守、老中) 215  
 —— 忠徳 (筑後守長崎奉行、外國奉行) 284, 289, 295, 331, 339  
 —— 正大夫 (支配調役) 293  
 南小島 (新南群島 Nam Yit I.) 676  
 南濠洲 (South Austrolia) 772  
 南二子島 (新南群島 Two Is.) 676  
 源實朝 43  
 任那 34  
 —— 日本府 (\*日本府)  
 宮本小一 (外務大丞) 387  
 明太祖 (初代朱元璋) 391  
 一命王 (安南王 Ming Mang) 169  
 民國日報 615, 618, 619, 620

[ム]

ムーチェ (佛公使 Marquis de Moustiers) 279  
 ムラヴィヨフ (露外相 Nikolai Nikolaievitch Muraviev 1809-81) 192, 193, 228, 246, 456, 1015  
 ムルア島 (Murna I.) 841  
 ムルト族 (Muruto) 815, 824  
 ムレンドルフ (獨 Paul Geory Von Moellendorff) 331  
 武庫の水門 33  
 無敵艦隊 (西 Invincible Armada) 64, 73, 77, 93  
 向山一履 (華人正、外國奉行) 280  
 陸奥宗光 (外相) 335, 412, 421  
 村上氏 (能島、來島、因島) 86

—— 義禮 (大學) 200  
 村垣範正 (淡路守、箱根奉行、外國奉行) 244, 289  
 村田藏六 (後ち大村益次郎) 275  
 村山東安 (長崎代官、東菴と同人) 95, 99  
 —— 商會 653

[メ]

メーア・アイランド (米軍港 Mare Island) 898  
 メイン號 (米艦 Maine) 954  
 —— 事件 (Maine Trouble. 1898年) 954, 961  
 メスチザ・ドレス (比 Mestiza Dress) 945  
 メックレンブルグ島 (Mecklenburg I.) 844  
 メッセンジャー・オブ・ピース號 (英船 Messenger of Peace) 863  
 メッテルニヒ (埃宰相 Klemens Lothar Wenzel Metternich. 1773-1859) 956  
 メナド (セレベス島 Menado) 1039  
 メネゼス (蘭 Jorge Menezes) 858  
 メラナウ族 (Melano) 824, 827  
 メラネシア (Melanesia) 838  
 —— 人 (Melanesian) 839, 850  
 メララップ (ボルネオ Melalap) 821  
 メリット (米將軍比島初代統監 Wesley Merrit) 962  
 メルゲン (墨爾根) 150  
 メルボルン (濠 Melbourne) 772, 788

メンダニヤ (西 Don Alvato de Mendana) 844  
 明治天皇 349, 355, 363, 369, 396, 421  
 —— 三十七八年戦役 (\*日露戦争)  
 —— 丸 389

[モ]

モアズビー市 (パプア Moresby) 840  
 モイラ (英ベンガル總督 Moira) 160  
 モゴール帝國 (莫臥兒 Mughal) 116  
 モザンビック (Mocambique) 1066  
 モスクワ (露 Moskba) 1024  
 —— 會議 (1922年) 594  
 モスコウ王國 (露 Moskow) 142  
 モッセ (獨御雇法律顧問 Albert Mousse 1846-1925) 350  
 モトア語 (Motua Language) 839  
 モネット (西軍人 Monett) 954  
 モリソン號事件 (The Morrison Trouble 天保八年 1837年) 212  
 モルズク商會 (佛) 115  
 モルトケ (獨將軍 Helmuth Karl Bernhard Moltke. 1800-91) 543  
 モルモン宗 (Mormon) 853  
 モーレンドルフ (獨、韓國顧問 Paul Georg Von Moellendorff) 418  
 モロ族 (Moros) 941  
 モロカイ島 (布哇 Molokai I.) 926, 927  
 モロッコ問題 (獨佛 Morocco) 495, 541  
 ホントホ (西提督 Montojo) 954  
 モントリオール (カナダ Montreal)

867, 872  
 モンロー (米5代大統領 James Monroe. 1758-1831) 956  
 —— 主義 (Monroe Doctrine. 1823年) 892, 932, 955, 956, 957  
 最上徳内 204  
 毛利敬親 (長州藩主) 278, 340  
 —— 元徳 342  
 孟頽王 (\*ホタン・ブラ)  
 —— 格徳 (\*マンゲト)  
 蒙疆聯合委員會 (張家口) 645  
 木曜島 (Thursday I.) 842, 785  
 本野一郎 (駐佛公使) 495  
 森有禮 (駐英公使) 409  
 門戸開放宣言 (米 1899年) 460, 960

[ヤ]

ヤクーツク (シベリヤ Yakutsk) 145  
 ヤクート (シベリア Yakut) 1015  
 ヤクブ・ベク (イリ酋長 Yakub Beg) 145  
 ヤコブ (露エニセイスク太守 Yacob) 145  
 ヤコブ・ログゲヘーヴェン (蘭 Jacob Roggeveen) 863  
 ヤサワ島 (Yasawa I.) 849  
 ヤッパン號 (幕府軍艦咸臨丸) 285  
 ヤップ島 (内南洋 Yap I.) 554  
 —— 島民公益組合 670  
 ヤルート島 (内南洋 Jaluit I.) 313, 553, 776  
 —— 會社 649  
 ヤンヨーステン (蘭人 Jan Joosten 八重洲) 77, 94  
 八重洲河岸 77



povitch Makarov. 1848-1904)	488	mbidge = Murray R.)	772
マクドナルド (英首相 James Ramsey MacDonald 1866-)	589	マドラス (印 Madras 又 Soa Thome)	112
マグナット (米駐比米國最高委員 Paul V. McNutt)	933, 969	マドラスパタン (ペルシヤ Madraspantan)	69
マージェラス群島 (Marquesas Is.)	308, 1012	マナット (チモール Vila de Manatuto)	1081
メンドサ島 (Marquasas Mendoza I.)	1012	——郡 (同 Circumscricao Civil da Manatuto)	1067
マジュラン (*マゼラン)		マニラ市 (比 Manila)	59, 946
マーシャル (英船長 Marshall)	846, 648	マヌア群島 (Manua Is.)	978
——群島 (内南洋 Marshall Is.)	648, 400	マヌエル・ゴンサロ (葡航海者 Manuel Gonzalo)	98
マジャパイト (爪哇 Madjapahit)	55	マヌス島 (Manus I.)	861
——王國 (Majapahit Kingdom)	1032	マネギール族 (Manegirs)	141
マゼラン (葡 Fernao de Magalhães, 1480-1521)	56, 58, 59, 648, 930, 946, 976	マハン (米海軍大佐 Alfred Thayer Mahan. 1840-1914)	8, 10, 896, 956, 960, 961, 969
マタドール島 (内南洋 Matador I.)	842	マーフィ (米比島總督 Frank Murphy)	966
マタビア地方 (チモール Mata Bia)	1071	マームッド・シャー (アラビア人 Mahmud Shah)	54
マターファ (サモア王 Mataafa)	438	マヨン山 (比 Mt. Mayon)	939
マッカー (米陸軍少將三代比島統監 Arther Macker)	963	マライタ島 (Malaita I.)	843
マッカーサー (米參謀總長、比島軍事顧問 Douglas MacArthur)	967	マラータ侯國 (印 Mahratta Kingdom)	160
マッカロック號 (米艦 McCulloch)	954	マラッカ (Malacca)	58
マッキンレー (米25代大統領 William Mackinley. 1843-1901)	441, 443, 446, 932, 959, 965	マリー島 (Mary I. 即 Canton I.)	979
マックキアン島 (フエニックス諸島 McKean I.)	851	マリアナ群島 (Mariana Is.)	58, 437, 648
マヅラ (蘭印 Madura)	1030, 1040	マリエトア (サモア王 Malietoa)	438
マツラムビッジ・マレー河 (濠 Murr-		——タヌ (同 Malietoa Tanu)	438

マルクス (獨 Karl Heinrich Marx. 1818-83)	1021	松前藩	297
マルコポーロ (伊 Marco Polo. 1254-1323)	28, 43, 51, 69, 769, 1033	——奉行	206
マルタン (佛 Francois Martin)	116	——島 (北海道)	242
マルデン島 (Malden I.)	854	——崇廣 (伊豆守)	266
マルド灣 (ボルネオ Marudu Bay)	819	松本秀持 (伊豆守、勘定奉行)	204
マレ島 (Mare I.)	1011	無目籠 (マナシカタマ)	30
マレー人 (Malaiian)	774	丸島 (新南群島 Amboyna I.)	676
——ダーリング盆地 (Murray-Darling Basin)	771, 780	丸山作樂	347, 375
マンガイア島 (Mangaia I.)	855	滿洲事變 (昭和六年 1931)	597, 615
マンガレバ (Mangareva)	1012	——占領 (露)	483
マンガト (清、孟格德)	149	——族	141
マンダレ (緬甸國都 Mandalay)	322		
間宮海峡	193		
——林蔵	11, 206, 1016		
摩喝陀國 (Magadha)	(*マグダ國)		
媽港	935		
澳門市 (Macao)	(*マカオ)		
前原一誠 (萩の亂)	367		
牧野伸顯	570, 571, 573		
松井慶四郎 (駐英大使)	570		
松浦隆信 (平戸)	71, 75, 81		
——鎮信	94		
松岡洋右 (國際聯盟日本首席代表)	632		
松方正義 (大藏卿)	358		
松川辨之助 (越後豪商)	301		
松木弘安 (後ち寺島宗則)	27		
松倉重政 (島原城主)	84, 935		
松田傳十郎 (奉行下役)	206		
——道之 (内務大丞)	395		
松平定信 (老中)	204, 213		
——信綱 (伊豆守)	8		
——宗秀 (伯耆守、老中)	266		
——康英 (圖書頭、長崎奉行)	208		

[ミ]

ミカエル一世 (露帝 Rhangabe Michael 811-845)	144, 149
ミクロネシア (Micronesia)	838
ミチエロ島 (Mitiero I.)	855
ミッチェル (英 Sir Thomas Mitchell)	771, 773
ミッドウェー島 (Midway I.)	929
——占領 (Midway I. 1869 年米國)	959
ミッドルブルヒ島 (Middleburgh I.)	852
ミリ港 (ボルネオ Miri Hr.)	821
——油田 (ボルネオ Miri oil field)	824
ミンダナオ島 (比 Mindanao I.)	937, 938
ミンドロ島 (比 Mindro I.)	938
三浦按針 (英 William Adams 1564-1620)	(*アダムス)
三津浦 (大阪)	37
三菱汽船會社	356
水城	37



北京丸 935  
 別手組 241, 248  
 辨韓 34

[ホ]

ボアソナード (佛御雇法律顧問 Gustave Emile Boissonade. 1825-1910) 351  
 ボイグ島 (Boigt I.) 842  
 ホイレ (獨宣教師) 455  
 ボヴァティ-灣 (新西蘭 Poverty Bay) 791  
 ボウルー世 (露帝 Petrovitch Pavel I. 1754-1801) 957  
 ホエニ-戦争 (Punic War 又 Poeni War. 西紀前 264, 218, 149年) 581  
 ボーガイン・ヴィーヌ (佛 Louis Antoine de Bougain Ville. 1729-1814) 844, 863, 866, 1014  
 島 (Bougain Ville I.) 843  
 ボサドニク號 (露艦 Possadnick) 243, 244  
 ポーター (米 Cap. Porter) 1012  
 ポーター案 583  
 ボタニ-灣 (濠 Botany Bay) 771  
 ボタン・ブラ王 (緬甸 Botan Pula 孟買王) 161  
 ボチョムキン號 (露艦 Potemkin) 497  
 ボッテインジャー (英 Sir Henry Pottinger. 1789-1856) 177  
 ボーツマス講和會議 (Portsmouth. 1905)

492, 497, 498, 525  
 ポート・ジャクソン (濠 Port Jackson) 771  
 ニコルソン (新西蘭 Port Nicholson) 791  
 ・パイリ (濠 Port Pirie) 788  
 ボナベ島 (内南洋 Ponape I.) 553  
 ボニファシヨオ (比 Andreo Bonifacio) 951  
 ホノルル市・港 (Honolulu) 929  
 ポーハタン號 (米艦 Powhatan) 234, 289  
 ホバート (濠 Hobart) 788  
 ホープ (英海軍中將 Sir James Hope 何伯 1808-81) 244, 248  
 ポペエテ市 (タヒチ島 Popeite) 1012  
 ポポフ (露 Peter Popof) 152  
 ボヤルコフ (露 Vasilii Poyarkov) 147  
 ボラー (米上院議員 William Edgar Borah. 1865-) 580  
 案 580, 583  
 ホリウッド市 (米 Holly Wood) 904  
 ポリネシア (Polynesia) 838, 863, 926  
 人 (Polynesian) 789, 1030  
 ボーリング總督 (英香港總督 Sir John Bowring. 1792-1872) 189, 229, 230  
 ボーリング商會 (英 Pauling & Co.) 527  
 ボルシャヤ河 (カムチャツカ Bolshaya R.) 152  
 ボルスブルック (蘭總領事 D. De Graeff van Polsbrock) 257, 271  
 ボルタ號 (佛艦 Volta) 320  
 ホルデー (英陸相 Richard Burdon Holdane. 1856-1928) 546  
 ボルトガル船 (Portugal) 12, 62

ボルネオ島 (Borneo I.) 812, 1040  
 (英領北ボルネオ) 812  
 南洋開發組合 820  
 水産公司 820  
 水産株式會社 820  
 ホールブルック (米陸軍少將比島軍司令官 Lucius R. Holbrick) 968  
 ホルン岬 (南米 Cape Horn) 65  
 ボロボヅール寺院 (爪哇 Baraboedoer) 24  
 ホーン島 (Horn I.) 842  
 ボンクール (國際聯盟議長) 630  
 ボンヂシェリー (印 Pondicherry) 116  
 彦火火出見尊 30  
 穂積陳重 352  
 葡清修好條約 (明治二十年 1887年) 1083  
 戊辰の役 (明治元年 1868年) 340, 365  
 砲艦政策 (Gun-boat Policy) 252, 317, 371  
 奉天の會戰 (明治三十八年三月十日) 492  
 蓬萊島 20  
 豐臺事件 (昭和十一年) 637  
 豊島沖海戰 (明治二十七年七月二十五日) 370, 421  
 豐光寺承兌 93  
 鳳凰丸 284  
 報效丸 (八三噸) 671  
 義會 401  
 法顯 (東晋の僧) 23, 24  
 北條氏 (小田原) 87  
 實政 44  
 北江 (廣東) 702  
 北海事件 (昭和十一年 1936年) 636  
 北清事變 (明治三十三年 1900年) 461, 465  
 北洋艦隊 (清國) 421

朴永孝 (韓國謝罪使) 418, 420  
 澎湖島 126  
 望厦條約 181, 958  
 貿易處 (Factory) 694  
 防禦同盟 (英蘭 1619年) 67  
 堀田正睦 (老中) 234  
 堀本禮造 (工兵中尉) 417  
 本多熊太郎 496  
 本能寺の變 72  
 香港 (Hong Kong) 176, 184

[マ]

マイス (比島主食物 Maiz) 945  
 マイソール侯國 (印 Mysore) 160  
 マウイ島 (布哇 Maui I.) 926  
 マウケ島 (Mauke I.) 855  
 マウバラ (チモール Maubara) 1074, 1081  
 マウレリア (西 Maurella) 848, 853  
 マオリ族 (Maorian) 789, 791, 795, 863, 926  
 マオリチウウス (アフリカ Mauritius) 112  
 マカオ (Macao 澳門) 57, 58, 185, 1083  
 總督 1084  
 マカーサー (英 Macarthur) 771  
 マガダン (露 Magadan) 1026  
 マカートニー (英 George Viscount Macartney. 1737-1806) 137, 208  
 マカルトニー卿 (英 Earl of Macartney (\*マカートニー))  
 マカロフ (露海軍中將 Stepan Ossi-



way)	788	ブレンダーガスト (英陸軍大将 Sir Harry Prendergast)	322
プリンセス・ロイヤル號 (英艦 Princess Royal)	265	フレンドリー群島 (Friendly Is. 又 Tonga Is.)	852
フリンダース (英 Cap. Mathew Finders. 1774-1814)	771	ブレンヘイム (新西蘭 Blenheim)	799
ブルーク (英 Sir James Brooke. 1803-68)	310, 822, 831	ブローケンヒル (濠 Broken Hill)	787
—— (英 Charles Brooke)	822	ブロソム號 (英測量艦 Blossom)	380
—— (英 Sir Vyner Brooke)	823	プロビンシャ (臺灣 Provintia)	67, 127, 129
ブルゴス (比土人僧 Doctor Jose Burgos)	950	ブロミンスキ (獨長官 Brominski)	861
ブルック (英 Brooke) (*ブルーク)		フローレンス (Florence)	50
フルニエ (佛海軍中佐 Fournier)	320	フロンテイラ郡 (チモール Circunse-ricao Civil da Fronteira)	1067
ブルネイ (Brunei)	831	不戦條約 (Briand-Kellogg Pact. 1928年)	588, 589, 611, 892
—— 王國	812	溥儀執政 (清宣統帝)	632, 633
フルバート (米韓外交顧問 Homer B. Hulbert. 1866-1905)	532	普門卯之助 (矢矧副長海軍中佐)	937
ブルーム (濠 Broom)	785	福岡孝悌	342
ブレイ (佛駐清公使 Frederic Albert Bouree)	319	福康安 (清將軍)	161
ブレーヴェ (露内相 Viatcheslav Konstantinovitch Plehve)	485	福田 (大村領)	72
ブレーク (米鑛山技師 William Blake)	300	福地源一郎	347
フレザー (英駐日公使 Sir Everard Duncan Home Fraser. 1859-1922)	411, 412	福州事件 (昭和七年)	610
ブレザント島 (Pleasant I. 又 Nauru I.)	862	福老	682
フレシネ (佛首相 Charles Louis de Freycinet 1828-1923)	319	藤井齊 (海軍大尉)	624
フレッセル汽船會社 (比 Fressell S. S. Co.)	951	藤川三溪 (正院編輯課御用掛)	386
フレデリック號 (米船 Frederick)	211	藤原純友	41
プレブル號 (米船 Preble)	219	二見港 (小笠原島 Port Lloyd)	225, 295
ブレーメン市 (獨 Bremen)	650	佛國租界	607
		佛領印度 (French India)	982
		文永の役	44
		文祿の役	90
		[へ]	
		ベアソ (チモール Beaco)	1081

ヘーアホーズ・カッティング法 (比島 Harehose Cutting Doctorin. 1930年)	966	ペリュウ (英提督 Fleetwood B. R. Pellew. 1789-1861)	208
ヘイ (米國務卿 John Hay. 1838-1905)	447, 460, 587, 892, 960	ベーリング (丁抹 Bering 又 Behring 1680-1741)	152
ヘイズ (米 19 代大統領 Rutherford Birchard Hayes. 1822-93)	407	—— 海 (Bering Sea)	152
ヘイデン (米教授 Ralston Hayden)	945	ベルギーシンジケート (Belgian Syndicate)	454
ベーカー (Cap Michael Baker)	979	ベルクール (佛代理公使 Duchesue de Bellecourt)	239, 253, 257
—— 島 (Baker I.)	979	ベルスレーケン (蘭海軍大尉 G. C. C. Pels Rycken)	285
ペグー (緬甸 Pegu)	165, 321	ペルリ (米提督彼理 Mathew Colbrath Perry. 1794-1858)	224, 228, 371, 381, 959
ヘーグ平和會議 (Hague) 第一、第二回、第三回	582, 583	ペレストレロ (葡 Rafael Perestrelo)	694
ペケトフ (露 Peketof)	145	ペロポネソス戦争 (Peloponnesus War. 西紀前 404年)	581
ヘースティング侯 (英 Francis Rowdon Hastings. 1754-1826)	119, 160	ベンガル王 (印 King of Bengal)	118
ベソ (チモール Beco)	1081	ベンゲット道路 (比 Bengnet Road)	936
ベタノ (同 Betano)	1081	ヘンダーソン島 (Henderson I.)	856
ベテルスブルク (アラスカ Petersburg)	911	日置益 (駐支公使)	555
ベテロバウロフスク (露軍港 Peteropavlovsk)	192	平英園事件 (1841年)	182
ベトリン (露 Ivan Petilin)	149	米西戦争 (Spanish American War. 1898年)	313, 442, 914, 961
ベトレヘム鋼鐵會社 (米 Bethlehem Co.)	557	米大陸横斷鐵道 (Union and Central Pacific R. W. 1869年開通)	525
ベトロ・パウロフスク號 (露艦 Petr-opavlovsk)	488	米布互惠條約 (1873年)	959
—— ・バプチスタ (西マニラ宣教師 Pedro Baptista)	75	北京議定書 (明治三十四年 1901年)	462, 463, 527
ベムブローク號 (米船 Pembroke)	257	—— 條約 (清英 1860年)	195, 327, 331, 603
ヘラット地方 (印 Herat)	163	—— (清佛 1860年)	195, 327, 331, 604
ペリー (米代將 Perry) (*ペルリ)		—— (清獨 1898年)	605
		—— (清伊 1861年)	605
		—— (清露 1898年)	195, 605



ビューゼットサウンド (米 Puget Sound)	899
ビュザ (露 Elisei Buza)	145
ヒューズ (米國務卿 Charles Evans Hughes. 1862-)	571
ヒュースケン (蘭人米公使館員 H. C. J. Heusken. 1832-61)	238, 239
ビュツォフ (露駐清公使 Eugene De Butzov)	376, 377
ビューロー (獨宰相 Bernhard Heinrich Bulow. 1849-1929)	470
ビョルケ密約 (Bjorkoe 獨露兩帝密約)	520
ビララ島 (Birara I. 即ニユーギニア)	857
ビラロボス (西 Villalobos)	930
ヒリップピン群島 (比律賓 Philippines Is.)	443, 930
ビリレフ (露艦長 Birileff)	243, 244
ビルマ族 (Burma)	986
ヒンズー族 (Hindus)	1031
ピント號 (西船 Pinta)	888
ピンナム (米公使 John A. Bingham)	328, 390, 393, 395, 407
肥田爲良 (造船頭)	406
東久世通禧 (外國官副知事、侍從長)	405, 406
七年戦争 (1756 年)	117, 306, 867
七了口	628, 629
一橋慶喜 (*徳川慶喜)	
馮治安 (支、第三七師長)	638
苗族	683
平戸 (肥前)	66, 81
平山常陳 (日本人葡船船長)	83
緬甸戦争 (第一次 1824 年)	161
(第二次 1852 年)	165
閔氏 (韓室外戚)	417

【フ】

ブーア戦争 (Boer War 1899 年)	427, 439
ファツベシ (チモール Fatu-Bessi)	1072
ファビアン (露 Bellingshanzen Fabian)	849
ファビウス (蘭海軍中佐 Gerhardus Fabius. 1806-88)	284
ファーン (獨船長 Cap. Fearn)	861
ファンジーマンスランド (Van Diemen's Land 今のタスマニア)	770
ファンニング島 (Fanning I.)	854
ファン・ネック (蘭提督 Van Nech)	62
フィウメ問題 (Fiume)	574
フィジー諸島 (Fiji. Is.)	310
フィッシュ (米國務卿 Hamilton Fish.)	384
フィヨルド地方 (新西蘭 Fiords Region)	793
フィリッピン諸島 (Philippin Is. (*ヒリップピン))	
フィリップ (西 Arther Felipe)	930
——二世 (西 Philip II. 1527-98)	60, 916, 946
フーヴァ (米共和黨三一代大統領 Herbert Clark Hoover. 1874-)	589, 892, 966
ブーエ (佛交趾支那駐屯軍司令官 Boet)	319
フェアバンクス (アラスカ Fairbanks)	911, 912, 914

フェット (西將軍 Fett)	949
フェートン號事件 (英艦 Phaeton 文化五年 1808 年)	208, 214
フェニックス諸島 (Phoenix Is.)	310, 851
フェフォ (Fai Fo 交趾の日本町)	96, 100, 105
フェプロ (比島の郡 Pueblo)	947
フェリケルザム (露海軍少將 Folkersam)	491
フェリペ二世 (西 Felipe II. (*フィリップ二世))	
フェルナンデス (西 Fernandez.)	962
フェルナンド・ポ (アフリカの西班牙牢獄 Fernando Po'.)	951
フォークランド沖海戦 (アルゼンチン Falkland)	554, 559
フォストフ (露海軍大尉 Nikolai Alexandrovitch Chvostov. 1776-1809)	202
フォルシス (英印度太守 Sir Thomas Douglas Forsyth. 1827-86)	324
フオン島 (Huon I.)	1011
ブカ島 (Buka I.)	844
フグリ (印 ベンガル Hugli)	113
ブチャーチン (露提督 Euphimijs Putiline) 190, 228, 231, 381	
フトゥナ島 (Futuna I.)	864
フナフテ島 (Funafuti I.)	848
ブノン・ペン (柬埔寨 Phnompenh)	100, 105, 990
フーバー (米大統領) (*フーヴァ)	
ブホール伯 (西比島大守 General Conde de Casped Enlogio des Fujur)	936
ブーラ條約 (Burha. 布拉條約 1727年)	

フライ河 (パプア Fly R.)	839
ブライ (英提督 William Bligh. 1753-1817)	849, 852, 857, 866
ブラウン (英陸軍少將 Brown)	252
ブラッシーの戦 (Battle of Plassey 1757 年)	118
ブラット (米總領事 Spencer Pratt)	954
ブラット (米總領事 Spenser Blat)	962
ブラネット號 (獨測量船 Planet)	650
ブラリ河 (パプア Purari R.)	839
ブランケット (英駐日公使 F. R. Plunkett)	410
フランシスカン派 (Franciscano)	947, 1059
フランシスコ會 (Franciscan)	59, 76, 108
フランス・フィールド (パナマ飛行場 France Field)	924
ブランド (獨公使 Max August Scipio Von Brandt. 1835-)	383
ブリアン (佛外相 Aristide Briand. 1862-1932)	588
ブリスベーン (濠 Brisbane)	788
ブリティッシュ・コロンビア British Colombia)	880
プリピロフ諸島 (ベーリング海 Pribilof Is.)	152
フリーメーソン (Freemason)	951
ブリヤート蒙古族 (Briat Mongols)	146
ブルー山脈 (濠 Blue Mountain)	771
ブルューマウンテン (*ブルー山脈)	
ブルューイン (米公使 Robert Hewson Pruyn) 241, 254, 257, 271	
プリンス・ウエールズ島 (Prince of Wales I.)	842
——ハイウェー (濠 Prince High-	



パーマーston (英外相 Henry John Temple Palmerston 1784-1865)	163, 189	ハルマン (佛安南理事官 F. Jules Harmand)	319
ハミルトン (カナダ Hamilton)	872	バルミラ島 (Palumyra I.)	980
バラオ島 (内南洋 Palaw I.)	437, 554, 648, 668	バルメロラ侯 (西比島州知事 Marquis Barmelora)	936
バラコル (印 Palakollu)	112	ハーレー (F. Hurley)	840
バラソル (印 Baiasor)	113	ハレアカラ火山 (布哇 Mt. Halea kala)	929
バラムバンガン島 (ボルネオ Balamambangan I.)	812	パロス (西 Palos)	888
バラワン島 (比 Palawan I.)	938	バロン・タガログ (比 Baron Tagalog)	945
バランガイ (比島の村 Palangay)	947	ハワイ島 (Hawaii I. 布哇)	441, 926
バリオ (比島の村 Barrio)	947	——諸島 (Hawaii Is.)	314, 925
ハリス (米領事 Townsend Harris, 1804-78)	232, 234, 239	ハワード (英提督 Charles Howard, 1629-85)	934
ハリソン (米比島總督 Francis Burton Harrison)	965	バンク群島 (Banks Is.)	866
ハリバ (Halibut 又 Holibut)	912	バンコック (泰 Bangkok 碧谷)	762
ハリボ-高原 (チモール Balibo)	1062	バンコ・ナショナル・ウルトラマリーノ (葡銀行 Banco Nacional Ultramarino 大西洋海外分局銀行)	1078, 1086
ハリマン (米實業家 Harriman)	525, 526, 529	パンジャブ (印 Panjab)	164
バリントウオク (比 Balintawac)	945	バ-ンズ (米下院議長 Banes)	966
バリントワーク (同上)	951	バンドラ島 (Banda I.)	66
ハル島 (フェニックス諸島 Hull I.)	851	バンタム (爪哇 Bantam)	55, 62, 65, 1033, 1035
——事件 (Hull Trouble)	491	バンド (チモール長サ單位 Hand)	1072
バルチック艦隊 (露 Baltic Fleet)	489, 492, 679	バンドラ號 (英船 Pandora)	850
バルチャ (Parthia 安息國)	22	バンバリー (濠 Bunbury)	788
ハルトレー (英商人 John Hartlay)	403	ハンペリー (米鑛山技師 Raphael Pumpelly)	300
バルプ (Pulp)	869	ハンモンド島 (Hammond I.)	842
バルフォア (英全權 Arther James Balfour, 1848-1930)	573	波羅 (ボルネオ Borneo) (*ボルネオ)	34
バルボア (西 Vasco Nunez de Balboa, 1475-1517)	58	馬韓	602
——港 (パナマ Balboa Hr.)	899, 915	馬關係約	

馬山浦租借條約 (露韓 1900年)	484	萬福麟	612
馬占山	612, 613	萬寶山事件 (昭和六年 1931)	601, 615
巴里條約 (The Treaty of Paris 1898年米西)	962	蠻社の獄	212
——約定 (元治元年)	270		
廢藩置縣	340		
萩の亂 (明治9年)	363		
白江口 (*白村江)			
白村江 (白江口)	37		
白蓮教徒の亂 (1796年)	138		
爆彈三勇士	627		
箱館奉行	206, 294, 297		
支倉常長 (與市、六右衛門)	79, 652		
八八艦隊	580, 583, 596		
八王寺同心	207		
八幡船 (バハン船)	89		
蜂須賀齊裕 (徳島藩主)	281		
服部常純 (歸一、目付)	295		
花房義質 (駐韓公使)	369, 416, 417		
河内包圍 (1891年)	432		
濱田彌兵衛	84, 95, 99		
林子平	1016		
——董 (駐英公使)	469		
——正明 (大藏省租稅權助)	389		
原 (マルチノ Martino)	73		
原城	84, 109		
原田孫七郎 (肥後の人)	75, 934		
反射爐 (伊豆中村)	288		
汎米會議	594		
漢口英租界事件 (昭和二年 1927)	608		
——事件 (同上及同十一年)	609, 636		
——日支兵事件 (同上)	609		
——排日罷業事件 (昭和四年 1929)	609		
番禺縣 (廣東)	693		
萬縣事件 (大正十五年 1926)	608		

[ヒ]

ビガフェッタ (伊 Antonio Pigafetta, 1491-1535)	831
ビキヤクナバト (比ブラカン州)	952
——條約 (The Pact of Biacnabato)	952, 954
ビサヤ諸島 (比 Visaya Is.)	931
——族 (Bisaya)	824
ビサヤン族 (Visayans)	941
ピース (米 小笠原島民 Benjamin Peace)	385
ビスカイノ (西船隊司令官 Sebastian Viscaino)	79
ビスマルク (獨宰相 Otto Edward Leopold Bismark, 1815-98)	310, 316, 436, 543
——群島 (Bismarck Archipelago)	313, 554, 859
ピーター (英船長 Cap. Peter)	848
—— (露帝 P. Weikii 又 Peter the Great 1672-1725)	152
ピーチェー (同 Cap. Beechey)	380
ビット印度法案 (1784年)	119
ビットカイルン島 (Pitcairn I.)	856
ビッドル (米海軍代將 James Biddle, 1783-1848)	218
ピーテル・ノイツ (蘭臺灣長官 Pieter Nnyts, 1627-29)	84, 99
ピニャルー (東埔寨 Pinhalu)	100, 105



日露協約(1907年)	531, 539, 574
——戦争(明治三十七、八年戦役)	482
——追加條約(安政四年1857年)	233
——兩國人雜居規則書	373
入城問題(1849年廣東)	182

[ヌ]

ヌーヴェーヌ・シセーヤール島(Nouvelle Cythere I.)	1014
ヌクアロファ市(トンガ島 Nukualofa)	853
ヌヌラ平原(チモール Nunura)	1062
ヌメア島(ニューカレドニア Nume I.)	1010, 1082
沼間平六郎(長崎奉行支配調役)	294

[ネ]

ネアルコス(Nearchos)	21
ネヴィゲートル島(Navigator I.)	863
ネギダル族(Negidals)	141
ネグリトー族(Negritos)	839, 941, 943
ネボガトフ(露第三艦隊司令官海軍少將 Nebogatov)	491
ネルソン殖民地(新西蘭 Nelson)	792
ネルチンスク城砦(シベリヤ Fort Nertchinsk)	148
——條約(Nertchinsk Treaty 1689年)	150
根立助七郎(勘定奉行屬吏)	294
根津勢吉(海軍大尉)	389

熱河侵犯事件(昭和十年1935)	636, 637
------------------	----------

[ノ]

ノヴァ・アソコラ(チモール Nova Ancola)	1081
——・スコティア(カナダ Nova Scotia)	867
——・ベンフィカ(チモール Nova Bemfica)	1071
ノヴゴロッド(露 Novgorod.)	142
ノオ島(ニューカレドニア Nou I.)	1009
ノックス(米國務卿 Philander Chase Knox. 1853-1921)	530, 539
ノビスパニヤ(Nova Hispana 新西班牙)	59, 946
ノーム(アラスカ Nome)	911, 912
ノルマンデー島(Normandy I.)	841
乃木希典(第三軍司令官陸軍大將)	490
能古島(筑前残島)	42
野津大佐	679
野村吉三郎(第三艦隊司令長官海軍中將)	628
烽火の制	37

[ハ]

パキン島(太平洋 Pakin I.)	296, 386
パアバ島(ニューカレドニア Paaba I.)	1009
ハイズ(英巡邏官 J. G. Hides)	840

ハイセ(獨將軍 Heyse. 海色將軍)	147
バイヤード號(佛クルルペー旗艦 Bayard)	330
バイロン(英海將 John Byron 1723-86)	846
バイン島(Pine I.)	1011
ハインリヒ(獨皇弟 Heinrich)	455
バウ地方(サラワク Bau)	828
バウアン島(Bauan I.)	842
ハーヴェイ(英 Cap. Hervey)	856
——群島(Hervey Is. 又 Cook Is)	855
バウド(蘭植民大臣 Jean Chretien Bawd)	216
ハウトマン(蘭 Cornelis de Houtman)	62
パウモト群島(Paumotu Archipelago)	314, 1013
ハウランド島(Howland I.)	979
ハウロ五世(ローマ法王 Paulo V)	80
パウロフ(露駐韓公使 Pavlov)	484
バウンティ號(英艦 Bounty)	849, 853, 857
バギョー市(比 Baguio City)	934, 946
パークス(英公使 Sir Harry Smith Parkes. 1828-85)	265, 267, 274, 277, 281, 328, 376, 385, 388, 389, 390, 393, 395, 396, 409, 773
バグンバヤン刑場(比 Ragumbayan)	950
パゴパゴ港(ツツイラ島 Pago Pago Hr.)	312, 438, 439, 978
バコボ族	941
バサルスト(濠 Batharst)	771
バシュコフ(露 エニセイスク太守)	

Pashkof)	148
パーシング(米將軍 John Joseph Pershing. 1860-)	560, 894
パース(濠 Perth)	768, 779, 788
パセム(スマトラ Pacena)	55
パタカ(葡貨 Pataca. P. \$)	1069
バタビア(爪哇 Batavia)	66, 1035
パタニ(泰 Patani 太泥)	63
ハーデング(米共和黨 29代大統領 Warren Gamaliel Harding. 1865-1925)	583, 894, 965
パッターソン(英 Patterson)	845
ハッバート(米公使 Richard B. Hubbard)	411
パテルノ(比 Pedro A. Paterno)	952
ハドソン灣(米 Hudson Bay)	869
——灣會社(米 Hudson Bay Co.)	867
バトノートル(佛駐清公使 Jules Noyeas Patonotre. 1845-)	320
バーナーヂストン(英陸軍中將 Bernardiston)	553
バナバ島(Banaba I.)	847
パナマ(Panama)	890
——運河(Panama Canal)	445, 447, 914
パナルカン(爪哇 Panarockau)	56, 1033
バーニー島(フェニックス諸島 Birnie I.)	851
ハノヴァー港(Hanover Hr.)	866
バハマス群島(Bahamas Is.)	888
ハバロフ(露 Yarofei Khabarof)	147
ハバロフスク(露 Habarofsk)	1019, 1023
バプア島(Papua I.)	838
ハーベル(獨長官 Haber)	858
パポイア(Papua 即バプア)	839



[ナ]

ナウル島 (Nauru I.)	313, 790, 861
ナガエヴォ (露 Nagaabo)	1026
ナシユヴィル號 (米艦 Nashville)	447
ナデジュダ號 (露船 Nadezhda)	201
ナーナク (シク盟主 Nanak)	164
ナビア (新西蘭 Napier)	800
ナビヤー (英 Sir William John Napier 1786-1834)	174
ナポレオン (佛帝 Napoleon Bonaparte 1769-1821)	160
内藤如安	935
中浦 (ジュリアン Julian)	73
中臣祐春	45
中牟田倉之助 (海軍中將)	285
中村敬輔	292
——小市郎	206
——大尉事件 (震太郎、昭和六年 1931)	601
中山事件 (昭和十年 1935)	635
中島信行 (自由黨、衆議院議長)	350
永井尙志 (岩之丞後ち玄蕃頭)	285, 289
長崎奉行	230
——製鐵所 (後ち造船所)	286
長島 (新南群島 Itu Aba I.)	673, 676
七重薬園	300
鍋島直彬 (沖繩縣令)	396
——直正 (議定、蝦夷開拓督務)	373, 375
——直大 (肥前藩主)	340, 342
生麥事件 (文久二年)	251, 254
南京條約 (道光二十二年 1842)	177, 326, 603

——租界事件 (昭和二年 1927)	609
南遣支隊 (第一)	553, 651
—— (第二)	554, 937
南口驛事件 (昭和十二年 1937)	637
南星丸 (二百噸)	669, 672
南禪寺 (京都)	93
南島商會	401, 653
南北戦争 (米 1861-65 年)	896
南滿洲鐵道會社	467
南蠻人	70
——船	70
南洋興發會社	660, 1077
——殖産會社	660
——拓殖會社	661, 664
——廳	651, 658
——貿易會社	653, 661
——貿易日置合資會社	653

[ニ]

ニイハウ島 (布哇 Nii Haw I.)	926
ニウアトプトンブ島 (Niuaatombu-tombu I. 又 Keppel Is)	852
ニウエ島 (Niue I.)	856
ニカラグア (Nicaragua)	890
——運河 (Nicaragua Canal)	341, 446, 448, 915
ニコライ (露皇太子 Nikolai 又 Nicholas)	452
——二世 (露 Alexander Dro-vitch Nikorai II. 1868-1918)	453, 456, 567
ニコライエフスク (露 Nikolaiefsk 尼港)	193, 293, 1023

ニザム侯國 (印 Nizam)	160
ニース (獨宣教師 Francois Xavier Nies)	455
ニックスヘッド (新西蘭 Nick's Head)	791
ニッサン島 (Nissan I.)	859
ニヅネ・カムチャツカ城砦 (カムチャツカ Fort Nishne-Camchatka)	151
ニッパ (Nippa)	946
ニッパ・ハウス (Nippa house)	946
ニテンデー島 (Nitendi I.)	845
ニユーアイランド島 (New Ireland I.)	312, 859
ニユーカッスル (濠 New Cestle)	788
——カレドニア (New Caledonia)	308, 1008
——ギニア (New Guinea 蘭領)	1042
—— ( " " 濠洲委任)	312, 857
——サウスウェルス (濠 New South Wales)	771, 772, 774
——ジーランド (New Zealand)	171, 307, 789
——デオルヂア島 (New Georgia I.)	844
——ハノーヴァー島 (New Hannover I.)	859
——ブリテン島 (New Britain I.)	312, 859
——プリマス (新西蘭 New Plymouth)	800
——ヘブリデス島 (New Hebrides I.)	314, 432, 864
——ホルランド (New Holland)	771
——ヨーク號 (米船 New York)	

——ラウエンブルグ島 (New Lauenburg I.)	859
ニュルンベルグ號 (獨艦 Nurnberg)	554
ニール (英代理公使 Nieal)	249
二〇三高地	490
新見正興 (豊前守、外國奉行)	289
新納久修 (刑部)	274, 278
西青島 (新南群島 West York I.)	676
西周	292
西島島 (新南群島 Spratly 又 Storm I.)	676
西原借款	564
西ローゼン協定 (露 Rosen 1896 年)	483
日英修交通商條約 (安政五年 1858 年)	236
——同盟 (第一次明治三十五年)	469, 523, 539, 547, 579, 585
—— (第二次明治三十八年)	513, 522, 523, 539
日韓協約 (明治三十八年)	527
日清戦争 (明治二十七、八年)	335, 370
日布渡航條約 (明治十七年)	935
——勞働移民條約 (同上)	935
日米修交通商條約 (安政四年 1857 年)	234
——和親條約 (安政元年 1854 年 神奈川條約)	226
日本海海戦 (明治三十八年五月二十 七、八日)	497
——人排斥協會 (米 1905 年)	534
——租界	607
——町	100
——府 (任那)	35, 36
——丸	88
——郵船會社 (N Y K.)	360, 474, 908
日蘭追加條約 (安政四年 1857 年)	233



デニソン (米顧問 Henry Willard Denison. 1846-1922)	410
テノム (ボルネオ Tenom)	821
デヒョー (獨 Dehio)	352
デュネデイン (新西蘭 Dunedin) 794, 800	
デリー市 (チモール Concelho de Dilly) 1059, 1066, 1082	
—— (印 Delhi)	117
デリベランス島 (Deliverance I.)	842
デルウェント (濠 Derwent)	771
デルカッセ (佛外相 Theophile Delcasse. 1852-1923)	495
テルナテ (爪哇 Ternate)	56
デロング (米公使 C. E. De Long) 328, 331, 376, 384, 388	
デント (英 Sir Alfred Dent)	813
出島 (長崎)	81, 85, 109
出貿易	293
鄭芝龍	129
—成功 (芝龍の子、國姓爺)	68, 129
—和	29, 812
—永寧 (駐清日本代理公使)	394
艇盜の亂 (1810 年)	139
撤兵條約 (露清 1902 年)	482
寺内正毅 (首相、元帥、陸軍大將)	564
寺島宗則 (薩藩士) 340, 376, 388, 389, 396, 407, 408	
天津事件 (昭和六年 1931)	613
——條約 (日清)	419
—— (獨清 1861)	605
—— (對英佛 1858)	191, 603, 604
天竺德兵衛	94
——物語	94
天門寺	72
天理教徒の亂 (1813 年)	138

[ト]

トゥイード河 (濠 Tweed R.)	780
トウィーズミュア男爵 (カナダ Baron Tweedsmuir)	873
ドウシー島 (Ducie I.)	856
トウブアイ群島 (Tubuai Is.)	1013
トウラギ港 (Tulagi Hr.)	846
ドウルピーユ (佛 Dumont D'Urville)	858
トキハギキョウ属 (Casuarina equisetifolia)	1071, 1073
トケラウ群島 (Tokelau Is. 又 Union Is.)	851
ドジウグドイル山脈 (露 Mt. Dzudgdir)	1018
ドスト・ムハマド王 (アフガン王 Dost Muhammad)	163
トトイラ島 (Tutuila I.) (*ツツイラ島)	
トバウ (トンガ島王 Tubau)	853
トハチュエフスキー (露元帥 Marshal Tukhachevsky)	1021
トバル (コロンビア將軍)	447
ドーベンスキー (露 Doubenski)	145
トボル河 (露 Tobol R.)	142
トボルスク (シベリア Tobolsk)	144
トーマス卿 (英 Sir Thomas Shenton Whitelegge)	804
ドミニカン派 (Dominicans)	947
ドミニコ會 (Dominican)	59
トムスク城砦 (シベリア Fort Tomsk)	144
トムソン (英 Basil Thomson)	428
トメ・ピレス (葡遣明使 Thome	

Pires -1524)	56	——事件 (第一次文久元年)	248
ドラヴィダ族 (Dravidans)	1063	—— (第二次文久二年)	249
トラック島 (内南洋 Truk I.)	553	東方見聞録	43, 69
トルデシラス條約 (Trato de Tor-desillas 1494 年)	946	——商會 (佛國)	115
ドルフィン號 (英船 Dolphin)	1014	東路軍	45
トルブジン (露 A. Tolbuzin)	148, 150	遠山景晉 (金四郎、目付)	201
トーレ將軍 (西 Calos de la Torre)	950	藤堂高虎	91
ドレーク (英海將 Sir Francis Drake. 1545-95)	64, 73, 77, 934	島民學校 (内南洋)	658
トーレス (西 Cosme de Torres)	769	鄧鏗 (海南島鎮守使)	684
—— (英 Louis Torres)	844	——澤如	685
——海峽 (Torres st.)	841	——一本股 (瓊縣善後處長)	684
——海峽諸島 (Torres st. Is.)	841	唐炯 (雲南巡撫)	319
ドレッドノート號 (英艦 Dreadnought)	545	統監府 (朝鮮)	527
トロブリアンド島 (Trobriand I.)	840	土肥原泰徳純協定 (昭和十年)	638
トロント (カナダ Toronto)	872	獨逸アジア銀行 (Doutch-Asiatische Bank)	563
トンガ諸島 (Tonga Is.)	428, 852	——艦隊方案 (1898年)	543, 545
トンバラ島 (Tombara I. 又 New Ireland)	860	——殖民協會 (Doutcher Kolonialverein)	311
刀伊の賊	42	——大艦隊擴張計畫	311, 521
耽羅島 (トムラ島、即ち濟州島)	38	——南洋燐礦株式會社	663
東印度會社 (和蘭)	65, 112, 1034, 1035, 1036	——燐礦株式會社	650
—— (英國)	65, 114, 168, 694, 801	獨木船 (浮寶)	30
—— (佛國)	115	獨立黨 (朝鮮)	418
東海鎮守府 (横濱、明治九年)	370	徳王 (蒙古聯合自治政府主席)	646
東學黨匪	420	徳川昭武 (民部公子)	272, 280
東京府土族授産資金	653	——家康 (初代將軍)	76, 80, 87
東江 (廣東)	702	——慶喜 (十五代將軍)	254, 266
東郷平八郎 (元帥海軍大將)	487, 489, 936	所茂八郎 (海軍大尉)	628
東山道鎮臺 (石巻)	341, 362	飛鳥島 (新南群島 Sin Cowe I.)	676
東清鐵道會社	454, 467	富山保高 (元十郎、幕史)	206
——契約 (1896 年)	453	富井政章	352
東禪寺 (東京高輪)	248	豊臣秀吉	74, 88
		屯田兵	43, 298, 380



1849-95)	546, 547	直捌制度 (チキサバキ)	206, 301
チャナ號 (露艦 Diana)	202	父島 (小笠原島 Peel I.)	225
チャービス島 (Jervis I.)	842	茶屋四郎次郎 (京都の人)	94, 95
チャモロ族 (Chamorros)	655	中國航空公司	703
チャルチノフ (露 Ivan Chartinof)	152	—新青年黨	646
チャワード (James Churchward)	835	中山國 (琉球)	392
チャンパ (Champa 占城) (*占城)		中日條約 (慶應元年 1865、大正四年 1915)	602, 603
チャンピオン (英警察官 Ivan F. Champion)	859	—平和條約 (明治七年 1874)	602
チューウェー (*デウイ)		中佛條約 (道光二十四年 1844)	604
チュクチ族 (Chukchis)	140	中米條約 (米支 同上)	605
チュニス占領 (佛 1881 年)	430	—諸國軍備制限條約 (大正十二年 1923)	594
デュビー (佛商 Jean Dupis)	317	朝鮮役 (—出兵)	90
デュプレー (佛印度總督 Marquis Joseph Francois Dupleix. 1697-1763)	117, 121	—併合 (明治四十三年 1910)	537
デューマ (佛 Benoit Dumas)	117	—問題	483
チュルコフ (露將軍 Tchurkof)	144	朝陽丸 (幕府船)	296
ジョルヂヤン島 (Georgian I.)	1013	—門事件 (昭和十一年 1936)	636
ジョン・ウィリアム (英宣教師 John Williams. 1796-1839)	856, 863	長安	38
ジョン・バーフ (英 John Burf)	863	長髮賊の亂 (道光三十年) (*太平天國の亂)	
チルトフ (露海相 Tirtov)	456	長明丸 (帆船九六噸)	653
チルピッツ (獨海相 Alfred von Tiritz. 1849-1930)	439, 543, 545, 554	張允榮	639
千島樺太交換條約 (明治八年 1875)	379, 1016	—海鷗	611, 612
千々岩清左衛門 (Miguel ミゲル)	73	—學良 (張作霖ノ子)	598, 602, 613, 615
知藩事 (明治二年制定、明治四年廢止)	341	—作霖	602
智亞海軍協定 (1902 年)	582	—自忠	639
芝罘條約 (明治九年 1876 年)	328, 60	—芝洞 (翰林院侍讀、廣東總督)	325, 685
治安維持會 (中華民國)	644	—達	685
血の日曜日 (露都 1905 年)	495	—發奎	634
		—鳴岐 (廣東總督)	695
		張北事件 (第一次、第二次 昭和九年 1934)	636
		姚春魁 (瓊崖道尹)	634
		趙士槐 (支安撫使)	634
		—汝适 (宋)	931
		—德裕	684

珍田捨己 (駐米大使)	570
沈鴻英 (海口鎮守使)	684
—鴻烈 (青島市長)	615
—桂芬 (清國總理衙門大臣)	397
鎮西奉行	44
陳漢光 (濟棠の弟)	685
—炯明	684, 695
—世華 (綏靖督辦)	684
—銘樞 (廣東省主席)	684
—和卿	43

【ツ】

ツェペリン飛行船 (獨 Zeppelin)	1024
ゾーフ (蘭出島商館長 Hendrik Doeff 道富 1777-1835)	209
ズスン族 (Dusuns)	814, 832
ツツイラ (サモア島 Tutuila)	313, 439, 978
———占領 (1872 年米)	438, 439
ゾーメ (佛印總督 Paul Doumer. 1857-1932)	432
ツーラン (交趾の日本町 Tourane)	95, 100, 105
ツルハンスク (シベリヤ Turkhansk)	145
ツングース族 (Tungusi)	141, 1018
津田真道	292
通車協定 (日支、昭和九年 1934)	638
通郵協定 (日支、昭和九年 1934)	638
月の浦 (陸前)	80
筑波 (帝國軍艦)	401
敦賀丸	936

【テ】

ディエゴダ・ロジャ (葡航海者)	648
ディスアッポイントメント島 (Dis-appointment I.)	1013
ディスカバリー號 (英帆船 Discovery)	925
ディトリヒ (獨東洋艦隊司令官 Dietrich)	455
ティマル (新西蘭 Timaru)	800
テイラー (地理學者 Griffith Taylor)	769
ティルピッツ (獨海相 Alfred von Tirpitz) (*チルピッツ)	
デウイ (米アジア艦隊司令官、海軍少將 Admiral George Dewey. 1837-1917)	442, 954
デ・ウィット (總領事 J. K. De Witt)	239
デウエキ (Dewey) (*デウイ)	
テオドール (露帝 Theodore I. 在位 642-49)	144
テキサス州 (Texas State)	889
———共和國 (Texas 1845 年米に併合)	889
デ・キロス (西 Pedro Fernandez De Quiros)	849, 1013
テクセル港 (蘭 Texel)	76
デジネフ (露 Simon Dejinei)	146
デスポアン (佛提督 Despoint)	1009
テツン語 (Tetun 又 Teto)	1064
テト (Teto 又 Tetun) (*テツン)	
テナセリウム地方 (緬甸 Tenasserim)	161, 132
テニアン島 (内南洋 Tenian I.)	656



815, 824, 825	Joseph Veustu	927	
タヴア島 (フィジー Tavua I.)	851	ダムビーヤ (英航海者 William Dampier. 1652-1712)	770
タヴィトフ (露海軍少尉 Gavriilo Ivanovitch Davidov. 1784-1809)	209	タヤバス州 (比 Tayabas)	949
タヴェイロ (チモール Vila Taveiro)	1081	ダラー汽船會社 (米 Dollar S. S. Lines)	908
タウファハウ (トンガ島土人 Taufahau)	853	タラナキ殖民地 (新西蘭 Taranaki)	792
タウンズヴィル (濠 Townsville)	788	タール活火山 (比 Valcano Taal)	939
タガログ王 (比 King of Tagalog)	949	ダルージ侯 (英印度總督 James Andrew Brown Ramsay Dalhousie 1812-60)	165
——族 (Tagalog)	931, 941	タルナゲン島 (Turnagain I.)	842
ダグパン (比 Dagupan)	953	タルヒ (西軍人 Targi)	954
ダゴホイ (ボホール島人 Dagojoy)	949	タルラック地方 (比島 Tarlac)	973
タコンバウ (フィジー酋長 Thakombau)	849	タロ (チモール Ta'o)	1072
タスマニア島 (Tasmania I.)	307, 767, 791	タワオ (ボルネオ Tawau)	820
タスマン (蘭 Abel Janszoon Tasman. 1603-59)	770, 791, 849, 852	タワーソン (英 Captain Tawerson)	111
——山 (新西蘭 Mt. Tasman)	792	ダーン (米陸相 Dunn)	966
タタウ (サラワク Tatau)	828	タンギタ (クック島の勇士 Tangita)	856
タタ・マイ・ラウ山 (チモール Mt. Tata Mai Lau)	1062	タンクレード號 (佛艦 Tancrede)	257
ダッチハーバー (アラスカ Dutch Harbour)	911	タンジョール王 (印 King of Tanjore)	117
ダッフェリン (英印度太守 Marques of Dafferin and Alva)	322	ダントロカスター (佛 Bruni Dén-trecasteaux)	844, 1009
ダバオ市 (比 Davao)	937, 946	——島 (Déntrecasteaux I.)	840
タヒチ島 (ソサイチー群島 Tahiti I.)	308, 1013	タンナ島 (Tanna I.)	864
タフト (米共和黨 27 代大統領 William Howard Taft. 1857-1930)	537, 915, 963, 965	ダンピア (英航海者 William Dampier. 1652-1712)	860
——委員會	445	ダンピール (英 William Dumpier)	(*ダンピア)
ダミエン (白 Joseph Damien 又		ダーンレー島 (Darnley I.)	842
		田口卯吉	401, 653
		田中光顯 (戶籍頭)	406
		——不二鷹 (文部大臣)	406
		——勝助 (京都の商人)	79

田邊太一 (外務省四等出仕)	389	——正雅 (甲斐守、外國奉行)	253
田沼意次 (老中)	204	武田勝頼	87
多治比真人廣成	38	——信玄	87
伊達政宗	79	——成章 (斐三郎、諸術調所教授役)	293, 298
——宗城 (宇和島城主)	278	立花種恭 (出雲守若年寄)	266
太宰府	37	龍ノ口 (相模國)	44
太古公司 (太古洋行)	702	谷 干城 (陸軍少將)	347
太平天國の亂 (道光三十年 1850 年)	187, 318, 961	——暘卿 (九條家醫師)	381
太平洋	58	種子島	49, 52, 70, 1083
大院君	369, 415, 417	儋耳郡	677
大日本航空會社	765	塘沽停戰協定 (昭和八年 1933)	638
大砲製造所 (東京小石川關口水道町)	288	段祺瑞 (中華民國國防總理)	561, 562, 563
大掘抜井戸盆地 (濠洲)	781	蚤族民	684
大本營	640		
臺灣事件 (明治六年)	392		
——征伐 (同 七年)	327, 328, 363, 368		
特詔局 (同 二年)	343		
第一次革命 (支那)	(*辛亥革命)		
第二特務艦隊	552, 566		
——和氣丸 (百二十五噸)	672		
第二十九軍 (中華民國)	638		
平清盛	42		
高杉晋作	276		
高田屋嘉兵衛	202		
高野長英	212		
高橋是清	492, 496		
高平小五郎 (駐米大使)	498		
——ルート協定 (Elihu Root. 1908)	536		
高山右近	101, 107		
——友祥 (高槻城主)	935		
竹内保徳 (下野守、文久の遣歐使節)	246, 290		
竹崎季長	44		
竹添進一郎	418		
竹本正明 (隼人正、外國奉行)	253		

[チ]

チェルニゴフスキー (露 Chernigovski)	148
チェーンアーチベラゴ (Chain Archiperago)	1013
チェンバーレン (英植民大臣 Joseph Chamberlain. 1836-1914)	426
チボウ (ビルマ王 Thebau)	322
チモール (蘭領 Timor)	1033, 1059, 1060
——島 (同 Timor I.)	1059
——海 (Timor Sea)	1060
——殖民地 (Timor Colony)	1067
チャーナム諸島 (新西蘭 Chatham Is.)	789
チャーチ (英艦長 Commander Edward J. Church)	389
チャーチル (英海相 Randolph Henry Spencer Churchill)	



スバ港(フイジー Suva)	850
スパファリ(露 N. G. Spaphary)	149
スパンベルグ(丁抹 Martin Petrovitch Spanberg. -1761)	198
スマトラ(馬來 Sumatra 蘇門答臘)	1040
スマイルノフ(露 Smirnob)	1022
スムビング號(蘭艦 Soembing 後ち幕艦觀光丸)	284
スラート(印 Surat)	68, 113, 116
——號(英船 Surat)	131
スルー王(King of Sulu)	812
スールヴィーユ(佛 Surville)	844
スワイン島(サモア Swain I.)	852, 978
スワル港(比 Sual of Pangacinan)	953
スワロー號(英帆船 Swallow)	857
スワンリバー(濠 Swan River)	772
スーロ郡(チモール Circumsericao Civil de Suro)	1067
素戔鳴尊	30
隋 陽帝(支、在位 605-616)	24, 25
水曜島(Wednesday I.)	842
末次船	98
——平藏(長崎代官)	94, 95, 110
末吉船	95, 98
——孫左衛門(攝津の人)	94, 95, 98
菅沼貞風(肥前平戸の人)	936
菅原道真	39
鈴木經勳(外務省御用掛)	400, 652
角倉了以(京都)	94
——與一(了以の子)	94
汕頭事件(昭和十一年)	636
駿府	79

[セ]

セイロン島(印、Ceylon I. 錫蘭島)	27
セシュ(佛極東艦隊司令官 Jean Baptiste Thomas Medee Cecille)	215
セバストポリ要塞(Fort Sevastopoli)	1024
セブー島(比 Cebu I.)	59, 930, 938
——市(比 Cebu)	946, 954
セミラミス號(佛艦 Semiramis)	257
セラム島(モルッカ島 Ceram 又 Serang)	1041
ゼーランヂャ(臺灣 Zeelandia 現在の安平)	67, 127, 129
——城砦(Fort Zeelandia)	127
セリア(サラワク Seria)	828
セリヤ油田(サラワク Seria Oil Field)	828
セーリス(英司令官 John Seris)	81
セレベス島(蘭領 Celebes I.)	1041
セント・ジョージ城(ペルシヤ Saint George)	69
——(印マドラス)	113
瀬戸内海の水軍	85
征韓論(明治四年)	367, 388, 416
成都事件(昭和十一年 1936)	636
青島會談(昭和十五年 1940)	646
——事件(昭和七年 1932)	610, 615
西安事件(昭和十一年 1936)	635
西江(廣東)	702
西太后	325, 462
西南航空公司	692, 703
——戦争(明治十年)	363
西北地方(カナダ N. W. Territo-	

ries)	870
關ヶ原の戦(慶長五年 1600)	65
戚繼光(明の將軍)	89
錢屋五兵衛	110
千戸所(海南島昌江縣の外砦)	679
占城(Champa)	27, 99
占婆(Champa) (*占城)	
泉州	27
宣統帝(清帝)	563
宣撫工作	644
善後大借款	538
善福寺(東京麻布)	239

[ソ]

ソヴイェト(C. C. P.—蘇聯邦)	567, 568, 575, 1019
ソエト(支名臣、索額圖)	150
ソサイター群島(Society Is.)	314, 1012
ソシエダ・デ・アクリコロ・パトリ	
ア・エ・トラバーリヨ・リミター	
ダ(葡 S. A. P. T.— Sociedade Agricola Patria e Trabalho Lda.)	(*S. A. P. T)
ソシエテ・ジェネラル(佛銀行 Societe Generale)	272
ソテロ(西宣教師 Luis Sotelo. 1574-1624)	80
ソリスベリー・デ・ソベラール秘密協定(Salisbury de Several 1899 年)	1068
ソールスベリー(英首相 Robert Arther Talbot Gascoyne Cecil Salisbury. 1830-1903)	

	457
ソーレ(米バルミラ號船長 Sawle)	980
ソロモン群島(Solomon Is.)	843, 844
ソロン族(Solons)	141
蘇東坡(宋)	678
遼江作戦	644
宗 義達(對馬藩主)	48, 415
宋子文	692
一哲元(支、第二十九軍長)	638
曾紀澤(清駐佛英公使)	319, 325
一國藩	188
曾根荒助(大藏大臣)	525
曹汝霖(支交通部長)	692
一養甫(支廣州市長)	692, 696
增祺(支奉天將軍)	468
草梁公館(朝鮮草梁)	415, 417
造船獎勵法(明治二十九年)	474, 510
副島種臣	328, 344, 367, 376, 378, 383, 384, 387, 388, 393, 406, 416
——村八(海軍中佐)	672
孫逸仙(支中山、孫文)	538, 695
一文	(*孫逸仙)
孫匪事件(昭和十年 1935)	635

[タ]

タイ(Tai 又 Sarong 泰、舊暹羅)	705
タイオワン島(Taijowan I. 今の臺灣)	67
タイデング・マクダフイ法(比 Tydings-McDuffie Act. 1934)	933, 966, 967
タイパ島(マカオ Taipa I.)	1084
ダイヤ族(Dayak 海陸二種族あり)	



シュ ハウテン (蘭 W. C. Schouten.)	844, 852	善英 (清全權)	177, 181
ショアセーニ島 (Choiseul I.)	843, 844	是應	(*大院君)
ジョージ・ギャップ湖 (濠 Lake George Gap)	780	指南針	(*羅針儀)
——・マスカレンハス (葡 George Mascarenhas)		自治州 (英 Province)	789
—— (*マスカレンハス)		——領 (英 Dominion)	789
ショート (米豫備陸軍中尉 Robert Short)	628	自由黨 (日本)	347
ショートランド (英 Shortland)	844	—— (カナダ Liberal Party)	874
——島 (Shortland I.)	843	西比利亚出兵	(*シベリア出兵)
ジョホール (Johor)	801	志賀重昂	400
ジョレー (佛艦隊司令官少將 C. L. J. Benjamin Jaures. 1823-89)	261	尖戸 璣 (朝鮮公使)	396, 397, 399
ジョンズ法 (John's Law. 1913 年)	965	品川沖臺場	284
ジョンストン島 (Johnston I.)	981	柴田剛中 (日向守、外國奉行)	287
シルヴァ (葡總督 Jose Celestino da Silva)	1060	潮満瓊 (シホミツタマ)	30
ジーロン (濠 Geelong)	788	——潤瓊 (シホヒルタマ)	30
シンガポール (Singapore. 新嘉坡)	801	島井宗室 (博多の人)	97
——島 (Singapore I.)	802	島津貴久 (薩摩領主)	71
シング (印 Ranjit Singh)	164	——忠恒	94
シンド地方 (印 Sindh 又 Scinde 身毒)	163	——忠義 (薩摩藩主)	340, 342
シンプソン港 (Simpson Hr.)	554, 860	——久光	251
シンボルナ港 (ボルネオ Port Semporna)	819	——義弘	91
C 式統治	571, 651	島原の亂 (寛永十四年 1637)	83, 109, 935
四國借款團 (英米獨佛 1911 年)	537	下關講和談判 (明治廿八年 1895)	421, 450
四道將軍 (東海、丹波、西海、北陸)	33	——條約 (同上)	450, 458
市 (チモール Concelho)	1066	——取極書 (元治元年)	262
市町村制 (明治二十一年)	350	下田條約 (日米條約、安政四年 1857)	232
市舶官 (宋清稅關吏)	678	沙面 (支、廣東)	704
——司	27, 693	——事件 (民國十四年、1925 年)	696
		上海北京路事件 (昭和五年、1930 年)	609
		——虹口事件 (昭和二年、1927 年)	609
		朱爲潮 (支瓊崖道尹)	684
		朱印狀	81, 92, 93
		——船	78, 92, 97, 108
		——船貿易	92
		珠江 (支、廣東河)	696
		珠崖郡	677
		集成館 (鹿兒島)	255

秀英砲臺 (支、海南島)	685	人頭稅 (葡領)	534
修正三民主義	646		
重役會 (ボルネオ Court of Directors)	815		
銃砲製造所 (東京湯島)	288		
十字軍	50		
肅慎 (人)	40		
醇親王 (清國攝政)	537		
春帆樓 (日、下關)	421		
處士横議 (幕府の禁令)	212		
女眞族	42		
招商局 (支、China Marchant ship Co.)	702		
尙泰 (琉球藩主)	392, 395, 396, 398		
——典 (同上、泰の子)	398		
蔣介石 (支國民革命總司令)	645, 696		
情妙寺 (名古屋)	95		
條約勅許 (慶應元年)	266		
殖民地會議 (英帝國 1887 年)	309		
白川義則 (上海派遣軍司令官、陸軍大將)	627		
白瀬齋 (陸軍輜重兵中尉)	517		
新羅征伐	35		
神武天皇	32		
神風連の亂 (明治九年熊本)	363		
眞珠灣軍港 (布 Pearl Harbour)	926		
憤機論 (渡邊華山著)	212		
新スペイン (New Spain)	59, 946		
新民屯法庫門鐵道問題	529		
秦始皇帝	20		
辛亥革命 (明治四十四年 1911 年)	537, 864		
辛丑條約 (明治三十四年 1901)	606		
紳士協約	535		
辰韓	34		
晋北自治政府 (大同)	644		
清佛戰爭 (明治十七年 1884 年)	329		
人種平等案	571		

[ス]

スエ河 (チモール Sue R.)	1070
スエズ運河 (Suez Canal)	916
——開通 (1869 年)	916
スカダナ (ボルネオ Sukadana)	812
スクラッチレー (英將軍 Peter Scratchley)	839
スタヂヒン (露 Stadukhin)	145
スタート (英 Cap. Charles Sturt)	771
スタノヴォイ山 (露 Mt. Stanobois)	145, 1018
スターリング (英東印度艦隊司令官海軍少將 James Stirling. 1791-1865)	229
スチューアード (米エリザ船長 William Robert Stewart)	211
—— (英博士 John Mc Donall Stewart)	773, 930
——島 (新西蘭 Stewart I.)	789, 791
ステヴンソン (英 W. C. Stevenson)	386
—— (英 Robert Louis Balfour Stevenson, 1850-94)	863
ステパノフ (露 Stepanof)	147
ストリックランド河 (バプア Strickland R.)	839
ストレムホフ (外務省アジア局長 Stremkhov)	378
ストロガノフ家 (露 Stroganof)	142



Is.)	925
サント・トーマス山 (Mt. Santo Tomas)	939
——・ドミンゴ城 (Fort Santo Domingo)	67, 128
サントメ (印度東岸 Sao Thome 現マドラス)	112
サン・ファン・デル・モンテの戦 (比 San Juan del Monte)	951
サン・フェリペ事件 (船 San Felipe)	75
サン・フランシスコ市 (米 San Francisco)	290
ザンボアंगा (比 Zamboanga)	973
左宗棠 (支閩浙總督)	324
佐賀の亂 (明治七年)	363, 367
佐々木高行 (司法大輔)	406
佐藤臯藏 (第二特務艦隊司令官、海軍少將)	566
鎖國令 (寛永十六年)	107, 1083
西園寺公望 (首相、公爵)	411, 527, 570
西海鎮臺 (小倉)	362
西海道鎮臺 (小倉)	341
西郷從道 (參議、初代海相)	370, 393, 396
——隆盛 (鹿兒島縣參事、參議、近衛都督)	277, 342, 346, 363, 367, 388, 415
蔡廷階 (支第十九路軍長)	620
一炳寔	684
濟物浦條約 (日韓、明治十五年)	369, 417
在外英人戦争参加禁止令 (Foreign Enlistment Act. 1884 年)	330
酒井忠毗 (右京亮、若年寄)	240, 262
堺縣 (狭山藩)	341
堺の商人	72, 94

防人	37
薩摩琉球國勳章	281
澤太郎左衛門	292
三亞港・市 (海南島)	678
三院 (正院、左院、右院)	344
三角島 (新南群島、Thi Tu I.)	676
三國干涉 (明治二十八年 1895 年、露獨佛)	335, 364, 450, 453
——協商 (露佛、英佛、英露)	521, 531, 540, 561
——同盟 (明治十五年 1882 年、獨埃伊)	333, 451, 493, 531, 540, 960
三職 (總裁、議定、參與)	340
三條實美 (參與、總裁局副總裁)	340, 348, 349, 369
三藩の亂 (支 1673-81)	124
山東事件 (昭和十一年)	636
——問題 (大正八年 1919 年)	573, 578
——問題處理 (同上)	585

[シ]

シアミル島 (ボルネオ Si Amil I.)	820
シヴァージ (印度領首 Sivaji)	117
シウダッダ城砦 (地中海 Fort Ciudad)	951
シエデル (蘭 Friedlich Schedel)	128
ジェノア (伊 Genoa)	50
シェフ・デ・スーコ (Chef de Suco 葡領非世襲頭目)	1065
——・ポスト (Chef de Posto 葡領屯所長)	1065
ジェームス一世 (英國王 James I.)	

1394-1437)	81
——ブルーク (Sir James Brooke) (*ブルーク)	
シエレホフ (露 Shlehof)	153
ジェラール (佛公使 A. Gerard)	692
シェリコフ (露 Grigori Ivanovitch Shelikov)	198, 199
シオコ (日本人甲螺部將 Sioco. 庄公)	90, 934, 944
シキアナ島 (Sikiana I.)	843
シク同盟 (Sikh Alliance)	164
——族 (Sikh)	164
——戦争 (第一次 1845 年)	164
—— (第二次 1849 年)	165
シクラ (クサイ島酋長 Shikra)	652
ジスボルン (新西蘭 Gisborne)	799, 800
シダーデ・ド・サント・ノメ・ド・ディオス・ド・マカオ (Cidade do Santo Nome de Dios do Macao)	1083
シトカ (アラスカ Sitka)	911
シドニー (濠 Sydney)	429, 788
——島 (フェニックス諸島 Sydney I.)	851
ジノヴィエフ (露 Grigorii Zinoviev 本名 Aladmirski. 1883-)	147
ジバング島 (Zipang I. 日本)	69
シビル城砦 (シベリヤ Fort Sibir)	142, 143
シブー (サラワク Sibn)	830
シベリヤ鐵道	334, 435, 452, 486, 525
——出兵 (大正七年 1918)	575, 577, 1020
シホタ・アリン山脈 (露 Sikhotza-Agin)	1018
シーボルト (蘭 Philip Franz von	

Siebold. 1796-1866)	243
シームス・カーレー商會 (Siems-Carey Co.)	692
ジーマン (蘭 Anton von Diemen)	111
シーモア (英提督 Sir Michael Seymour. 1802-87)	189
—— (英海軍中將 Sir Edward Hobart Seymour. 1840-1929)	461
シモン・ボリバール (西 Simon Boliver) (*ボリヴァール)	
シャウリエル (西 Francisco de Xavier. 1506-52)	71, 1083
ジャガトラ (瓜哇)	66
ジャッパナパタム城砦 (印 Fort Jaffnapatam)	112
シャトル (北米 Seattle)	899, 906
シャノアシ (佛陸軍大尉 Charles Sulpice Jules Chanoine)	288
シャビエル (葡 Francisco de Xavier. 1506-52)	71, 1083
ジャービス島 (Jarvis I.)	979, 981
シャーマン (米博士 Cornell 大學總長 J. G. Sherman)	963
シャムプラン (佛 Champlain)	867
シャルンホルスト號 (獨艦 Scharnhorst)	554
ジャワ島 (Java I. 瓜哇)	1031, 1040
シャン・シー・ラウ (葡 Shan-Si-Law)	1083
ジャンツ (蘭 William Jansz)	769
シャンドルナガル (印 Chandernagar)	116
シュアード (米國務卿 William Henry Seward. 1801-72)	910
ジュノー (アラスカ Juneau)	911



ペトロロス (葡濠合辦 Compañya Ultramarina de Petroleos)	1071	高岳親王 (平城天皇皇子)	23
古應芬 (國民黨元老、海南島綏靖處長)	684	洪秀全	187
胡漢民 (廣東都督)	695	光緒帝 (清朝)	459
顧維鈞 (支全權)	573	幸太夫 (大黒屋)	199
兒玉源太郎 (滿洲軍總參謀長、陸軍大將)	489, 496	香料諸島 (Molucca Is.)	65, 946
小出秀實 (大和守、箱館奉行)	247	膠州灣租借條約 (獨清 1898 年)	455
小谷 進 (海軍大尉)	628	廣州灣租借 (1898 年)	432, 983
小西行長 (攝津)	73, 75, 90	——條約 (清佛 1898 年)	458
小花作助 (内務權小丞)	296, 390, 391	廣州 (府)	[カ] の部にあり
小早川隆景	86, 88	航行遮断	643
小村壽太郎 (外相)	413, 469, 497, 498, 525	航海獎勵法 (明治二十九年)	474, 509
小村ウエーバー協定 (露 Weber 1896 年)	483	講武所 (東京築地)	287
虎門條約 (1844 年英清)	181, 603	五箇條御誓文 (明治元年三月十四日)	339
甲螺	934	五國借款團 (英獨佛日露 1913 年)	538
交趾	983	五代友厚 (才助)	274
公行 (Co-Hong)	694	五稜廓 (函館郊外)	298
江華島 (朝鮮)	368	伍 崇 曜	191
——事件 (明治八年)	368, 416	後藤象二郎	282, 367, 416
——條約 (明治九年)	369, 416	——新平 (滿鐵總裁)	527
江南軍	28, 45	——猛太郎 (外務省御用掛)	652, 400
恒信社	653	護國軍 (米 U. S. National Guards)	895
黃海海戦 (日清戦争、明治廿七年九月十七日)	370	吳鐵城 (廣東省主席)	618, 696
—— (日露戦争、明治廿七年八月十日)	489	濠洲 (Australia)	171, 306, 771
黃禍論	493	——聯邦成立	773
黃強 (海南實業事務專員)	685	國家經濟會議 (米 National Economic Council)	974
——爵滋 (清、給事中)	174	——平和會議 (第一回) } (*ヘーグ平和會議)	
——鎮球 (支、第三十三團長)	684	—— (第二回) } 議	
黃埔 (支、廣東省珠江)	697	——聯盟 (大正八年 1919)	570, 571, 592, 611, 627, 632
——條約 (1844 年清佛)	181	——聯盟規約	631
黃明堂 (支安撫使)	684	——聯盟脱退 (昭和八年、1934)	632
		國防會議 (英帝國——)	427
		黒旗兵 (太平天國の亂)	317, 318
		近藤重藏	204

[サ]

サイゴン條約 (Saigon Treaty 柴棍 1662 年佛安)	169, 982	サトー (英通譯官 Ernest Mason Satow. 1843-1929)	278, 281
サイバイ島 (Saibai I.)	842	サバ汽船會社	822
サイパン島 (内南洋 Saipan I.)	554	サヘム河 (チモール Salhem R.)	1062, 1071
サイモン (英外相 Sir John Allsebrook Simon. 1873- )	592	ザマル島 (Zamal I. 又 Samar I.)	930, 938
サヴァイ島 (Savaii I.)	439	サマール島 (比 Samar I.)	930
サヴァナ (Savanna 濠洲に於ける一種の乾燥草地)	783	サムユエル・ウォーリス (*ウォーリス)	
サヴィナ (佛 Savina)	682	サモア諸島 (Samoa I.)	314, 438, 790, 862, 977
サヴェーヂ島 (Savage I.)	856	サモギール族 (Samogirs)	141
サウエドラ (西 Angel de Saavedra 又 Duque de Rivas. 1791-1865)	858, 916	ザモラ (西教父 Father Zamora)	950
サヴェル (西 Francisco de Xavier. 1506-52) (*シヤヴィエル)		サラエヴォ事件 (Sarajevo 1914)	541
サヴォ島 (Savo I.)	843	サラザール (チモール Vila sarazar 舊名 Bancaw)	1081
サヴォリー (米 Nathaniel Savory. 1794-1874)	225, 381	—— (葡首相 Dr. Salazar)	1067
—— (小笠原島民 Horace Savory. ナザニエルの子)	389	サラワク (ボルネオ Sarawak)	812, 822
サウス・オーストラリア (South Australia) (*南濠洲)		——王國 (同 Kingdom of Sarawak)	812
——・シー (米船 South Sea)	385	——汽船會社	831
サギタイラ島 (Sagittaila I.)	1013	サルホタ (寧古塔の將軍、沙爾呼達)	148
サー・ジェームス・ブルーク (*ブルーク)		サルミエント (西 Sarmiento)	844
——・ジョン・ダヴィス (*ダヴィス)		サロテ (トンガ島王女 Salote)	853
——・ボーリング (*ボーリング)		サン・クリストバル島 (San Cristoval I.)	843
サスケハナ號 (米ペルリ族艦 (Susquehana))	224, 226	——・サルヴァドル城 (Fort San Salvador)	67, 128, 1034
		サンダカン (ボルネオ Sandakan)	813, 819
		サンタ・クルス島 (Santa cruz I.)	843, 845
		——・マリナ號 (西船 Santa Marina)	888
		サン・ディエゴ港 (米 San Diego)	898
		サンドウィッチ群島 (布 Sandwich	



グリーンウィッチ島 (内南洋 Greenwich I.)	838	——貞次郎	292
グルカ族 (Gurkhas)	160	黒田清隆 (開拓長官)	346, 349, 369, 375, 377, 378, 416
クルヂヤ條約 (Kuldjo 露清 1851 年)	324	黒松内山道	299
クルーズ (比 Apolinaris de la Cruz)	949	郡 (チモール Circumscricao Civil)	1066
クールベール (佛提督 Andre Anatole Prosper Coubet. 1827-85)	320, 330	郡司成忠 (海軍大尉報效義會々長、皇紀 2520-84)	401
クーレー (佛郵船會社重役 Couillet)	271, 280	軍艦教授所 (江戸)	285
グレゴリー (英 A. C. Gregory)	773		
グレマンソー (佛 Eugene Benjamin Clemanceaw. 1841-1924)	570		
クレール河 (チモール Cler R.)	1070		
グロ男爵 (佛全權大使 Baron Gros)	190, 243		
グローヴ號 (英船 Clove)	81		
グロデコフ (露アムール軍司令官兼總督 Grodekow 1899 頃)	467		
クロボトキン (露軍司令官 Alexei Nikolaievitch Kuropa tkin. 1848-1925)	487, 489, 492		
クーン (蘭總督 Jan Pieterszoon Koen)	111, 1035		
九國條約 (日英米佛伊白蘭葡支 1922-2-6)	585, 587, 611, 892		
九鬼嘉隆	86, 88		
工藤兵助	204		
區 金均 (海南島民政總長)	684		
忽必烈 (クブライ)	45		
空中ゲサント (Abua-Gesant)	1021		
串崎 (長門豊浦)	86		
國引傳説	34		
栗野愼一郎 (駐露公使)	485		
栗本 鯤 (安藝守)	281		

〔ケ〕

ケソン (比島上院議長、後ち大統領 Manuel L. Quezon)	943, 965
ケチカン (アラスカ Ketchikan)	911
ケッペル島 (トンガ諸島 Keppel I.)	852
ケネディ (英 E. B. Kennedy)	773
ケノン (米陸軍少佐 Manuel L. Quezon)	936
ゲ・ベ・ウ (露 G. P. U. 國家政治保安部)	1019, 1021, 1022
ゲレロ (パナマ志士 Guerreiro)	447
ケレンスキー (露 Alexandrovitch Feodrovitch Kerenskii. 1881-)	567
ケロッグ (米國務卿 Frank Billings Kellogg 1856- )	588
——不戰條約 (Kellogg-Briand Pact. 又 Anti-War Treaty) (* 不戰條約)	
ゲンテ・ヘルモサ島 (サモア Ge. Hermosa I. 即 Swain I)	978
ケンヤ族 (Kenyak)	824
K. P. M. (蘭 Koninklijke Pake-	

tvaart Maatschappii)	764, 822, 1067, 1071, 1081, 1082	コマルスク城砦 (シベリヤ Fort Komarsk)	147
桂 良 (清大學士)	191	コムソモリスク市 (露 City Komso-morisk)	1023, 1027
慶親王 (清朝)	471	ゴメス (葡神父 Father Luis Gomez. 1544-1634)	950
慶長の役 (慶長二年、1597)	91	ゴリド族 (Goredo)	1018
契丹	41	コリヤック族 (Koriaks)	140, 1018
遣唐使	39	コリングリッチ (英 Collingrade)	769
——船	37	コロイマ河 (露 Koroima R.)	1026
遣明船	49	コルヴォール半島 (新西蘭 Colville Pen.)	793
遣米使節 (萬延元年 1860)	289	ゴルチャコフ (露外相 Alexandrovitch Michailovitch Gorthakov. 1798-1883)	325
健順丸 (箱館奉行所附屬船)	294	ゴールド族 (Goldes)	141
拳匪 (Boxer.)	461, 597	ゴルドン (英將軍 Charles George Gordon. 戈登 1833-85)	325
		ゴールバーン (濠 Goulburn)	780
		コルモラン號 (英艦 Cormorant)	981
		コレーツ號 (露艦 Koreets)	486, 487
		コロアヌ島 (マカオ Coloane I.)	1084
		ゴロヴィン (露海將 Vassili Michailovitch Golovin. 1809 頃)	150, 202
		ゴロウニン (露艦ヂアナ艦長)	同上
		コロネル沖海戦 (智利 Colonel)	554
		コロール公學校 (内南洋 Korrer I.)	658
		コロンブス (伊 Cristophorus Columbus. 1446-1506)	52, 70
		コンスタンチノーブル (土耳其 Constantinople)	50
		コンスタンチン大公 (露海相 Nikolaievitch Konstantin. 1827-92)	243
		コンパニヤ・ウルトラマリナ・デ・	
		ゴア (印 Goa 臥亞)	58, 1059
		ゴイエル (蘭 Peter de Goyer)	128
		コエーリョ (葡 Antonio Guerreiro Coelho. 1527-90)	90, 1059
		ココス島 (海峽殖民地 Cocos I.)	802, 811
		ココソロ (パナマ Coco Solo)	899, 924
		コザック (露 Cossack 又 Kozak)	143, 1015
		ゴスケヴィッチ (露領事 Goske-veitch)	244
		コヂャク (アラスカ Kodiak)	900, 912
		——島 (同上 Kodiak I.)	153
		ゴッデフロイ會社 (獨航海貿易商 Hamburger Hans Godeffroy)	312
		コープス (蘭海軍大佐 H. H. F. Coops)	216
		ゴブルネルシリョ (Gobernadorcillo 比島の名譽村長)	947



阮氏(安南王族) 96, 121, 982  
 額惠慶(國際聯盟支那首席代表) 632

[キ]

キコリ河(バプア Kikor R.) 839  
 キジ湖(露 Lake Kudzu) 1018  
 キゾ港(Port Gizo) 844  
 キヤフタ條約(Kiakhta 恰克圖1928年) 151  
 キヤビテ軍港(マニラ Cavite) 443, 950, 968  
 キューパー(英海軍少將 Augustus Leopold Kuper. 1809-85) 250, 251, 255, 261  
 キューベック(カナダ Quebec) 872  
 キュルチュス(蘭商館長 Jan Hendrik Donker Curtius. 1856 頃) 217, 284  
 キラウエア火山(布哇 Mt. Kilauea) 929  
 キリスト教(Christianity) 71, 80  
 ギリヤク族(Gilyaks) 140, 1018  
 ギリingham(英ケント州 Gillingham) 77  
 ギル(教父 Father Gil) 951  
 キール運河(獨 Kiel Kanal 又 Kaiser Wilhelms Kanal) 545  
 ギルド(廣東商人 Co-Hong 公行) 694  
 ギルバート(英 Cap. William Gilbert.) 846  
 諸島(Gilbert Is.) 310, 790, 846  
 キルモア・ゲート(濠 Kilmore Gate) 780

キエロフ條約(露 Kirof) 1021  
 キング(英支那艦隊司令官海軍中將 G. St. Vincent King) 277, 278  
 ——(米 Charles W. King) 212  
 ——キドワード七世醫科大學(King Edward VII College of Medicine) 805  
 ——ジョル尹島(King George I.) 1014  
 ——スミル群島(Kingsmill IS.) 846  
 木戸孝允(參與、總裁局顧問) 278, 282, 340, 341, 342, 344, 405  
 木梨精一郎(内務少丞) 395  
 木村喜毅(圖書、攝津守、軍艦奉行) 285, 290  
 ——權之丞 935  
 紀貫之 41  
 喜望峯(Cape of Good-Hope) 52, 62, 64  
 吉備田狹(任那國司) 36  
 椽城(キイキ) 37  
 琦善(清國全權、直隸總督) 177  
 龜甲島(新南群島 Nam Shan I.) 676  
 義淨(唐の僧) 23  
 義勇艦隊(露商船局) 332  
 義和團匪(明治三十三年、1900) (\*拳匪) 44  
 菊地武房 44  
 北小島(新南群島 Loaita 又 South I.) 676  
 北二子島(新南群島 North Danger I.) 672, 676  
 北ボルネオ會社(英 1881 年) 310  
 恰克圖條約(Kiakhta) (\*キヤフタ條約) 608  
 九江租界事件 47  
 九州探題 176  
 九龍(城) 604  
 ——條約

——半島 335, 458  
 邱濬(明) 678  
 許志銳(第三十四團長) 684  
 ——廷杰(瓊崖綏靖委員) 682, 685  
 恭親王(清朝) 195, 394, 396, 421, 450  
 共同聯邦黨(カナダ Co-operative Commonwealth Federation) 874  
 極東地方 1015  
 玉泉寺(伊豆下田) 232  
 金(國名) 42, 123  
 ——玉均 418, 420  
 ——城(今の慶州) 35  
 ——地院崇傳 93  
 ——島 79  
 ——曜島(Friday I.) 842  
 岑春煊 695  
 錦愛鐵道 530  
 銀島 79

[ク]

グアダカナル島(Guadalupe I.) 843, 845  
 グアノ(Guano 糞) 672  
 グアム島(米 Guam I.) 443, 975  
 グインズランド(濠 Queensland) 312, 772  
 クイン・シャーロット島(Queen Charlotte I.) 845  
 クサイ島(内南洋 Kusaie I.) 553  
 クダット(ボルネオ Kudat) 819  
 クチュム(韃靼酋長 Kuchum) 143  
 クチン郡(ボルネオ Kuching) 821, 823

クック(英 Cap. James Cook. 1728-79) 770, 791, 849, 852, 856, 925, 1009, 1012  
 ——島(新西蘭 Cook I.) 310, 790, 855  
 ——山(新西蘭 Mt. Cook) 792  
 グッド島(Goode I.) 842  
 グナイゼナウ號(獨艦 Gneisenaw) 554  
 クーパー(チモール Koepang) 1060, 1082  
 クライブ(英 Robert Clive. 1725-74) 118  
 グラヴァー(英商 Thomas B. Glover) 276  
 グラッドストーン(英 William Ewart Gladstone. 1809-98) 309  
 グラナダ(Granada) 53  
 グラノ河谷(チモール Glano) 1072  
 クラレンス河(濠 Clarence R.) 780  
 グラント(米 18 代大統領 Ulysses Simpson Grant 原名 Hiram Ulysses. 1822-85) 396, 959  
 クリストチャーチ(新西蘭 Christchurch) 794  
 クリストバル(パナマ運河地帯 Cristobal) 916  
 ——港(Port Custobal) 915, 916, 923  
 クリスマス島(太平洋 Christmas I.) 310, 854  
 ——(海峽殖民地 Cristinas I.) 323, 802, 811  
 クーリッジ(米共和黨 30 代大統領 Colvin Coolidge. 187-) 587, 894, 966  
 グリン(米艦長海軍中佐 James Glynn. 1848 頃) 219, 224



teret. 1740-96)	844, 845, 857
カトリック教 (Catholic)	947
——傳道團	658
ガーナー (米副大統領 Garner)	966
カナカ族 (Kanakas)	386, 655, 775
カナダ (Canada 加奈陀)	867
——自治領 (Dominion of Canada)	872
——太平洋鐵道會社 (Canadian Pacific Railway Co.)	886
カナディアンロッキー (Canadian Rocky)	868
カバロフ (露 Yarofei Khabarov)	147
カヒカティ (Kahikatea 新西蘭産木の一種)	795
ガーフィールド (米共和黨 20 代大統領 James Abraham Garfield. 1831-81)	896
カブール (アフガニスタン Kabul)	163
カベッサ (比島の村長 Cabeza)	947
カーペンタリヤ灣 (Gulf of Carpentaria)	769
カボット (伊航海者 John Cabot. 1451-1557)	867
カホラウェ島 (布哇 Kahoolawe I.)	926
カマ河 (露 Kama R.)	142
カーマデック諸島 (新西蘭 Kermadec Is.)	790
カマーラ (葡總督 Filomeno da Camara)	1060
ガマルニック (露陸軍大將 Jan Borissovitch Gamarnik)	1021
カミリア・ウェジウッド女史 (*ウェジウッド女史)	
ガム島 (米 Gum I.) (*グアム島)	
カムチャダール族 (Kamradars 又 Camchadars)	140, 1018

カムチャツカ(州) (Kamtchatka 堪察加)	1015
——半島 (Kamtchatka Penn.)	1016
カムラン灣 (佛印 Cam Ranh Bay)	492, 998
カメハメハ (布哇王 Kamehameha)	383, 959
カヤン族 (Kayan)	824
カーリユ-號 (英艦 Curlew)	387
カリウス (英警察官 Charles H. Karius)	859
カリカル (印 Karikal)	117
カリタ (クック島の勇士 Karita)	856
カリフォルニア州 (米 California State) (*加州)	
カルカッタ (印 Calcutta)	114
ガルキン (露 Ivan Galkin)	145
カルゴールリ (濠 Kalgoorlie)	787
ガルタン (蒙古強酋 Gartang 噶爾丹)	150
カルティエ (佛 Jacques Cartier)	867
カルテル・トラスト (佛 Kertell Trust)	430
ガルドナー島 (Gardner I.)	859
カルナチック侯國 (印 Carnatic)	160
ガルニエ- (佛提督 Francis Garnier. 1839-73)	317
カルモーナ (チモール Vila General Carmona 舊名 Ailew)	1072
カロリン群島 (内南洋 Carolin Is.)	437
カンタベリー-殖民地 (新西蘭 Canterbury)	792
——平原 (新西蘭 Canterbury Plains)	792
ガントムール (蒙人根特木爾)	149
カントン島 (米領 Canton I. 又	

Mary I.)	979	海兵隊 (米 U. S. Marine)	924
カンニング (英印總督 Charles John Canning. 1812-62)	168	崖州	677
——(英外相 George Canning. 1770-1827)	956	外交團江戸退去問題 (萬延元年 1861 年)	238
ガンビール諸島 (Gambier Is.)	1012	角屋七郎兵衛 (伊勢大湊)	94, 96, 708
カンベラ (濠 Canberra)	773	學童問題 (米 1906 年)	535
加藤清正	90, 94	學老	682
——高明 (外相)	410, 548, 549, 557	片岡健吉	346
——弘之	344	勝麟太郎 (義邦、後ち安芳、號海舟)	285, 290
——嘉明	91	桂太郎 (首相、陸軍大將)	525
加州 (米 California State)	888	合浦 (馬山浦)	44
——併合 (1848 米領)	889	神奈川條約 (日米和親條約安政元年 1854 年)	226
何如璋 (清駐日公使)	395	金子堅太郎	349
華僑	29	神尾光臣 (獨立師團長、陸軍中將)	553
華府會議 (大正十年、1921年)	558, 578, 580, 585, 606, 892	上川島	56, 125
改進黨	347	龜田丸 (箱館奉行所附屬船)	293
改稅約書 (慶應二年)	267	萱生事件 (昭和十一年七月十日)	636
快通社	653	川上操六 (參謀總長、陸軍大將)	679
開陽丸	292	川崎汽船會社 (K. K. K.)	908
開洋興業株式會社 (臺灣)	672	川村純義 (海軍卿)	285, 366, 367, 369
海外殖民地銀行 (葡 Banco Nacional Ultramarino)	1078	川路太郎	292
海峽汽船會社 (英海峽植民地)	810, 831	河野廣中	346
——殖民地 (英領 Strait Settlement)	800	樺太(州) (Karafuto 又 Sakhalin)	1017
海軍操練所 (東京築地)	287	廣州(府)	693
——傳習所 (長崎西役宅)	285	廣東	693
海口港 (市) (海南島)	678, 680	——地方政府	695
海上權力史論 (Influence of Seapower upon History 米マハン海軍軍大佐著)	856, 896	——布政使司	677
海瑞將軍 (明)	678	觀世丸	202
海賊衆	46, 86	咸臨丸 (排水量 350 噸)	290
海南島	27, 677	寛永鎖國令 (*鎖國令)	
——不割讓 (1898 年)	432	閑山島 (朝鮮水軍根據地)	91
		漢委奴國王	34
		漢族	682
		漢治洋公司	556



Eulenburg) 239  
 オーガスチン派 (Augustino) 947  
 オクシ地方 (チモール Oecussi) 1061  
 オークランド諸島 (新西蘭 Auckland Is.) 790  
 ———— 總督 (英 George Edu Auckland 1784-1849) 163  
 オコツク海 (Okhotsk sea) (\*オホツク海)  
 オーシアン島 (Ocean I.) 847  
 オーストラシヤ (Australasia) 767, 776  
 オーストラリヤ (Australia) (\* 濠洲)  
 オーストラリヤ首府地方 (Australian Capital Territory) 768  
 オスチャック族 (Ostyak) 142  
 オスメニヤ (比島上院議長、後ち副大統領 Selfo Osmania) 943, 966  
 オソ・アビアヒム (露 Osoabmax-men. 國防飛行化學協會) 1024  
 オタゴ植民地 (新西蘭 Otago) 792  
 オチェレヂン (露航海士補 Ivan Otcheredin) 199  
 オッタワ (カナダ Ottawa) 872  
 オティス (米陸軍少將第二次比島統監 Elwell Otis) 444, 963  
 オナカカ (新西蘭 Onakaka) 793  
 オネオ島 (Oeno I.) 856  
 オーバーベック (塊 Baron Overbeck) 813  
 オホツク海 (Okhotsk Sea) 152  
 ———— 城砦 (シベリア) 146  
 オランダ王立汽船會社 (K. P. M.—Koninklijke Paketvaart Maatschappij) (\* K. P. M.)  
 ———— 聯合東印度會社 (Vere-

nigde Nederlandsche Oostindische Compagnie) 96  
 オーリック (米東印度艦隊司令官 John H. Aulick) 224  
 オリファント (英書記官 Lawrence Oliphant 1829-88) 248, 275  
 ———— (英下院議員 Oliphant) (同上)  
 ———— 會社 (Oliphant & Co.) 212  
 オールロック (英公使 Rutherford Alcock) 238, 239, 243, 244, 259  
 オルチャ族 (Orchas) 141  
 オルムズ (ペルシヤ Ormuz) 54, 69  
 オレゴン州 (Oregon 1846 年英より米へ) 889  
 オレクマ河 (シベリヤ Olekma R.) 145  
 オレクミンスク城砦 (シベリヤ Olekminsk) 145  
 オロセンガ島 (サモア Olusinga I. 即 Swain I.) 978  
 オロチ族 (Orochis) 141  
 オロンガボ要港 (比島 Olongapo) 968  
 オワフ島 (布哇 Oahu I.) 926  
 オンタリオ湖 (Ontario) 868  
 オントン・ジャワ島 (Ontong-Java I.) 844  
 織田信長 72, 86, 88  
 小笠原島 360, 385, 387, 390  
 ———— 島開拓計畫 295  
 ———— 島取締規則及び港規則 295, 390  
 ———— 長行 (圖書頭) 254, 276  
 小倉卯之助 (海軍中佐) 671  
 小栗忠順 (豊後守後ち上野介、勘定奉行、外國奉行) 244, 271, 289  
 小關三英 212  
 小田原俊彦 (海軍大尉) 628

小野妹子 23, 36  
 小花作之助 (外國奉行屬) 296, 390, 391  
 大石逸平 204  
 大内氏 (周防) 47  
 大賀九郎右衛門 (博多の人) 97  
 大隈重信 (參議、首相、皇紀 2498-2582) 346, 347, 393, 410, 411, 416  
 大久保忠左 (沼津城主) 104  
 ———— 利通 (參與、全權辨理大臣) 329, 340, 342, 344, 357, 386, 391, 393, 394, 405, 416  
 大阪商船會社 (O. S. K.) 360, 474, 702, 764, 908  
 大島義昌 (混成旅團長、陸軍少將) 420  
 太田恭三郎 937  
 天津事件 (明治二十四年) 412  
 ———— 浦 (博多) 37  
 大島圭介 (特命全權公使) 421  
 大友宗麟 73  
 大野城 37  
 大村純忠 72, 73  
 大山勇夫 (海軍中尉) 640  
 ———— 殿 (陸軍卿、第二軍司令官、滿洲軍總司令官、陸軍大將元帥、皇紀 2502-76) 364, 489  
 ———— 事件 (昭和十二年八月八日) 640  
 ———— 綱良 (鹿兒島縣參事) 393  
 王毅 685  
 ———— 克敏 (支臨時政府主席) 646  
 ———— 正廷 598  
 ———— 壽民 (瓊崖道軍) 684  
 汪精衛 (兆銘) 645  
 歐亞航空公司 703  
 岡部長職 (駐英公使) 411  
 岡本監輔 (函館府權判事) 374

鬼室福信 (百濟遣臣) 36  
 折田一二 (海軍少佐) 820  
 番戸の瀬戸 42

[カ]

カイゼル (蘭 Jacob de Keyser) 128  
 カイゼル・ウィルヘルムス・ランド (Kaiser Wilhelms Land) 313, 858  
 カウアイ島 (布哇 Kawai I. 加哇) 926  
 カウイ (米 William Clarke Cowie) 813  
 カヴィエン港 (Kavien) 860  
 カヴェンディッシュ (英航海者 Sir Thomas Cavendish. 1555-92) 64  
 カウリ護謨 (新西蘭 Kauri Rubber) 794  
 ———— 松 (新西蘭 Kauri pine) 795  
 ———— 森林 (新西蘭 Kauri Forests) 793  
 カシュガル汗國 (Kashger) 324  
 カスカード (英中佐 Cathcart) 136  
 カスケード山脈 (カナダ Mt. Cascade) 869  
 カスチラ王國 (castila) 52  
 カチブナン結社 (比 Katipunan) 951  
 カッサ (蘭商館長 Anthony Abraham Cassa) 209  
 カッシルス・ゲート (濠 Cassilis Gate) 780  
 カッシング (米全權、上院議員 Caleb Cushing. 1800-79) 181, 218  
 カッテンデイケ (蘭海軍中尉 W. J. C. Ridder Huyssen van Kattendyke. -1886) 285  
 カーテレット (英航海者 Philip Car-



Wade. 1818-95) 324, 329, 394, 395  
 ヴェニス (伊 Venice) 50, 53  
 ウェブスター (英 William Clarence Webster) 957  
 ウェーベル (露駐韓公使 Karl Ivanovitch Waeber) 331, 332  
 ヴェマッシ (チモール Vemasse) 1081  
 ヴェラクルス島 (Vera Cruz I.) 844, 845  
 ウェリントン市 (新西蘭 Wellington) 791, 800  
 號 (英艦 Wellington) 979  
 ウェルスリー卿 (英 Richard Colley Wellesley. 1760-1842) 159  
 ヴェルニー (佛海軍技師 Francois L. Verny) 286  
 ヴォーグル族 (Voguls) 142  
 ヴォラロー (濠 Wallaroo) 788  
 ウォーリス (蘭 Samuel Wallis) 852  
 ヴォンガヌイ (新西蘭 Wanganui) 800  
 ウジャエ島 (マーシャル Ujae I.) 653  
 ヴェスター (白 Joseph Veuster) 928  
 ウッド (米將軍比島總督 Leonard Wood, 1860-1927) 965  
 ウッドラーク島 (Woodlark I.) 841  
 ウード侯國 (印 Oudh) 160  
 ウナラスカ島 (アラスカ Unalaska I.) 911  
 ウネア島 (Unea I.) 859  
 ウポル島 (Opolu I.) 312, 313, 439, 863  
 上野景範 (外務少輔) 385  
 植田謙吉 (第九師團長陸軍中將) 625, 630  
 浮寶 (獨木舟) 30  
 内田康哉 (駐米公使) 413  
 恒次郎 (和蘭留學生) 292  
 海北道中 (ウミノナカミチ) 34

梅謙次郎 352  
 梅津何應欣協定 (昭和十年、1935) 638  
 浦賀 (三浦郡) 79  
 浦鹽斯德 194, 330, 332, 335  
 浦戸 (土佐) 75  
 瓜生外吉 (戦隊司令官、海軍少將、後ち大將) 486, 487

エ[エ]

エイア盆地 (濠 The Lake Eyre Basin) 781  
 エイデマン (露將軍 Eydeman) 1024  
 エヴァ・エスパニヤ (Eva Espania) 59, 946  
 エヴァルト・バンゼー (地政學者) Ewald Banse) 769  
 エヴェレット (米 Alexander H. Everette) 218  
 エグモント火山 (新西蘭 Mt. Egmont) 793  
 S. A. P. T. (Sociedade Agricola Patria e Trabalho, Lda) 1075, 1077  
 エスキモー族 (Eskimos) 140, 911  
 エスクード (葡貨 Escudo) 1084  
 エスパニョーラ島 (西印度 Hespanola I.) 70  
 エーダ號 (英帆船 Eida) 652  
 事件 652  
 エチゲル (韃靼酋長 Yediger) 142  
 エッケナー (獨博士 Hugo Eckener, 1868-) 1024  
 エドモントン (カナダ Edmonton) 872  
 エドワルド (英船長 Edward) 850

エニセイスク城砦 (Fort Yeniseisk) 145  
 N. E. P. A. (國家經濟保護政策協會 National Economic Protectionism Association) 974  
 N. R. A. (農業復興法 National Recovery Administration) 970  
 エパレ (佛 Bishop Epalle) 845  
 エファテ島 (Efate I.) 864  
 MU大陸 835  
 エムデン號 (獨艦 Emden) 553, 811  
 海淵 (比 Emden Deep) 940  
 エムプレス・オブ・チャイナ號 (米帆船 Empress of China) 958  
 エラール (佛名譽領事 Paul Freury Herard) 271  
 エリオット (英全權海軍少將 Sir George Elliot. 1784-1863) 176, 177  
 (英海軍大將 Charles Elliot. 1801-75) 175, 176, 177  
 エリザ號 (米儲船 Eliza) 211  
 エリ・ジェニン (米 Elli Jennings) 978  
 エルギン卿 (米 James Bruce Elgin, Earl. 1811-63) 190, 235, 243  
 エルサレム (Jerusalem) 50  
 エルジン (James Bruce Elgin.) (\* エルギン卿)  
 エルマック (露 Timofeievitch Yermak. -1583) 143, 1015  
 エレンボロー (英印度總督 Edward Law Ellemborough. 1790-1871) 164  
 エロマンガ島 (Erromango I.) 864  
 エンコミエン (比島の莊園 Encomienda) 947

エンズリー (英醫師 Daniel Ainslie) 209  
 エンダーベリー島 (Enderbary I.) 980  
 江川英龍 (太郎左衛門) 288  
 江藤新平 367, 416  
 蝦夷 152  
 奉行 206  
 英國租界 607  
 東印度會社 (\* 東印度會社)  
 英蘇海軍條約 595  
 英獨海軍協定 (1908年及1935年) 583, 595  
 協商 (1900年) 466, 469  
 借款 (1896年) 454  
 英波海軍條約 595  
 英佛伊海軍協定 595  
 海軍協定 (1928年) 588, 595  
 海軍制限協定 (1787年) 581  
 協商 (1904年) 431, 493, 521  
 英蘭條約 (1824年) 170, 307  
 英露協商 (1907年) 521  
 鐵道協定 (1899年) 459  
 奕山 (清全權) 194  
 榎本武揚 (釜次郎、駐露公使、海軍中將、皇紀 2496-2568) 285, 292, 368, 374, 378, 400  
 蛭子砥平 (箱館町年寄) 294  
 粵漢鐵道 702  
 沿海洲 194  
 圓光寺元信 93  
 袁世凱 418, 420, 538, 555, 561, 695

オ[オ]

オイレンブルク伯 (普 Grof von Friedrich Albert zu



ev 1832-1908)	195	—巳代治 (兵庫縣譯官、後ち樞密顧問官、皇紀 2517-94)	349
イクリアス號 (露船 Eclipse)	211	—祐益 (マンシヨ Mancio)	73
イゴロテ族 (Igorotes)	941	伊藤軍兵衛 (信州松本藩士)	249
イサベラ二世 (西女王 Isabella II.)	950	—小左衛門	110
イサベル島 (Ysabel I. 卽ソロモン島)	843	—博文 (幼名俊輔、首相、皇紀 2501-2569)	260, 276, 344, 346, 348, 349, 350, 396, 405, 419, 421, 459, 469, 527
イスパノ・フィリピナ協會 (Sociedad Hispano-Filipina)	951	伊犁條約 (1818年)	605
イラベレ河 (チモール Irabere R.)	1073	居貿易	293
イリオマール (チモール Iliomar)	1081	移民問題	534
イルクーツク城砦 (シベリヤ Fort Irkutsk)	146	委任統治	571
イルチシ河 (露 Irtysh R.)	142	維新政府 (中華民國南京)	645, 646
イロイロ市 (比バナイ島 Iloilo)	946	猪名部	34
イロカノ族 (Ilocanos)	941	—船	34
イロコス地方 (比 Ilocos)	949	怡和公司 (洋行)	702
イワン四世 (露帝 Ivan IV. 1530-84)	142	異國御朱印帳	93
インヴァーカージル (新西蘭 Invercargill)	800	—渡海御朱印帳	93
インカ帝國 (Inca 又は Ynca)	855	庵原菴齋	300
イングラハム (米船長 Ingraham)	1012	池田長發 (筑後守、文久鎖港使節)	270, 291
インドネシヤ系 (Indonesia)	941, 983	—興右衛門入道好運 (長崎の人)	98
井上馨 (幼名聞多、大藏大輔、議官、皇紀 2495-2575)	260, 351, 369, 386, 397, 408, 410, 416, 419	石井菊次郎	564
—毅 (司法官、後ち文部大臣、皇紀 2504-55)	349	—ランシング協定 (Ishii-Lansing)	564, 565, 578, 585
—角五郎 (韓宮廷顧問)	418	石川忠房 (左近將監、目付)	200
—清直 (下田奉行)	234	石山城 (攝津)	86
—良馨 (雲揚艦長海軍少佐、後ち元帥、皇紀 2505-89)	368	板垣退助	344, 347, 367, 416
伊集院彦吉 (駐伊大使)	570	嚴島の戰	86
伊地知弘一 (海軍大佐 -2555)	936	一向一揆 (伊勢長島)	86
伊東祐亨 (聯合艦隊司令長官海軍中將、後ち元帥、皇紀 2503-2574)	370	一屋商會	653
		糸屋隨右衛門	935
		岩鼻縣 (吉井藩)	341
		岩倉具視 (參與、總裁局副總裁)	340, 346, 369, 405, 406, 415, 416

岩下方平 (薩藩家老)	280	ウィッテ (露 Sergei Juliewitch Witte. 1849-1915)	435, 452, 453, 456, 459, 485, 498
岩瀬忠震 (目付)	234, 289	ヴィティ・レヴ島 (フィジー Viti Levu I.)	851
股汝驪 (支)	679	ヴィベロ (西比島長官 Don Rodrigo de Vibero)	78, 79, 80
印度總督 (蘭 Governor-General)	66	ヴィラ港 (エフアテ島 Vila)	866
		ウイルクス (米 Charles Wilkes)	849
		ウिल्ズ (英 Wills)	773
		ウイルソン (米民主黨 28 代大統領 Thomas Woodrigh Wilson 1856-1924)	569, 570, 571, 572, 894, 965
		— (船長 Captain Wilson)	1012
		ウイルヘルム一世 (獨帝 Wilhelm I. 1871-1888)	543
		— 二世 (〃 〃 II. 1888-1918)	311, 436, 456, 493, 543
		ウイレム二世 (蘭 Willem II)	216, 1038
		ヴィンソン (米 Vinson)	897
		— 案 (Vinson's Problems)	897
		ウインチェスター (英代理公使 Charles A. Winchester)	264, 271
		ウインドワード島 (Windward Is.)	1012
		ウヴェア島 (Uba I.)	1011
		ウエイカト河 (新西蘭 Waikato R.)	793
		ウエーク島 (Wake I.)	979, 981
		ウエストポート (ニュージランド West Port)	793
		— ランド (Westland)	793
		ウェジウッド女史 (濠 Camilla Wedgwood)	862
		ウェツデル (英船長 James Wedder)	694
		ウェード (英駐清公使 Sir Thomas)	

[ウ]

ヴァヴァ島 (Vava I. 又 Toress I.)	866	ヴァスコ (西太守 Vasco)	948
ヴァヴァウ島 (トンガ諸島 Vavau I.)	852	ヴァスコ・ダ・ガマ (葡 Vasco da Gama 1469-1524)	52, 1059
ヴァスコ (西太守 Vasco)	948	ヴァチカン宮 (伊 Vatican)	73
ヴァスコ・ダ・ガマ (葡 Vasco da Gama 1469-1524)	52, 1059	ヴァト・レレ島 (Vatu-Lele I.)	848
ヴァチカン宮 (伊 Vatican)	73	ヴァニコロ島 (Vanikoro I.)	846
ヴァト・レレ島 (Vatu-Lele I.)	848	— 市 (Vanikoro)	846
ヴァニコロ島 (Vanikoro I.)	846	ヴァヌア・ラヴァ嶼 (Vanua Lava)	866
— 市 (Vanikoro)	846	— ・レブ島 (フィジー Vanua Levu I.)	851
ヴァヌア・ラヴァ嶼 (Vanua Lava)	866	ヴァルア嶼 (Valua)	866
— ・レブ島 (フィジー Vanua Levu I.)	851	ヴァールウィヤク (蘭提督 Wybrand van Vaerwijk)	126
ヴァルア嶼 (Valua)	866	ヴァンクーバー (英航海者 George Vancouver 1758-98)	1013
ヴァールウィヤク (蘭提督 Wybrand van Vaerwijk)	126	— 市 (カナダ Vancouver)	872
ヴァンクーバー (英航海者 George Vancouver 1758-98)	1013	ヴァン・リード (駐日布哇總領事 Eugen M. Van Reed)	384
— 市 (カナダ Vancouver)	872	ヴィクトリア (カナダ Victoria)	872
ヴァン・リード (駐日布哇總領事 Eugen M. Van Reed)	384	— (英女皇 Queen Victoria)	168, 315, 773
ヴィクトリア (カナダ Victoria)	872	ヴィケケ (チモール Viqueque)	1075
— (英女皇 Queen Victoria)	168, 315, 773	ヴィジャヤ (ビンズー王國 Vijayan)	1031



1767-1848)	958	Amherst)	161
アダムス(英 William Adams 三浦按針 1564-1620)	65, 76, 77, 81, 94	アムボイナの虐殺 (Amboyna)	68, 111, 1034
アチェー王國(亞齊王國)	112	アムリッサル(印 Amritsar)	164
アッサム(緬甸 Assam)	161, 321	アムール拓殖會社	194
アテウ島(Auotu I.)	855	アメリカ傳導團 (American Mission)	658
アデレード市(濠 Adelaide)	788	アメリカン・デモクラシー (American Democracy)	892
アドミニスラドール(葡領の郡長 Administrador)	1066	——・パイオニアライン(A. Pioneer Line)	908
アドミラルティ島 (Admiralty I.)	859	アヌチャ市(暹羅 Ayuthia)	100, 102, 706, 708, 724
アトラゾフ(露 Vladimir Atlassof)	151	アラカン地方(緬甸 Arakan)	161, 321
アドラン司教(佛 Pigneaux de Behaine D'Adran)	121	アラス(チモール Alas)	1073
アナディール河(シベリヤ Anadgr R.)	146	アラスカ(Alaska 1867年米領)	910
アナディールスク城砦(シベリヤ Fort Anadyrsk)	146	アラビア商人 (Arabian Marchant)	51, 53
アナドイル河(露 Anadoire R.)	1018	アラビカ珈琲(Coffee Arabica)	1072
アネイトム島(Aneiteum I.)	864, 866	アラビック號(英船 Arabic)	559
アバカ島(Abaka I. 又 Torres Is)	866	アラフラ海(Arafura Sea)	841
アバザ(露 Abaza)	485	アリアンバータ(チモール Aliambata)	1071, 1081
アピア市、港 (Apia)	438, 554, 863, 864	アリウト族 (Aleut)	911
アブガリス島 (Abgarris I.)	859	アリューシャン群島 (Aleutian Is.)	910
アフガン戦役(第一次 1841年)	164	アルコット王(印 King Arot)	117
(第二次 1885年)	168	アルクマン號(佛測量船 Alkman)	1009
アブドラ(カシュガル管長 Abdra)	324	アルバチン城砦(シベリヤ Fort Albazin)	148
アブラ灣 グラム島 Apra Bay)	977	アルバート・エドワルド山 (パプア島 Mt. Albert Edwards)	839
アブレウ(蘭 Antonio de Abrew)	858	アルブケルケ(葡印度總督 Alfonso de Albuquerque 1453-1515)	54
アポー山(比 Mt. Apo)	939	アルブルック・フィールド(パナマ	
アーミスチス號(英船 Armistice 後ち千歳丸)	294		
アムステルダム(蘭 Amsterdam)	65		
アムステルダム島 (Amsterdam I.)	852		
アムハースト(英 Lord Amherst)	137		
アムハースト卿(英 Baron Jeffery			

飛行場 Albrook F.)	924	————虐殺 (* アムボイナの虐殺)	
アレキサンダー大王(マケドニア王 Alexander the Great 前 356-323)	21	アンリー(佛駐日大使 Arsene Henry)	674
アレキサンドリア(Alexandria)	21	阿部弘毅(海軍中佐)	617
アレキセーフ(露軍司令官 Euganiif Ivanovitch Alexeiev 1843-1909)	468, 485	——正外(豊後守)	265
アレクサンダー三世(露帝 Alexander III.)	452	——正弘	215
アレクサンドル一世(露帝 Alexander I.)	201	——仲磨	38
アレクサンドロフスク(シベリヤ Alexandrofsk)	193, 293	阿倍比羅夫	40
アレクサンドロ・ワリニヤーニ師(伊 Alexandro Valignani) (* ワリニヤーニ)		阿片戦争(1842年)	961, 176
アワ(緬甸 Ava 阿萃)	161	愛理條約(1858年)	604
アロー號事件(The Arrow Trouble)	189	愛國社	345
アングウル島(内南洋 Angaur I.)	554, 650	青木周蔵(外相)	334, 411, 412
アングラ河(露 Angara R.)	145	明石(帝國軍艦)	566
アンカレッジ(アラスカ Anchorage)	911	明石元二郎(臺灣總督、陸軍大將、皇紀 2524-79)	679
アンコン市(パナマ Ancon)	924	赤巖夷風説考	204
アンダ(西太守 Don Simon de Anda)	948	赤塚(廣東總領事)	679
アンチポーズ諸島(新西蘭 Antipodes Is.)	790	赤羽根接遇所(東京芝區)	239
アントニヌス(羅馬皇帝 Marcus Aurelius Antonius 大秦王安敦 86-161)	23	秋月の亂(明治九年)	363
アンドラーデ(葡 Fernao Pereo do Andrade)	56	足利幕府	47
アンブリン島(Ambrym I.)	864	——義満	48
アンボイナ(瓜哇 Amboina)	56	葦船	30
		安宅丸(大型軍船)	88
		荒木宗太郎(長崎の人)	94, 96
		有地品之允(海軍中將)	936
		有馬晴信	73, 94, 99
		安藤信正(老中)	296
		——信睦(老中)	381
		安佛條約(1874年)	318

[イ]

イグナチエフ(露駐清公使 Nikolai Pavlovitch Ignati-	
---	--



補遺

索引

- 凡例 一 排列の順序は五十音順とし、片假名・洋字・漢字の順序に列記す。  
 二 國名略語は次の通り。  
 英(英國) 米(米國) 佛(佛國) 獨(獨逸) 露(露國) 伊(伊太利)  
 蘭(和蘭) 葡(葡萄牙) 西(西班牙) 白(白耳義) 諾(諾威) 清(清國)  
 支(支那) 韓(韓國) 比(比律賓) 濠(濠洲) 鮮(朝鮮) 印(印度)  
 布(布哇) 緬(緬甸)  
 三 地名・人名等にして呼稱區々に互るものあり、執筆者多數なると出所を異にするが爲めなり、敢て統一しあらず。  
 四 氏名下の官職等は本文關係記事當時のものを記す。  
 五 外人名はセカンドネーム(姓)のみを掲げ括弧内には外語にて姓名を記す。  
 六 \* 印あるは其の項に頁を記す。

[ア]

	(頁)		
アイゼンデッヘル(獨公使 Von Eisen decher)	404	アガナ市(グァム島 Agana)	977
アイタ(Aetao)	931	アカブルコ港(メキシコ Acapulco)	60, 78, 80
アイツタキ島(Aitutaki I.)	855	アキナルド(比律賓志士 Emilio Aquinalds)	444, 445, 933, 952, 953, 954, 955, 962
アイヌ族(The Ainu)	140, 298	アーサー(米 21 代大統領 Chester Alan Arthur, 1830-86)	959
アヴォセツト號(米艦 Avocet)	979	アジア通商會社(プロシヤ 1750年)	132
アウストラリア號(濠艦 Australia)	858	アソカ王(阿育王, Asoka)	931
アウストラル群島(Austral Is.)	1013	アタウロ島(チモール Atauro I. 別名プロ・カンビン)	1061
アウタルキー(自給自足 Autarchy)	769	アタナシェフ(露 Ivan Atanasief)	146
アオバ島(Aoba I.)	864	アタプブ(チモール Atapoepoe)	1060
アオラ港(Aola)	844	アダムス(米國務卿、第六代大統領 John Quincy Adams)	
アーガス號(英艦 Argus)	278		



# 太平洋二千六百年史補遺

## 現勢篇(追加)

### 第一章 南支方面

#### — 附英領香港 —

#### 第一節 汕頭

##### 一、沿革

汕頭は福州・厦門等と異り清朝の初期まで一漁村であり、港市としての形態を備へたのは今日より百數十年前と云はれてゐる。而して汕頭の原名は泥沙浮出の義から沙汕頭と呼ばれたが、現名の汕頭に改まつたのは開港前と思はれる(年代不明)。歐洲人は南京條約後、汕頭沿岸に阿片貿易の爲めに活躍し、汕頭開港の直前一八五八年まで英商は阿片收容船(躉船)二隻を備へてゐたが、支那官憲の爲めに驅逐され、阿片商は一時汕頭附近の碼頭に移つた。汕頭は同年の天津條約に依り潮州の名を以て開港に指定されたが、實際は二年後の一八六〇年(咸豐十年)に開港設關し、英米領事が駐在したのである。然かし當時支那側に有力な地方政權が無かつたので、外人は兇暴の振舞ひをなし、殊



猪仔貿易

にキューパ、ペルー等に支那苦力を奴隸として賣却する所謂猪仔貿易を熾んに行つたので、地方の排外熱を高め、その後兩三年間外人は潮州に入るは勿論、港場から少くとも四哩位の外には居住は出来なかつた。一八六二年英國は汕頭から一哩を距る韓江北岸崎嶇に一租界を設けんとしたが、亦た民衆の反抗に遭つて目的を達し得なかつた。その間、外人の住居は諸地方に散在してゐたので、同年英國領事館は韓江の南岸角石島の平地に之を設置し、その後數年内に汕頭は香港の發展と共に、漸く船舶の入港を増加し今日の繁榮を見たのである。汕頭市は從來の舊市場及び新開地の崎嶇と、對岸の角石とが合併されたものであり、民國十年市政を施行した際は等三地を總稱し汕頭と名づけた。汕頭市は大路建設後、市區は漸次擴張され、人口は民國十七年の十三萬五千餘人が同二十四年には十九萬六千餘人に増加したのである。

二、港 勢

港勢

汕頭は廣東省中、廣州市に次ぐ重要貿易港である。東方約十九哩には南澳島が存し韓江河口より約四哩の位置に在る。附近には恰も汕頭の防波堤の如き二小島、碼頭及び德嶼があり、港灣の水深は概して四十呎を下らないが、通常高潮時西南季節風の時期には吃水二十呎六吋、東北季節風の時季には吃水二十一呎六吋の船舶が航行可能で、河口は干潮時水深十三呎である。港内には六箇の浮棧橋あり、同時碇泊の船舶數は沿海型汽船三十隻で、碇泊地數は浮棧橋に五箇、繫留浮標に十二箇、合計十七箇である。汕頭港の倉庫棧橋の施設は次の如くである。



内に汕頭は香港の發展と共に、漸く船舶の入港を増加し今日の繁榮を見たのである。汕頭市は従来の舊市場及び新開地の崎嶇と、對岸の角石とが合併されたものであり、民國十年市政を施行した際は等三地を總稱し汕頭と名づけた。汕頭市は大路建設後、市區は漸次擴張され、人口は民國十七年の十三萬五千餘人が同二十四年には十九萬六千餘人に増加したのである。

## 二、港 勢

港勢

汕頭は廣東省中、廣州市に次ぐ重要貿易港である。東方約十九哩には南澳島が存し韓江河口より約四哩の位置に在る。附近には恰も汕頭の防波堤の如き二小島、碼頭及び德嶼があり、港灣の水深は概して四十呎を下らないが、通常高潮時西南季節風の時期には吃水二十呎六吋、東北季節風の時期には吃水二十一呎六吋の船舶が航行可能で、河口は干潮時水深十三呎である。港内には六箇の浮棧橋あり、同時碇泊の船舶數は沿海型汽船三十隻で、碇泊地數は浮棧橋に五箇、繫留浮標に十二箇、合計十七箇である。汕頭港の倉庫棧橋の施設は次の如くである。

汕頭市圖





汕頭港倉庫棧橋施設表

(一九三七年支那海關海關部報告による)

所 有 者	岸壁延長(呎)		干潮時水深(呎)	倉庫數 (平方呎)	倉庫棟數
	棧橋	浮標			
太古洋行	第一棧橋	一八〇	一七	一	二
	第二棧橋	一八〇	一三	三三二、〇〇〇	二四
	第三棧橋	一五〇	一八	一	三五
	第四棧橋	一七〇	一五	一	三七
怡和洋行	棧橋	二一〇	一九、六	一	一
	棧橋	四八	一八	二〇、〇〇〇	二
アジア石油公司	棧橋	四八	一八	四八、〇〇〇	二
スタンダード公司	棧橋	八〇	三四	一	一
太古洋行	浮標	二			
怡和洋行	浮標	二			
ダグラス汽船洋行	浮標	一			
外に海關	浮標	二			
其他支那籍	浮標	四			
日本大阪商船會社	浮標	一			

三、貿易

貿易

内外總貿易額は不況時の一九三二年でさへも一億七千二百餘萬元に達し、その後漸減したが最近は次表に示す如く一九三六年以降増加し、一九三七年には回復して約一億五千萬元に上つた。外國貿易は一九三二年の八百五十餘萬元が、一九三四年以降漸減し最低約二分の一に下つたが、一九三六年より増加し一九三八年には事變に依り七千四百餘萬元に達した。内國貿易は一九三二年には最高九千萬元を越え、その後移入不振の爲めに一九三四、五年には八千



萬元臺に下り、一九三六年には再び増加して九千三百萬元に上つたが、一九三八年は再び七千百萬元に減退した。本港の入超額は廈門以上で、一九二二、三年は一億元を越えその後は減退し、一九三七年には三千六百九十萬元に、一九三八年には二千萬元に漸減したのは密輸入の増加を反映するものである。

對日貿易  
國別貿易に就いて云へば同港が香港の勢力範圍に在るため、英國（香港、海峽植民地等を含む）の六、七割を占めるに反し、日本は殊に排日貨に禍せられ、約十年前の一九二八年頃は二分五厘に過ぎなかつた。一九三六年は若干増加しても漸く四分四厘強に止る。

一九三九年の外國貿易は前年の七千四百十四萬元に對し六千七百六十八萬元に減退してゐる。

最近三年間汕頭港貿易統計表（單位千元）

（支那海關統計及び月報による）

總計	外國貿易		內國貿易	
	輸入	輸出	移入	移出
一九三六年	二九、六二一	二三、二二四	六七、七四一	二五、五六三
一九三七年	三六、二九七	三三、五一五	五七、一三一	二五、〇五一
一九三八年	三六、五八八	三七、五五三	四五、六六五	二五、三六〇
一九三九年	三三、四三五	三四、二五〇	七一、〇二五	九三、三〇四
總計	一四六、一四八	一四九、九九四	一四五、一六六	

主要輸入品は米を始め石油・柴油・揮發油・肥料等であり、米は一九三八年は最高一千五萬元に達した。主要輸入

品は抽絲細工品を始め、紙類・蔬菜・蒜・紙・傘等であり、抽絲細工品の輸出は一九三八年最も多く、八百五十六萬元に達してゐる。移入の主なるものは綿絲布・米・麥粉・煙草等で、綿布は一九三八年は最高七百二十餘萬元に、綿絲は同年最高九百三十六萬元、卷煙草は同年最高四百五十八萬元に達してゐる。移出の主なるものは砂糖・紙箔・果實等であり、砂糖は最も多く一九三八年は最高約一千二百萬元、紙箔は最高四百萬元に達してゐる。

### 第二節 廈門

#### 一、沿革

廈門は古來金門島と共に金廈兩島と併稱せられ、廈門の厦は大を、門は口即ち港を意義し大港の義である。ピッチヤ一の著廈門には大厦高樓の門戸とし、或は臺灣と相對し咽喉關鍵とされてゐた。廈門の發達は汕頭に比すれば遙かに古いが、泉州・福州等に較ぶれば遅く、廈門の名を使用したのは恐らくは明の初めと思はれる。廈門の防備としては元代に要塞である千戸所を設け、明代には殊に沿海防倭の鎮城である中左所を置き、鄭成功は師を鼓浪嶼に駐め、中左所を思明州に改め、鄭成功臺灣に渡つた後その子鄭經を廈門に留めた。清の康熙二年（一六六三年）施琅等は廈門を攻め、次で同二十二年（一六八三年）廈門に駐劄し、爾來水師提督府を開府し、翌二十三年泉州府同知は廈門を管理した。是は廈門廳の始である。次で雍正五年（一七二七年）興泉道を廈門に移駐し永春州を兼管した。その後興泉永道を廈門道を爲し、或は廈門廳を思明縣と爲す等改正があり、最近民國二十四年に廈門特別市を設けた。廈門の開

鄭成功の牙城



港は古く、宋代から海外との通商が發達したが、泉州よりも遅れてゐた。葡船は明の正徳十二年（一五一七年）廣東通交以來十五年間支那沿岸を通じ寧波に至るまで各地に商館を設け、次で嘉靖二十四年（一五四五年）より同二十八年まで多數葡人は厦門に來り暴舉に出たので、支那側は彼等の商館を閉鎖し商人を驅逐し又は殺害した爲めに、彼等は澳門に退去した。

和蘭は清の順治十八年（一六六一年）鄭氏の臺灣掠奪後、厦門通商の目的を以てバタビアから十二隻の艦船を差向け、その後一世紀間官憲を買収し厦門を始め福建諸港の密貿易に従事した。英國は一六七〇年臺灣の鄭氏と款を通し、厦門及び臺灣と貿易を開始し、厦門の貿易は旺盛に赴いたが、一六八一年厦門の貿易處を廢止し、その根據地を廣東に移した。清朝の臺灣征服後一六八五年厦門には廣東・寧波・上海等と共に海關を設け、内外國貿易船の自由通商を許したが、一七三〇年には獨り西班牙船に限り厦門に入港を認め、更に一七五七年廣東一港主義を實施して外國船の入港を禁止したが、その後外國船は地方官憲を買収し、阿片等の密貿易を盛んに行つた。従つて一七九七年頃厦門には洋行八軒、大小商行三十餘軒を算した。一八四二年南京條約の結果厦門は五港の一として開港されたが、實際は一八四四年六月英國領事の赴任を俟つて開港した。一八四五年支那側が英國に賠償金を完済するまで鼓浪嶼に駐兵した。次で一八四七年三月七日英國船に依つて始めて數百人の支那苦力をハバナに輸出したことがあり、その後外國殊に英國の商社は支那人ブローカー（客頭）と連絡し、支那人苦力の賣買を前記汕頭同様に行つたので、一八五二年十一月には排外運動を激發したが、一八六二年新海關開設後、同港の貿易は漸次發達を來たしたのである。厦門は古來トルコの都市と共に世界一不潔の市と云はれたが、近年市區改正後面目を一新し、一九二六年には水道も完成し、人口は増

苦力の賣買

加し、事變前に人口十八萬三千餘人（男十萬五千餘人、女七萬八千餘人）に達した。同市陥落後一時約一萬人に激減したが、約一ヶ年半を経た一九三九年十一月頃には約十萬人に回復し、一方避難地鼓浪嶼は平時人口數萬を算したが、事變の爲に一時十萬、六萬人に激増し、同期までに約半減した。厦門及び鼓浪嶼の邦人人口は事變前の一萬六百餘人（内地人四百二十人、臺灣籍民約一萬二千人）が、同期までに九千三百餘人に減少し、臺灣籍民は約七千人に減少したのに反し、内地人は約二千二百人に激増した。

## 二、港 勢

港勢

厦門港は周圍約三十五哩の厦門島西南角に在り、面積は全島の五分の一を占め、周圍三哩の鼓浪嶼と相對し、内外兩港に分れ、その内港は厦門島と鼓浪嶼と相抱く所で、長さ約二哩、幅員六百七十五碼乃至八百四十碼の水道を形成し、水深は中央部は概ね六十呎乃至三百呎で、浅きも三十呎に達す。外港は鼓浪嶼と大陸との間に介在する島の西方の區域である。港灣の地形は深く陸地に凹入し、その入口には多數島嶼散在し自然の防波堤を成すので、四時港内平穩で颱風に依るほか風波の虞はない。港灣の設備は古來天然の良港故に埋立工事は少ないが、最近一九二六年支那側は市街の東端より虎頭山一帶の地四萬坪の後記日本租界に於て埋立計畫を建て、一九二八年以來之を實施し、埋立地の岸壁は延長一千百呎で、高さ滿潮時水面上六呎のコンクリート造りとし、更に和蘭築港會社をして延長一支里餘の新埠頭の増築に著手し一九三三年完成を告げた。

埠頭倉庫施設を擧ぐれば左表の如くである。



埠頭名	岸壁延長	干潮時水深	倉庫敷地面積	倉庫數	起重機數	錨地延長
支那航業會社	七〇〇呎	二二呎	五一、〇〇〇 <small>平方呎</small>	一五	—	浮棧橋二一〇(二箇)
スタンダード石油會社	四〇	一九	三〇、〇〇〇	三	—	二八〇(二箇)
アジア石油會社	六〇〇	二五	二四、〇〇〇	三	二噸揚一	上屋錨地最大三五〇呎の船舶を碇繋

(一九三七年支那海關海事部報告による)

廈門港の船座數は十八箇あり、同時碇泊可能の汽船數は長さ五百呎のもの三隻、二百呎乃至三百呎のもの十七隻、合計二十隻である。繫船浮標は六箇地中第三及び第四の兩區に存在し、第三區には大阪商船及び太古洋行所屬のもの、第四區にはダグラス汽船公司所屬のものがある。最近廈門市政府は長さ五十呎、幅十八呎の浮棧橋二箇を建設し、一を廈門側に、他を鼓浪嶼側に設けた。又一九三七年には百萬元を計上し、四防波堤の建設計畫を立てた。船渠は何れも羅星島に在り、一は海軍所屬のもので長さ三百五十呎、幅五十九呎十九吋、吃水十六呎の船舶を收容し得、他は民國二十五年五月完成されたもので長さ三百七十呎、幅頂部九十呎、底部三十九呎九吋である。

三、貿易

貿易

廈門の内外總貿易額は一九三一年は最高八千四百五十餘萬元に達したがその後漸減し、殊に一九三四、五年は約半減して各四千萬元臺に下り、その後更に減退し一九三八年は殊に事變の影響を受け二千五百七十餘萬元に下つた。外國貿易は一九三一年は四千六百四十餘萬元に達したが、一九三六、七年は一千七百萬元臺に減退し、一九三八年は同一事情に依つて更に一千二百三十餘萬元に墜落した。但し一九三九年は若干恢復した。

最近三年間廈門港貿易統計表 (單位千元)

總計	外國貿易		內國貿易	
	輸入	輸出	移入	移出
一九三六年	一三、二九六	四、〇〇二	一九、一一三	三、七八二
一九三七年	一三、〇一七	四、六〇五	一七、七七〇	二、二六〇
一九三八年	九、一三四	三、一九九	八、八五二	四、五五八
一九三九年	一〇、一五七	三、四七三	一三、六三〇	一三、四一〇
總計	四〇、一九三	三七、六五二	二五、七四三	—

(支那海關統計及び月報による)

輸出入品

主要輸入品は米・麥粉・白糖・石油・石炭等である。米は今より約十年前には二百萬兩以上に達したが、最近不況で一九三七年は殆んど皆無となり、一九三八年は百萬元を越えた。主要輸出品は茶・煙草・紙箔等で、茶は従前紅茶が多かつたが最近緑茶が大部分を占めた。紙箔は最近三箇年間各年百萬元を越え、一九三七年は最高百五十萬元に上つた。移入の主なるものは米・麥粉・綿絲布・卷煙草等で、米は一九三六年には百萬元を越えたが、その後は漸減し一九三八年は三十萬元臺に下つた。麥粉は一九三六、七年には各年二百萬元を越え、一九三六年は最高二百五十萬元に上つた。綿絲は一九三六、七年には各年百十萬元を越えたが、一九三八年は七十萬元臺に下つた。綿布は一九三六、七年は二百四十三萬元に、一九三七年は二百五十六萬元に達したが、一九三八年には百四十萬元に下つた。卷煙



草は一九三六、七年は各年二百萬元を越えたが、一九三八年は約半減し百萬元臺に下つた。移出の主なるものは砂糖・果實等であるが、その金額は多くない。

#### 四、國際關係

國際關係

廈門の外國關係地域には近年回收された英國租界及び自然消滅した日本の專管居留地があつたが、現在は共同租界（工部局）のみである。

##### (一) 英國租界

英國は阿片問題を機會に、南京條約の直前道光二十一年（一八四一年）鼓浪嶼に駐兵し、砲臺の砲撃、官署の燒燬等を行ひ、次で一八四四年九月には支那地方官憲と阿片戰爭當時占領した廈門水操臺、南校場を居留地としたことがある。近年は一九二一年英國太古洋行が浮棧橋を築造するに及んで、支那側は之を租界外とし各地呼應して排英運動を起したので、英國側は屈服し、更に一九二五年上海五卅事件の結果、南支一帯に反英氣勢高まり、英租界の警察權も一時支那側に引渡したとさへある。更に支那國民革命運動の進展に伴ひ漢口・九江等租界撤回の影響を受け、廈門租界も一九三〇年九月十七日英國公使ランブソンと王正廷との協定成り完全に解消されたのである。

##### (二) 日本租界

日本の廈門租界は明治二十九年十月十九日日清通商航海條約締結後、同條約議定書第三條に依り同三十二年十月二

十五日（光緒二十五年九月二十一日）廈門駐劄上野日本領事と福建市政司代理周蓮との間に廈門日本專管居留地取極書を協定した。其の第二條に於て我が諸般行政の權限を確保したもので、英國租界の如くに基礎薄弱な區域と同日に論ずることは出来ぬ。初め我が租界地の指定に就ては、廈門の東端虎頭山一帯の地四萬坪を畫したが、支那側は其の位置を變更せんとし、英國も自己の租界に連接してゐるので反對し、且つ同地は民家及び墓地の多かつた關係もあり、土民は排日ボイコットを實行し、支那老女を交へた一揆の爲めに我が境界線や國旗は破棄され、我が領事館員は暴漢に亂打されるなど幾多犠牲を拂つた後解決したのであるが、我が國では爾來之を放置し、支那側の埋立築港等違法處理に委したのである。

##### (三) 共同租界

鼓浪嶼島

廈門共同租界は鼓浪嶼島に在り、同島には從來米人が比較的多かつたので一九〇一年廈門駐劄米國領事より福建洋務局に對し、同島の開發に就き交渉し、當初支那側は自開商埠地にせんとする意嚮であつたが、各國領事は上海の例に倣ひ公共租界と爲さんことを主張し、一九〇二年一月十日日本領事館に於て道臺延年を始め支那側委員と日・英・米・獨・佛・和・瑞典・諾威等十箇國領事團との間に廈門鼓浪嶼公共租界章程を協定し、以來市政の共同管理を行ひ現在に至つたのである。



## 第三節 福州

## 一、沿革

福州は古來閩と稱し、隋代には泉州と名づけ、唐の開元十三年（七二五年）始めて福州と改め、其の後變遷を見たが、福州が都市として發達したのは元・明の頃である。マルコポーロや次で訪問したオドリック等の紀行文中には福州が大都會であることを賞嘆してゐる。福州の通商沿革も古く、既に明の成化五年（一四六九年）には外國船の入港するに及んで市舶提舉司を泉州から移し、正徳十二年（一五一七年）葡國のジ・ジョージ・マスカレンハスは福州海岸に達し、寧波・泉州・福州等に逐次通商を開始し、その後倭寇の爲めに海禁を實施したが、清の康熙二十四年（一六八五年）海關を上海・寧波・廣州・漳州（廈門）等に設けた後、福州に亦之を設置し、雍正五年（一七二七年）食料供給の必要上南洋に對する貿易を許可したが、その後既述の如く廣東一港主義を實施したので、福州にも亦公式に外國船の入港を禁止した。福州は一八四二年南京條約に依り五港の一として開いたが、實際の開港は一八四四年六月英國領事レイ（李太郭）の赴任と同時にである。開港當初の福州は五港中廣東に次ぐ第二位の都會で、その人口は寧波の二倍、上海の三倍、廈門の五倍で五十萬乃至六十萬と云はれた。然し開港初年第三年及び第四年は共に外國貿易船の入港なく、一八五〇年香港總督ボンハムは福州を寧波と共に杭州・蘇州・鎮江等に代へんと提案し、英國は同年基隆炭田に著眼し、福州に代へるに臺灣を以てせんと計畫し、一八五三年には福州放棄論さへあつた。同地方は茶の特産地であり、

英國の福州  
放棄論

その他製紙・木材等重要資源に富んでゐたので一八六一年新海關開設後逐年貿易の發達を來たした。福州は前清時代より省都として總督・督軍・督辦等が歴任して全省を統轄し、最近民國十五年十二月國民革命軍入城の翌十六年から本省政權は國民黨系に屬したが、交通不便で南京政府の威令は徹底しなかつた。一方江西の共産政府の勢力が時々本省に侵入せんとした際、反蔣派の李濟琛・陳銘樞・蔣光鼐・蔡廷楷等共匪と脈絡相通じ、民國二十二年十一月福州に人民革命政府を樹立したが、中央軍に討伐されて間もなく同二十三年一月崩潰し、後蔣介石の幕下陳儀は省主席となり、若干治績を擧げ今日に至つた。

## 二、港勢

港勢

福州港は閩江の河口金牌門より福州市と南臺を連接する萬壽橋（民國二十一年補修）に至る約三十四哩の河川を含んでゐる。河口五虎門から壺江・五埔・金牌・長門・館頭・閩安鎮・員山寨・鼓山・林浦等は古來何れも形勢の區と稱せられ、主として前清道光二十七年頃長門及び閩安南北岸の諸砲臺を修築又は新設したが、今日尙ほその殘壘を目撃することが出来る。溯江二十五哩の馬尾に至る水路は、砥に似て宛然大湖の如く、開港當時外人（一八四六年コリンソン）は之をライン河に較らべてゐる。馬尾には羅星島あり、上流は干潮時水深六呎を出ないので、大汽船又は軍艦等の碇泊には適しない。同島には宋代建立の古塔がある、故に外人は之をパゴダ・アンカレーヂと稱する。その河流の大なる處は約五百間で、水深く四圍の山岳江に迫り、風浪を防ぐに足る。馬尾碇泊地は海關角上流から長尾礁に至るまでを内港とし、下流約半哩の地點に至る間を外港とし、内港は一・二平方哩、外港は一・七五平方哩とし、水深は干潮時平均十



一呎六吋であるが、内港は最深六十呎、最浅五呎、外港は最深七十呎、最浅二十四呎である。閩江の馬尾上流福州南臺までは小蒸氣船の外航通に堪へないので、省政府は夙に一九一四年十二月水路浚渫の爲に福建水利分局を設け、一九一七年上海黃浦改修局長ハイデンスタムを招聘し、同年組織した改修局の技師長とし之が調査を爲さしめ、一九一九年夏頃技師ウイストはその地位を襲ぎ、改修事業を繼續したが、一九二七年國民革命成るに及び、改修局の主要外人を解職し、局長竝に技師長に支那人を充て、翌年福建提督楊樹莊が管理權を把握し、一九二九年三月改修局は解散した。その後改修事業は進捗し、水流を統制し、水深を増したので、一九二九年一月二十四日滿潮に乗じ、上海三北公司の汽船甬興號(長さ二六五呎、吃水一二呎、一〇〇〇噸)は上海より南臺まで吃水十二呎十吋の現狀で溯江し、貨物四百噸を積載の上埠頭に横付した。是れ海洋汽船福州入港の濫觴である。その後一九三五年九月に南臺埠頭が、翌一九三六年九月に羅星島新埠頭が建設されたので、汽船の碇泊が増加した。港灣の設備としては港界は羅星島錨地(馬尾)はA、B、C、ストレーションの下方第七號バースまでとし、南臺はシームセン・アイランドより南臺石橋までとする。南臺及び馬尾の現在埠頭設備は左表の通りである。

福州の埠頭

埠頭	延	長	干潮時水深	倉庫敷地面積	倉庫數	使用者名
南臺	一八二・五	呎	一四	七九、九二〇	一	三北汽船公司
馬尾	二六〇・〇	呎	二四	三九〇、八六四	一	各種船會社

(一九三七年支那海關海事部報告による)

船渠の建設は由來福州が前清時代より支那海軍の根據地である關係上、閩浙總督左宗棠は曾國藩の命に依り、上海

と共に福州に兵工廠の建設につき、夙に同治五年(一八六六年)五月十三日奏請して福州馬尾に船政局を開設することに決し、甯波海關稅務司であつたブロスパー・ギイケル(日意格)を外人監督とし案を立て、左宗棠の後任沈葆楨は佛英技師を傭請して支那人職工を養成し、工作を進め、同年十二月以降船臺の築造を爲し、下つて光緒十九年(一八九三年)船渠擴張工事を完成した。本船渠の主なる施設として八工場がある。民國二十三年の中國經濟年鑑に依れば、馬尾海軍造船所の施設は船臺長さ三百呎、船槽長さ百八十二呎とし、造船渠第一號は長さ三百六十呎、幅九十三呎、深さ二十五呎、第二號は長さ三百六十呎、幅六十七呎、深さ十三呎であり、造船能力は五千噸級の船舶を造り得る。最近一ケ年中修理したものは海軍艦艇以外に商船三十五隻を算する。同二十五年(一九三六年)五月に完成された同處の新船渠は長さ三百七十呎、幅頂部九十呎、底部三十九呎とし、吃水十四呎の船舶を入渠し得る能力がある。

三、貿易

貿易

福州港の内外總貿易は一九二九年は一億元臺に在つたが、その後漸減し、一九三五年は半額以下の四千三百餘萬元に下り、外國貿易は最高一九二八年の四千八百餘萬元が一九三六年は九百六十餘萬元に減退し、一九三七年は漸く一千二百七十萬元に上り、一九三八年は一千二百萬元に止り、一九三九年は減退し一千百萬元臺に下つた。内國貿易は一九二八年の六千九百餘萬元が一九三六年には四千八百八十萬元に下り、一九三七年は又不況で、三千八百十九萬元に、一九三八年は更に減退し三千三百九十二萬元に下つた。福州は廈門・汕頭等と異り特産物の集散地であるから多くは出超で、例へば一九三〇年以降一九二九年までは約一千萬元の出超を繼續したが、一九三〇年より世界的不況の



影響を受け入超に轉じた。本港の國際貿易は廣東・汕頭・廈門等と異り、臺灣北支那線を介するので英國と伯仲の間に在る。

輸出入品

最近三年間福州港貿易統計表 (單位千元)

總計	外國貿易		內國貿易	
	輸入	輸出	移入	移出
	一九三六年			
	五、一八五	四、四四三	二一、六三八	二〇、一九二
	九、六二八	四、八三〇	四一、八三〇	四一、八三〇
	一九三七年			
	六、三四八	六、三八一	二〇、五四八	一七、六四五
	一二、七二九	一三、九一三	三三、八一九	三三、八一九
	一九三八年			
	六、八六四	五、三三四	一七、〇六四	一六、八六七
	一二、一九八	三三、九三一	四六、一二九	三三、九三一
	一九三九年			
	六、九九八	四、六五〇		
	一一、六四八			

(支那海關統計及び月報による)

主要輸入品は米・麥粉・砂糖・綿絲布・石油等である。米は從前盛時は二百萬元を越えたが、最近は減退し、一九三八年僅に約二十萬元に止り、麥粉も同様一時二百萬元を越えたが一九三八年には漸く四十八萬元を占めた。砂糖は盛時には二百萬元に上つたが、近年の不況に加へて關稅増徴の爲に不開港に對する密輸入を増加した反響を受け、一九三八年は最低四萬八千元に止つた。主要輸出品は茶・紙及び木材の三品である。茶は一九三一年頃の盛時に及ばないが、一九三六年以降三ヶ年間に於て、一九三七年は最高四百五十餘萬元に達し、紙及び木材は經濟界の不況と内地

交通杜絶の爲めに著しく不振を極めたのである。移入の主なるものは茶・煙草・綿絲布等である。茶は福州が輸出港の首位を占め移入額多く、一九三六年は六百三十二萬元を越えたが、一九三八年は二百八十餘萬元に下つた。綿布は一九三六年以降各年三百萬元を越え、一九三七年は最高三百七十萬元に達した。移出の主なるものは茶・木材・紙・果實等である。茶は一九三六年は七百五十萬元を越えたが、その後漸減し一九三八年は四百四十七萬元に下り、木材は一九三七年は五百八十九萬元を越えたが、一九三八年は五百二十萬元に下つた。紙は一九三六年は二百三十九萬元に達したが、一九三八年は二十萬元臺に激減してゐる。

四、國際關係

(一) 福建省不割讓條約の締結

國際關係

明治三十一年四月二十二日附矢野(文雄)駐支公使より清國當局に對し、

「清國政府に於て福建省内の各地を他國に讓渡若くは租賃せざるべきことを聲明せられんことを申入るべき旨帝國外務大臣より電訓ありたるに付、右の旨囊に面陳に及び置きたるが、更に貴王大臣に照會致候間何分の御回答を得たく此段照會得貴意候 敬具」

と申込みたるに對し、光緒二十四年三月四日(明治三十一年二十四日)附清國側の回答は左の通りであつた。

「本衙門接するに福建省内及び沿海一帯は何れも中國の要地に屬するを以て、何れの國を論せず、中國は斷じて



之を讓與又は租與せざるべし、依つて茲に貴公使に及照會候間然るべく貴國政府に御轉達相成度候。」

(二) 福建省内鐵道に關する約定

明治三十一年五月七日(光緒二十四年三月十七日)附矢野駐支公使は總理衙門公署に於て李鴻章・敬信・崇禮及び張蔭桓と會議し、その際清國政府は將來福建省内に於て鐵道を建設せんとし、資金を調達し、技師を招聘せんとする等の事あり、勢ひ他國に力を借らざるを得ざるときは、先づ日本政府に對して之を協議すべき旨言明せりと外務大臣に電報報告をしてゐる。

(三) 福建日本專管居留地の設定

日本專管居留地

明治三十二年四月二十一日日支委員間の取極書に依つて福州に日本租界を設置した。その區域は福州口岸天主堂碼頭の東界より尾墩村を除いた十七萬坪及び新洲に於ける氷廠の地面を除く約四萬坪である。然し我は今日まで之を放置したのである。

(四) 外國人雜居地

福州には右の我が專管居留地を除いては、外國租界なく、條約上は福州城内外何れの土地にも外國人は自由に雜居し得るが、現在主として閩江右岸蒼前山、泛船浦一帶の地は外國人雜居地とし、又俗には之を南縣居留地と稱してゐる。その面積は江岸東西二十町、南北一町乃至五町である。前記福建不割讓條約の效果に就いては、米國は前清末三

都澳に米國海軍の根據地を得んとし、一九一三年十二月米國委員は之を踏査したので、我が國は支那政府に對して大正三年十二月三日第一回の交渉を開始し、その後修正を加へ、同四年五月二十五日我國は支那政府をして「福建沿岸地方に於て外國に造船所・軍用貯炭所・海軍根據地その他一切軍事上の施設を爲すを許さず、又外資を借入し前記施設を爲さんと欲するが如き意志なし云々」と聲明せしめたのである。

第四節 香港

一 沿革

(一) 英國領有前

英國領有前の香港は一小島又は一地方を指して云つたのであるが、南京條約の少し以前に全島の呼稱となつたやうである。(香港名の緣起には諸説あれど、南京條約より遙か以前の雍正九年、即ち一七三一年版郝)  
(玉麟の廣東通志卷三輿圖には今日のアーチーの南方小島に香港名を附してゐる。)

現在の香港は往時廣東省東莞縣の一部に屬したが、後ち新安縣が分立した時に其の管轄に歸し、新安縣知事は南頭城に居り、九龍城には副知事がゐて統治した。

清朝施政(一六四四年)前の香港は荒島であり史蹟は極めて少く、呂宋の末帝昺が南渡の序で一二七八年頃一時九龍半島に行宮を設けたことがあり、其の遺跡は現在碼頭涌に近い海岸官富場に宋王臺の三字を刻した岩石が存す



る。後ち明の遺臣が一六五〇年頃香港の森林中に難を避けたと云はれてゐる。

海賊島

香港地方は古から海賊の根據地であり、元代（一二八〇—一三三三年）に筲箕灣やアバーヂーン（香港仔）に於て最も暴威を振つてゐた。明代（一四六八—一六二八年）には民船に課税し、稍々平和的ではあつたが、彼等の子孫も尙ほ四邊に進出して活動したので、當初葡萄牙の航海業者は香港を海賊島パイロウと稱した。香海九龍地方へ移住した民族は廣東省と同じく、本地・客家及び福老の三種族である。香港には錦田村の唐家が領主のやうな地位を占めてゐたと云はれてゐる。本地族は廣東語を用ひ、廣東省の北東から來り、香港・九龍の良地を占有し、客家は客家語を話し、本地族移住地の間に割り込んだ。兩族共明代以降漸次移住し、福老は稍々後れて來り、潮州語（仙頭語）を話し、香港島・筲箕灣・九龍半島紅磡・油蔴地等の地方に住居した。各風俗氣質を異にし、大體本地族は才能ある優秀の種族で、活動的なるも狡猾である。客家は性稍々善良の種族で、勤勉正直で、樵夫や石切をなし、又水汲等をしてゐる。英軍の始めて襲來した際には、本地族は敵對行爲に出でたに反し客家は友情を表し、手助けをした。然し是等種族の人口は極めて少く、英領當時の一八四一年頃十八箇村の總計四千餘人、舟中其の他を加へて約七千餘人に過ぎなかつた。

## （二）英領時代

**香港の割讓** 英國が東印度會社に依り廣東貿易を獨占してから一世紀近くは、主として不正な英國商人の阿片密貿易に對し廣東官憲の取締壓迫が加へられ、英國人は廣東を退去し、葡領澳門其の他に避難地を求め一方、英國側は英國官民の保護及び貿易の發達を期する爲に廣東に代はるべき條約港を他に設けんとし、或は一步を進めて新に植民

南京條約

地を獲得せんとする意見もあつた析柄、偶々阿片戰爭の勃發となり、英國は戰勝の威勢に乗じて支那側を威嚇し、一八四一年一月二十日英國全權エリオット大佐は清國全權琦善と南京條約の豫備條項とも云ふべき川鼻（穿鼻）條約を締結し（川鼻は虎門の東南、香港の割讓を約せしめ、同月二十六日ブレーム提督は香港島に上陸し、英國旗を掲揚して同島の領有を宣言した。然し清國皇帝は右條約の批准を拒んだので、英支關係は再び惡化し、英軍は同年二月以降八月までに廣東・厦門・寧波・上海・鎮江等に進撃し、南原に迫つた爲に、清軍は降伏し、一八四二年八月二十九日南京に於て英國全權サー・ヘンリー・ポツテンジャーと清國全權耆英・伊里布・牛鑑との間に南京條約を締結し、（一）香港の割讓、（二）五港の開放及び之等地方に於ける領事裁判權の享有、（三）償金總額二千百萬弗の支拂、（四）特許商たる公行制度コホンの廢止、（五）公平且つ正規の輸出入税及び通過税（抵代税）の規定、（六）直接平等交通權の承認等を定めた。之より先き同年二月六日ポツテンジャーは香港を自由港と爲すべき旨を宣言した。翌一八四三年六月二十六日ポツテンジャーは、來著した清國全權との間に右條約の批准交換をなし、初代總督に任じ、かくて香港島の領有を確立したのである。

**香港植民地の擴張** 英國の香港獲得は固より單に貿易港としての經營を目標としたのみでなく、東亞に於ける帝國主義的策源地に充てんとする遠大の計畫が存したが、領有當初衛生状態極めて不良で、猖獗なる風土病・颱風・火災等の外に海賊の横行已まず、施政の困難名狀し難きものがあつたので、財務官のマルチンは一八四五年十一月二十八日ロード・スタンレイに香港放棄論を提出したことさへあつたが、時の總督サー・ジョン・ダヴィスは斷乎として反對し、改善策に邁進した。次で一八五六年十月總督サー・ジョン・ボーリングの在任中發生したアロー號事件の結



果、一八五八年一月英佛聯合軍は廣東攻略に際し、英國は廣東駐在領事パークスをして兩廣總督に對して九龍半島の一角を永久租借せしめたが、同地は一方軍事上・經濟上又は衛生上香港の存立に不可缺のものなりとし、他方英國が之に染手しなければ佛國が必ず之を掌握するの虞ありとの懸念よりして、一八六〇年十月の北京協約で完全に之を英國の領土と決した。

## 九龍租借

一八六九年スエズ運河が開通し、歐亞の距離が著しく短縮せられ、香港の通商海運は急激に發達し、其の東南洋に於ける地位は極めて重要性を増し、一方獨逸の膠州灣、並に露國の遼東半島租借及び日本の福建不割讓條約の締結等と相俟つて、英國は威海衛の租借に次で、一八九八年六月九日調印の香港地域擴張に關する條約(同年八月六日ロンドンで批准)を以て香港防禦上の必要及び香港商業區域の狹隘を理由に、陸地は香港の約八倍、水域は從來の數十倍の九龍半島深圳以南及び附屬島嶼沿海を含む地域を九十九箇年租借することに決した。然し此の九龍新界の引繼は翌年四月十七日に行はれることになつたが、支那人の排英運動熾んに起り、暴徒は英國警察廳を襲撃したので、四月十六日民政長官は大埔を占領せしめ、更に同月十八日兵力を以て租借地境界の深圳を擊破し之を鎮定した。而して英國は右擾亂は清國官吏の煽動に出づるものとして、右條約中留保した九龍域内の支那國の管理權をも撤去せしめ完全の租借地とした。

然し清國側では革命以來、殊に香港回收論が擡頭し、或は廣東黃埔築港計畫に依つて香港の繁榮を奪はんとする工作あるに拘らず、英國は香港百年の長計から九龍新界の領土化に邁進する望蜀の野心を抱懷して居り、一九三六年初、前の香港總督クレメンチはローヤル・エム・パイア・ソサイチーに於ける香港の將來に關する講演の一節で、九龍租借地を香港・九龍同様に支那より改めて英國に割讓すべく南京政府及び廣東政權に對し、至急提議交渉すべき旨を

高調してゐる。

斯くして英國は殆んど無人に等しい荒島を經營し世界的の一大港と化したので、久しき以前に倫敦デリーメール紙は「香港は世界一の港で、英國王冠中の最も輝ける寶石である。世界過半のクリアリング・ハウスである。若し英國にして香港を失はんか、ロンドンの大半は破産に瀕する」と記し、又某支那人は「支那は英國に一の花崗岩を譲り渡し、その代りに黄金の山を受取つた」と評した言葉は人口に膾炙されてゐる。

## 二、地誌

## 境域

地勢 香港は王領植民地<sup>クラウンコロニー</sup>で、英領香港島、舊九龍及び租借地たる九龍、其の他附屬諸島を含む新界から成る。香港島は北緯二十二度九分より同十七分、東經百十四度五分より同十八分の間に互り、廣東河口に近く、廣州より九十哩、澳門より四十哩である。島の長さ十一哩、幅二哩乃至五哩、面積三十二平方哩で、全島殆んど山嶽的花崗岩の丘陵を以て充され、海濱より急傾斜を以て隆起し、東より西に向つて蜿蜒として連らなり、屢々急角度に依つて遮斷されて居る。丘陵の最高地點は西海岸に面したるビクトリヤ尖峰<sup>ディク</sup>で、海拔千八百呎に達し、海岸には多少狹隘な低平地を見るが、概して斷崖絶壁を成してゐる。大陸側の九龍半島は一衣帯水僅かに一哩を隔てビクトリヤ港と相對してゐる。南海岸は鋸齒狀を呈し、二半島海中に突出し、東を大潭灣とし灣口の水深六十呎乃至九十六呎あり、又南西海岸に面し鴨洲島<sup>アツシヤ</sup>が横はり、アバーデーン港(香港仔)の防波堤を成してゐる。

舊九龍は九龍半島の南端約四平方哩の平地で、香港ビクトリヤ市と指呼の間に位し、九龍市街地は此の中に在る。



九龍新界は九龍半島及び附屬島嶼大小約四十を包括し、其の面積三百七十六平方哩あり、香港島舊九龍を合せば面積約四百十二方哩に達する。

氣象 香港の氣候は亞熱帶で、冬は涼しく乾燥し、夏は暑く濕潤であり、夏季は南西季節風、冬季は東北季節風が激しい。氣温は華氏九十五度以上四十度以下は稀である。一九三七年の平均氣温は七三・九度であり、平均雨量は八二・五〇吋である。濕度は高く往々九五%に上ることがあるが、平均は七九%である。風速は一九三六年（八月十七日）の最大一時間一三二哩（六八米秒）であり、一九三七年（九月二日）は一時間一二五哩（六四米秒）であつた。

颱風の被害

香港に於ける颱風中歴史的に強烈で慘害の著しかったのは、一八七四年、一九〇八年で、特に一九〇八年には約一萬人の死者を出した。

住民 香港は地理的に見れば支那であり、自ら支那人が人口の大部分を占め、外國人は少數なれど、上海と同じく世界人種の展覽會とも謂ふべく、四十數箇國の人民が居住してゐる。

南京條約直後、即ち一八四四年の人口は僅に一萬九千餘人のものが、其の後支那の動亂その他時局の影響を受け、異動一樣

香港島	非支那人	九、八四七
	支那人	四三、七九二
九龍半島	非支那人	一〇、八八七
	支那人	三三、九三六
新界	非支那人	一〇七、〇五二
	支那人	四七、七六
水上	非支那人	一〇〇、〇〇〇
	支那人	二二、五八二
計	非支那人	九八、四〇〇
	支那人	一、〇〇六、九八二

でないが、大體逐年増加し、一九〇〇年は二十六萬餘人、一九二五年は八十萬人を超え、一九二八年は百萬人を突破した。而して其の後若干の増減を見、最近一九三七年六月末現在は右表の如く再び百萬人を越え、支那人は約九割八

分を占めてゐる。一九三九年の人口は支那の避難民が前年以來殺到し數十萬を増加してゐるが、廣東の治安恢復後、漸次歸還したもあり、正確の數字は未詳である。

支那人以外の住民は一九三五年の調査にて約二萬人中英人最も多く、市民約六千餘人、印度人及び葡萄牙人の各約三千人が之に次ぐものである。

邦人の香港に渡航したのは一八四五年南洋方面に漂著した漁夫四名が送り届けられたのを濫觴とし、其の後我が香港領事館の開設された二年後の明治八年（一八七五年）には十三人のみであつたが、爾來増進の一途を辿り、殊に日露戰爭當時から激増し、最近一九三一年は最高一千八百一人に上つたが、一九三三年は排日貨と世界的經濟不況に依つて一千四百人に減少し、其の後數年は大差なく、一九三七年より日支事變に依り激減し、一九三九年十月頃漸く八百七十四人（内地人五百九十六人、臺灣籍）に恢復した。

三、行政及び司法

行政

總督の權限 政治組織は領有以來若干の變遷を経たが、現在の施政は一九一七年二月十四日の特許狀及び同日附竝に其の後發布の勅令に依り英國皇帝の任命する總督が之を行ふ。總督は海軍中將を以て之に充て、陸海軍最高司令長官を兼任するも、特別の任命ある外、正規軍を直接統率する權限は之を持たないで、軍の行動に就いては英國支那艦隊司令長官及び駐屯軍司令官が其の責を負ふ。

參與機關 總督政治を輔佐する爲めに參與機關として行政會議及び立法會議がある。



行政會議は總督が之を召集するが、總督が前記勅令に依り付與せられた権限を行使するには、其の都度行政會議に諮詢するを要する。

行政會議は官吏議員六名、非官吏議員三名を以て組織する。前者の中五名は職務上行政會議議員となり、後者は總督より任命せられ、一名は支那人を以て之に充てる。

立法會議は植民地法令の制定を協賛し、該法令に對し英國皇帝は否認權を有する。立法會議は官吏議員九名及び非官吏議員八名を以て組織し、前者の中六名は行政會議官吏議員が兼任し、残り三名は警視總監・港務局長及び衛生局長の三名が就任するが、何れも總督の任命に依る。

非官吏議員八名中二名は治安判事團及び商工會議所より夫々一名を指名し、其他議員は何れも總督の任命する所であり、内三名は支那人を以て之に充てる。

行政廳の組織 香港政廳の日常行政事務は民政長官を首腦とする民政廳を始め二十八部局に分かれ、就中多數支那人を統治する故に特に支那人事務局（華民政務司署）を設けてゐる。

## 司法

香港の司法は裁判所之を行ひ、高等法院・下級裁判所及び控訴裁判所の三種あり、亦司法機關に七部局がある。

高等法院は皇帝の特許狀に依り任命せられる裁判長一名及び他の判事一名又は一名以上を以て構成し、其の管轄は民事の外に海軍・破産・遺言檢認・精神鑑定等に及ぶ。

下級裁判所は民事及び刑事裁判所より成り、刑事裁判所は即ち警察裁判所であり、治安判事及び一名又は一名以上の警察裁判官を以て組織し、違警察犯を裁判し、手續頗る簡便であり、其の裁判官は總督の任命に係る。

控訴裁判所は高等法院又は下級裁判所の判決に對する控訴審を行ひ、高等法院内に開廷し、高等法院長を裁判長とする二名又は三名の判事を以て組織し、上告審は英本國の樞密院裁判委員會に於て之を行ふ。香港の法律制度は香港の特殊性に基き、香港總督令に依るも亦英吉利本國法の支配を受けるものである。

香港總督は第一代のポテンヂャーから現代のノオースコートまで二十代に亙る。

## 四、財政

香港政廳の財政は經濟の發達、土木其の他の重要施設の擴張に伴つて膨脹し、南京條約直後一八四四年の歳入六萬三千磅が一九〇〇年には四百二十萬弗に、一九一五年頃から一千萬弗を越え、一九二五年は二千三百餘萬弗に、一九三五年は二千八百餘萬弗に、一九三七年には三千三百餘萬弗に達し、歳入中の主要項目は従前は阿片收入で、一九一四年阿片專賣制實施後一九一八年は最高八百六十萬弗の多額を占めたが、一九三四年以降は百萬弗を下り一九三七年は二十四萬弗に減退した。租稅收入は香港は自由港なるが故に従前見るべきものなかつたが、一九〇九年以來酒の輸入に、一九一六年以來煙草の輸入に例外的に課稅し、近年之等兩品の稅收は著しく増加した外に亦ガソリン等にも課稅したので、輸入稅は一九三七年度には最高七百六十餘萬弗に達し、免許料及び内國稅は合計一千四百十九萬弗である。歳出に於ては同年度國防費の五百五十八萬弗を主とし、警察費の三百十萬弗之に次ぐ。

例外課稅

## 五、軍備



香港は英國が新嘉坡と相並んで所謂極東のジブラルタルとして軍事施設の擴充に腐心し來たのである。

要塞 香港の要塞は東西兩水道及び港内の三區に分れて施設されてゐる、(一)西水道地區にはサルファー・チャネル方面のストーンカッター島(灣竹洲)に西南・中央及び東の砲臺三座並に「バイン・ウード」、「ベルチャー」及び「フライング・ポイント」の砲臺三座、(二)東水道地區には鯉魚門の北岸大陸側に「デヴィル・ピーク」砲臺一座、香港側に「サイワン、ヒル」砲臺一座、(三)港内には香港側の「ノース・ポイント」、九龍側の紅磡・尖沙嘴・「ブラック、ヘッド、ヒル」に夫々一座を設けてゐたが、一九三四年頃更に香港九龍間に在る小島溫船州に地下砲十一座、香港島背面の外旗山に地下砲二十四座、九龍側に防空砲臺の築造計畫を立て、溫船州砲臺は當時既に完成したと云はれた。

防空砲臺

陸軍 世界大戰までは英國は南北兩支那駐屯軍を有し、南は香港に、北は天津に夫々本部を置いたが、戦後兩者を合併し、香港を本部とした。兵數は大戦當時の一九一五、六年頃は約四千五百人(内印度兵一、千八百餘人)であつたが、最近は五千名内外と云はれる(一九三一年の人口英國軍人七、六八二)。

義勇兵は一八六二年以來設置し、一八六四年には廣東在住の外國人よりも之を募集し、一八九三年には義勇兵條例を修補し、又一九三四年には海軍義勇隊も創設した。

海軍 香港は英國の極東に於ける最前線根據地として、華府會議廢棄以來恰も對戰準備の如き防備と施設の強化に努め、殊に防空施設には最も力を注いでゐる様である。而して香港は英國支那艦隊の本據であり、其の兵力は次の通りである。

巡洋艦	五隻	驅逐艦	十隻	航空母艦	一隻
潜水艦	十五隻	潜水母艦	一隻	河用砲艦	十八隻
敷設艦	一隻	スloop	五隻	特務艦	數隻
護衛艦	五隻	高速魚雷艇	六隻		

又戦時に沿岸哨戒・掃海作業等に從事するため一九三四年に海軍義勇隊を創設し、現在四萬人以上に達してゐる。

飛行場

空軍 空軍施設は一九三三年末、九龍の啓徳濱に英帝國航空会社の經營で民間飛行場を開設し、錦田にも軍用に供するために築造してゐる。航空機は現在支那艦隊塔載機の外、陸上基地常駐の空軍は無いが、近き將來本國より派遣される模様であり香港義勇航空隊も建設して將來新嘉坡空軍に匹敵する空軍を常設せんとしつゝあると傳へられる。

六、産 業

農漁及び鑛業 農業は九龍方面に於て支那人農家が米及び野菜類を作り、又は養鶏を多少營んでゐるが、香港植民地の人口四分の一の需要を充すに過ぎないので、食糧の四分の三は之を輸入してゐる。漁業は地位上重要であるが、地方的需要を充すに足らない。鑛物は近年九龍半島新界方面に之が若干埋藏量の存することが發見され、二、三稼行を見てゐる。例へば含銀鉛鑛・ウオルフラム鐵・モリブデン・マンガン鑛・花崗石・煉瓦及び陶器製造用の高陵土(カオリン)の脈があるが、未だ本植民地の鑛物埋藏量を顯示するに足る精査の地質圖乃至報告書は皆無である。現在採掘中のものはウオルフラム鑛の含銀重鉛鑛・高陵土及び少量の鐵鑛である。



## 造船業

工業 香港はポテンジャーが會て「香港は適當の機會が来るまで商貨を安全に保管し置くべき一種の倉庫に過ぎず」と述べた如く、今日に於ても貨物の大仲繼港であり、所謂フローチング・ゴードウンである。其の土地は狹隘で、地代頗る高く、熟練労働の供給十分ならず、加之、鐵・石炭等工業原料の供給に不便な實情に在り、自ら原料の供給地でもなく、生産加工業の發達地でもなく亦大消費地ではない。只航運は香港の生血と云はれる如くに、歐米東南洋交通の中心地に當るから、船舶港灣に直接又は間接に關係する工業は相當發達してゐる。即ち造船業は主工業で香港黃埔船渠會社（一八六五年設立）、太古船渠會社（一九〇八年設立）の二大會社の外に、庇利公司・威林詩積公司等英人又は支那人經營のものが數社ある。黃埔船渠會社は九龍に五箇、アバーヂーンに三箇の船渠を有し、九龍第一號は最大で底長七〇呎、口幅上九五呎、下八八呎、水深三〇呎である。太古船渠は英國海軍の要求で建設せられ、乾船渠の長さ七八七呎、船臺七五〇呎、頂上一二〇呎、渠口上九三、四呎、下八九呎、水深滿潮時底部中央三九呎である。

其の他重要工業としては、セメント・製糖・製綢・煙草製造・製氷・紡績・瓦斯・電氣・錫精鍊・製靴等があり、一九二〇年香港經濟資源調査委員會の報告に依れば、歐人の事業投資約五千萬弗に對し支那人の事業投資は約一千七百五十萬弗であつたが、一九三四年頃には五千二百二十餘萬弗に増加してゐる。精糖業は從來太古製糖會社及び支那精糖會社經營のものがあり、前者は約半世紀前の創業に係り、資本金五百萬元で、石功灣に能力百五十萬擔の工場を有し、一ケ年四百萬擔以上を製造したが、後ち外國糖又は廣東製糖の製品に壓迫され近年營業頗る不振となり、後者は一八七八年の創業に係り、資本金二百萬元で、一時相當利益を擧げたが近年頗る不況に陥り、既に十餘年前に作業を

閉鎖した。

セメント工業は一八八九年澳門附近のグリーン島に工場を創設し、次で一八九九年九龍に又香港南岸深水灣に各一工場を増設したが、後者は土管及び煉瓦の製造設備あるのみである。グリーン島工場は能力一ケ月二千噸、九龍工場は八千噸で、一時資本金六百萬元に達したが、近年邦品及び廣東製品の脅威を受け、逐年不振を辿り、一九三四年は約三分の一に減資した。

普通工場數は一九三四年香港側一六六、九龍側二五三、合計四一九であつたが、一九三七年は閉鎖工場五一に對し新設工場二四一を算し、香港側二七七、九龍側五〇〇、合計七七七に達し、メリヤス工場の一八一を首とし、其の他印刷及び石版・織物・裁縫・製菓等の工場が之に次ぐ。

## 七、貿易

## 香港貿易の特色

香港貿易の特色として掲ぐべきものは、(一)香港は仲繼港であり、出入の貨物は約同額で、當地に消費せられるものは輸入品の約一割内外に過ぎない、(二)各國對支貿易の比例は香港を仲繼とするが故に公平を缺く、(三)香港仲繼貿易は近年東亞諸港の發達及び直航路の擴張に伴ひ其の重點を失ひ、最近若干恢復したが、貿易は盛時の二分の一内外に止る。而して香港は酒・煙草・ガソリン等の一部輸入税を存する制限的自由貿易港であるが、前記の如く同地方に大産業なく、自ら統制經濟實施の餘地なきが爲に、現状維持の外に對策がない。故に一九三四、五年の交當地事業家は香港經濟調査委員會を組織し、貿易の振興策に關し政廳に建議したが效果はなかつた。



香港貿易高は歐洲戦争後の好景氣時代であつた一九二〇年には最高二億八千九百餘萬磅で、内金銀の輸出入七千七百萬磅を含んでゐた。然るに一九二五年よりは省港排英罷工事件の爲に激減し、一九二五年は三分の一（九千八百萬磅）に下り、其の後同事件の反映に依つて統計はないが、恐らくは六、七億磅に慘落したと思はれる。當時の香港は眞に支那側の所謂死港に近づいた。統計事務の再開された一九三二年は十四億六千七百萬磅に上つたが、其の後は世界的經濟不況に依つて漸減し、一九三四年以降は十億弗を下り、一九三七年は事變に依り、金銀の輸出入を増加した爲に一九二一年以降の最高記録を呈し十八億六千六百萬弗（金銀七億八千）に達し、一九三八年は前年に比し減退し十三億二千七百萬弗に下つた。然るに金銀を除く商品價格に於ては貿易の南移に依り前年に比し四千五百六十萬弗を増加し十一億三千萬弗を越えてゐるが、一九三九年は十一億二千七百萬弗に下つた。

對外貿易

國別貿易に於ては支那を首とし、英米之に次ぐ、一九三九年は支那は事變に依り前年に比し一億五千餘萬弗を減退し三億一千餘萬弗（二七・六％）に下り、英國は若干減退し一億八千八百萬弗（一六・五％）に下り、米國は二千二百萬弗を増加し一億二千八百萬弗（一一・五％）に上り、日本は若干増加し約三千四百萬弗（三・〇三％）となつてゐる。

密輸入

支那海關統計上に於ては往時支那の香港貿易は多きは外國貿易總額四、五割を占めたが、近年殊に密輸入激増の爲めに著しく其の率を減退し一割内外に下つてゐる。

密輸入の熾んなことは例へば一九三九年の香港政廳の統計に於て支那から香港への輸入額は支那海關統計の輸出額二億二千二十九萬元に對し二億二千三百萬弗で大差はないが、香港より支那への輸出は支那海關統計の輸入額三千五百四十萬元に對し九千二十二萬弗に達するが如く大差のあるは、支那に於ける密輸入が相當額を占めることを如實に證

明せられるのである。

重要品貿易は輸入に於ては食糧品を主とし、綿布類之に次ぎ、油脂・金屬等之に次ぐ。最近は左表の如く多少増加を示してゐる。

最近三ヶ年重要輸入品統計表（單位千弗）

品 別	一九三七年	一九三八年	一九三九年
	食料品	一五五、三四三	一五二、四四一
綿布類	七六、八四二	七九、八三三	九九、二〇〇
油類	七二、九八五	七八、二二三	八九、四四二
金屬類	六七、三九一	四八、一四四	三六、九八一
燃料	一六、〇一二	一七、二七三	一六、三九八

重要輸入品

外國貿易船の入出港は英國船を首とし、外國船としては日本船・和蘭船等が多い。

一九三八年外國貿易船香港入出港統計表

船 種 別	一九三八年		一九三七年		減		増	
	隻 數	噸數(千噸)	隻 數	噸數(千噸)	隻 數	噸 數	隻 數	噸 數
英國航洋汽船	三九六	一、三九七	四三二	一、二七九	三六	三三	—	—
外國航洋汽船	三、一三三	一〇、七六七	五、一〇一	一五、九二二	一、〇六〇	五、一三三	—	—



英國河航汽船	六、三六	六、五二	五、九六二	六、一〇九	一、一九二	一	二、七六	四〇二
外國河航汽船	五、四三	二、九	一、七三三	七、三三	二、四九七	六、四	一	一
六十噸以下の汽船	一、五五	四、九	四、〇八二	一、〇六	五	九、六	一	一
戎克船	九、七七	六、七	一、二、四八一	一、六三三	三、三〇四	九、六	一	一
合計	二四、六七〇	二九、五三〇	三三、七六二	三六、一九一	九、三三八	七、〇六三	二、七六	四〇二

八、交通

通信

電信 有線電信中陸上電報は一八八一年當地中國電報局の設置に始まり、大東電信會社の海底線を経由し、九龍に渡り支那電信局に接続し、支那各地に通ずる。

海底電信は大北電信會社及び大東電信會社の支店があり、前者は一八八八年上海香港間の海底線完成と共に支店を香港に置き、後者は一八七一年新嘉坡・西貢・香港間の海底線の竣工と共に支店を香港に置いた。之等會社の香港と他地方との海底線は香港と福州・厦門・西貢・馬尼刺・ラブアン・澳門・海防等及び香港島・ノースポイントと紅磡灣との間に連絡してゐる。

無線電信は歐州大戰當時必要を認め、先づ香港島東南角ダギリ岬附近に之を施設し、一九一五年七月十五日より航海中の船舶と通信を開始した。從來港内英艦テーマー號に在る無線電信は海軍又は政應用に使用せられ、又戰爭勃發後軍用無線電信をストーン・カツター島上に設けた。一九三七年中の有料無電の發信數は前年に比し著しく増加し、

二二六、四〇一通に達した。

電話及ラヂオ 電話は香港市街は支那日本電信會社が一九〇六年二十五年間の經營權を政府より取得し成立したが、後ち香港電話會社の經營に屬し、支那に對しては、最近香港・廣東間に通話が開始され、一九三七年三月二十日から香港・漢口間にも之が開通を見たのである。

ラヂオは香港政廳が商業用として上海・福州・厦門・汕頭・廣東・雲南府・海口等支那各地放送局・臺灣・佛印・タイ・比律賓・蘭印・英領北ボルネオ各地、更にマニラ經由で歐州・アメリカ及マラバール經由で、アウストララシア及び歐州に對し放送通信を爲し、一九三七年のラヂオ放送局の通信料は前年に比して著しく増加し九七五、九二三弗に達した。

運輸

鐵道 廣九鐵道は香港側は廣東側の八十九哩に對し僅に二十二哩に過ぎないが、一九〇六年起工以來中途小丘連亘し、工事比較的困難で、隧道五條中ベークン・ヒル隧道は延長一哩四分の一に亘り、其の他は百五十呎乃至九百二十呎に達し、的確の建設費を見積り得ず、最初の豫算額の二倍即ち一千二百萬弗を要し、支那側の工費一千五百萬弗に對し哩數に比し著しく多額である。

軌間は四呎八吋二分の一、軌條は長さ三十六呎、重量八十五封度である。

支線は粉嶺驛より東北に向ひ、大鵬灣に面する沙頭角に至る延長七哩四分の一の輕便線である。

一九三七年に於ける廣九線の營業成績は收入一、三三一、四六八弗で前年に比し若干多きも、純益は經費増加の爲に前年に比し若干減退し四三六、九三五弗に下り、運輸比率は六七・一八%から六五・四九%に低下し、疾走總哩數は前



年の三三四、六七四哩に對し、二九五、六七八哩に、總客數は前年の二、八二六、八六七人に對し二、七二一、五一八人に減退してゐる。改良事業としては一九三六年には發動機裝置車輛が「タイボベル」と名づくるスチーム裝置の高級展望車に改造せられ、一九三七年には又「アウロラ」(極光)と稱する立派な展望車が出來た。其の他多年の懸案であつた廣九線と九哩の間隔にある粵漢線との連絡が完成したことは廣東の部に述べた通りである。此連絡の爲に貨物運賃は四四、六九四弗から一六七、五五六弗に増加した。

道路 香港植民地の一九三七年に於ける道路の總延長は三七一哩で、内一七三哩は香港島に、一〇六哩は九龍に、九二哩は新界に在る。

其の構造別哩數を擧げれば別表の通りである。

アスファルト舗装のマカダム式道路	二九三哩
タールマカダム道路	一三
コンクリート道路	一七
洋灰混凝土の基礎に花崗石及コンクリートを舗装した道路	三
土路	三九

モーターバスも年々増加し、一九三七年現在香港島に八十八臺、大陸側に百十一臺あり、電車は平地電車と高地電車とある。平地電車は一八八二年より計畫工事に著手し、香港電車軌道會社の經營に係り、堅尼泥街から筲箕灣に至るヴィクトリア海面地先に沿ひ約十四哩半を運轉し、構造は複甲板裝置であり、一九三七年現在九十七臺ある。

高地電車は一八八八年の建設に係り、香港島歐洲人商業地とピークとの連絡をなすもので、ピーク電車會社の經營に係り、海拔百呎のセント・ジョン・ピークから一千三百餘呎のヴィクトリヤ・ギャップに至る約一哩のケーブルカー線を施設してゐる。

航路 香港は東亞に於ける海運の中心地であり、世界各國より極東に至る旅客及び貨物の定期航路は殆んど全部香港に集中する。

現在外國航路として主なものゝ歐洲航路十四線、太平洋航路十二線、濠洲航路四線、南アフリカ航路一線である。支那沿岸航路として主なものは太古洋行・怡和洋行・得忌利士等の英國系汽船會社、日本大阪商船會社・日本郵船會社其の他外國汽船會社及び支那汽船會社等の經營であるが、配船數に於ては英國系最も多く、一九三八年末現在配船數は一部日本・南洋航路等を包含すれば、太古洋行は十九隻、怡和洋行は二十隻、得忌利士汽船會社は四隻を占めてゐる。

珠江の航運

珠江内河航運は省港澳汽船會社と支那航業會社との共同經營である。

港内渡船の主なものゝ香港渡船會社の經營に係る香港九龍間連絡のものであるが、尙ほ香港油蔴地會社經營の貨物旅客運輸サービスがある。

航空 香港航空事業の發達は一九三六年以降であり、同年二月啓徳の西端に商業航空港が開設され、三月二十四日英國インペリアル・エア・ウェイズの倫敦、新嘉坡、濠洲間航空路との連絡線として香港・彼南間一週一回の定期郵便及び旅客輸送が英國海軍機のドラド號で開始された。



又一九三六年十一月五日には中國航空公司に依り香港・廣東・上海間定期航空郵便旅客輸送が開始され、一九三七年五月六日汎米航空會社は旅客輸送をマニラより香港に開設し、中國航空公司と連絡して、同年十二月一日之を桑港に延長した。同年六月二十九日歐亞航空公司は北京廣東間航空路を香港に連絡した。

事變後我が海軍の航行遮断に依り海上交通が絶たれたので、航空事業は頓に活躍し、殊に一九三七年末南京陥落後、長江の航行が杜絶して以來、香港より支那内地への航空路は最も多く利用せられ、歐亞航空公司は漢口・香港線を日發とし、又中國航空公司は香港・重慶線を一週三回往復したが、我が南支作戦開始以後は支那との連絡航空は全部停止された。

一九三八年には前記英國インペリアル・エア・ウェイズは盤谷に至る毎週二回の定期航空を實施し、盤谷で英本國・濠洲間幹線路と連絡し、エア・フランスは其の巴里河南線を香港に延長した。

香港航空港は船政司兼務の航空局長が之を管理し、其の事務所は啓德飛行場の西北角に在り、其の屋上に設備した全波長強力無線受信局は紅磡の送信局と連絡し、夜間著陸に利用する爲に、屋上に九杆ワット、光力百二十萬燭光の照明設備があり、航空警察署及び警備も配置されてゐる。

航空局は機體の耐航性能検査・操縦士・機關士及び地上勤務技術員の試験及び免許等の事務を司り、極東飛行學校を設け之を管理してゐる。

一九三八年の航空局長報告に依れば、同年度香港植民地の成績として擧げ得べきは民間航空の繼續發展及び啓德飛行場の取扱交通量の増加である。即ち發著乗客数は前年の三、六八五人が九、九六九人に激増し、同年啓德飛行場に於

ける發著飛行機数は一、二八二臺で、内支那飛行機数は九三三臺を占めてゐる。

同年政廳より附與された航空操縦士免狀五十二人、商業航空操縦士免狀二人あり、極東飛行學校は飛行機五臺を有し、全年の航空時間は千九百時間であり、香港義勇防備隊所屬航空士・英帝國空軍所屬後備航空士官及び航空免狀志願の練習生二十八名の訓練を實施し、尙ほ駐屯軍に對する協力飛行時間數百六十時間を占めた。同飛行學校（會社組織）の機關科生徒二十六人に對しては政廳から免狀を附與された。

港灣 香港港灣は香港島ヴィクトリア市と九龍の尖端との間に在る約十平方哩内（干潮時約七平方哩）の區域で、東は狹隘な鯉魚門水道（約四分の一哩）に依り外洋に通し、北方九龍半島に面する部を除き三面海に圍まれ、風波を防ぐに足り、水深は二十呎乃至六十呎ある天然の良港である。

港灣施設としては特に一九一五年頃から計畫的に浚渫工事を進捗し、一九二二年より一九二七年まで六ヶ年で海傍東街大埋立工事を完成し、其の面積は三百七十五エーカーに達した。

本港の施設中最も大いなるものは埠頭倉庫と造船所であるが（造船所は工業の部参照）、倉庫の主なものとは三社中九龍倉庫會社倉庫を首とし、堤岸延長二千呎、敷地一、二〇一、三五〇平方呎で、收容能力は約三十萬噸である。繫船埠頭は干潮時吃水三十二呎、長さ七百三十呎の汽船を同時十一隻碇繋せしめ得る。

太古洋行倉庫（ホルツワーク）の施設は第二位に在るも、主に青筒船積の貨物を收容し、其の構造中には九龍倉庫に劣らないものがあり、堤岸延長は千六百呎、敷地一〇八、〇〇〇平方呎で、收容能力は二萬五千噸である。香港側の倉庫收容能力は倉庫の約三萬六千噸を始めとし、總計約二十萬噸に達する。

埠頭倉庫



## 第二章 印度及びビルマ

### 第一節 印度 附セイロン島

印度は印度總督直轄の十一州及び商議委員直轄の四州を含む英領印度と、英國皇帝（印度皇帝）配下の土侯王國大小約六百餘の總てを一括したものを指して謂ふのである。

#### 一、沿革

古代印度の歴史は五千年の昔に遡ることが出来るが、普通之を次の七つの時代に區分することが出来る。

- (一) 太古時代及び
- (二) アリヤン民族侵入時代

印度の歴史は五千年前に遡ることが出来るが、この時代はチベット・ビルマ族、コラリヤ族、ドラヴィタ族の三つの先住民族があり、トラヴィタ族は恆河沿岸地方に居住し農業・商業に従事して各種の文化を有して居た。然し乍ら是等の先住民族はアリヤン族（紀元前二千年の頃中央アジアオクソス河畔に居住）の印度侵入によつて全く征服されたのである。オクソス河畔に居住して居たアリヤン族は、印度へと大移動を開始して先住民族を悉くスード

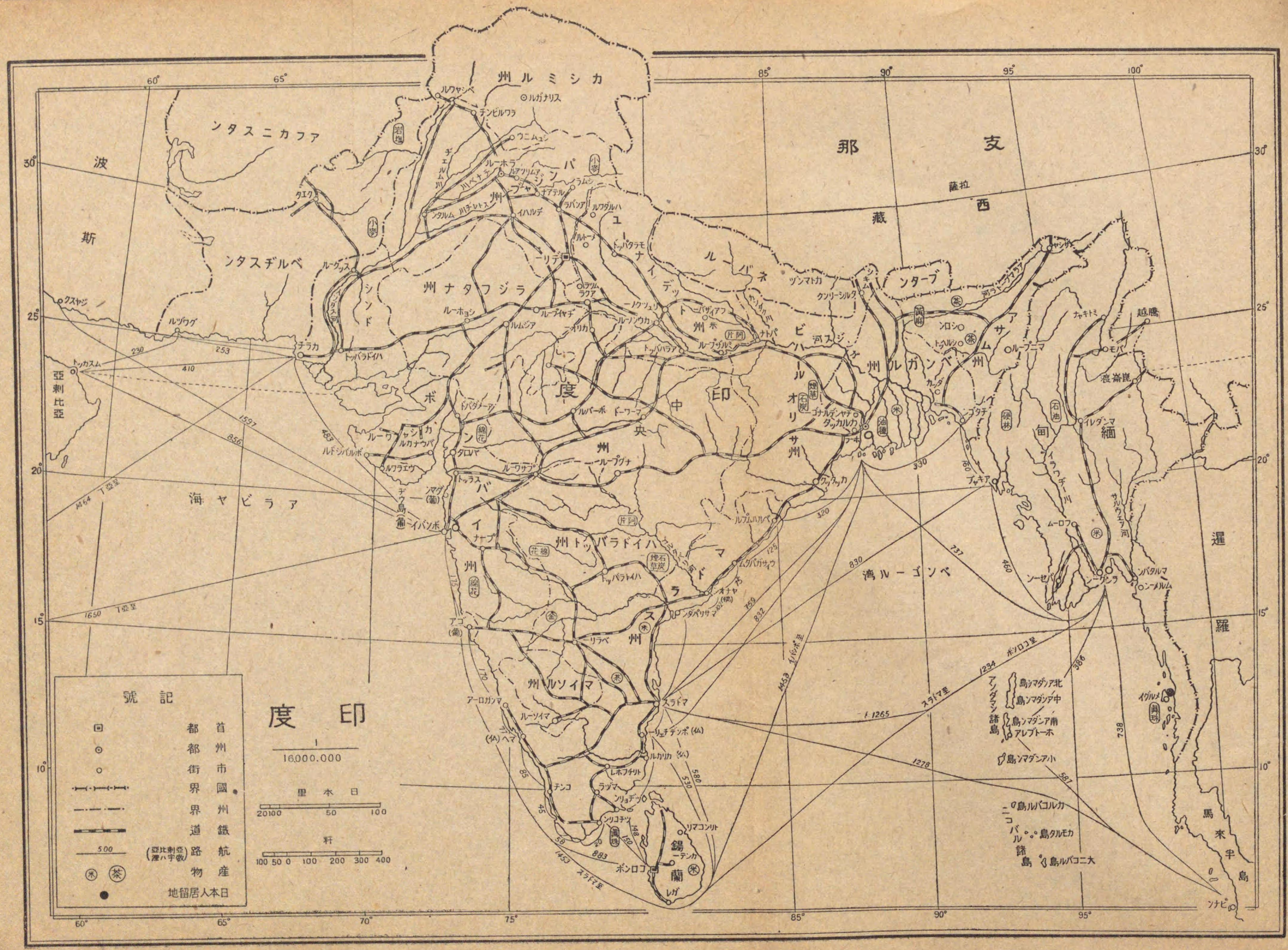




古代印度の歴史は五千年の昔に遡ることが出来るが、普通之を次の七つの時代に區分することが出来る。

(一) 太古時代及び (二) アリヤン民族侵入時代

印度の歴史は五千年前に遡ることが出来ると謂つたが、この時代はチベット・ビルマ族、コラリヤ族、ドラヴィタ族の三つの先住民族があり、トラヴィタ族は恆河沿岸地方に居住し農業・商業に従事して各種の文化を有して居た。然し乍ら是等の先住民族はアリヤン族（紀元前二千年の頃中央アジアオクソス河畔に居住）の印度侵入によつて全く征服されたのである。オクソス河畔に居住して居たアリヤン族は、印度へと大移動を開始して先住民族を悉くスード





ラ（戊陀羅又は首陀羅即ち奴隸）として自分達は是等を支配するものとし三階級に分けた。即ちブラーミン（婆羅門——僧侶）、クシヤトリヤ（刹帝利——武士）、ペイシヤ（吠者——商工業者）、スードラの四階級として先住民族は賤民とし、スードラの姓を興へたのである。四階級の中では僧侶が首位であつた。彼等僧侶は婆羅門教を創め、婆羅門は語學・星數學・醫學・論理學・哲學等に秀でて居つた爲めに、自然に彼等が首位を確守したが、地位の確立と共に彼等は專横を極めるに至つたのである。

(三) 佛教の勃興時代

婆羅門が專横を極め、ために階級間に不平烈しく常に紛争が絶へなかつた。この時に中部印度迦比羅城の王子悉達多太子（釋迦）は解説の道を見出し、人生苦救済のために立つたのである。これを佛教の上では涅槃と稱して居る。紀元前四八五年、釋迦は八十五歳にして歿するや、其の高弟大迦葉は五百の阿羅漢をマガダ國の都王舍城に集め佛説を試定したのである。此れ三藏結集即ち經・律・論の結集と謂ふのである。紀元前三八五年ヤシヤダの主催で七百の高僧はペイシヤリに第二の結集をなし、かくて佛教興隆となつたのである。

(四) 孔雀王朝時代

釋迦の當時印度には大小の國々があつたが、南方では摩揭防國が勢力をふるひ、世界王と自から稱して居つた。この時（紀元前三二七年）アレキサンダー大王の大軍が印度に侵入し、インダスの上流を横斷し、同地方をたちまちに占領したのである。このアレキサンダーの侵入を機會として、旃陀羅笈多是兵を起して紀元前三二六年に麻揭陀國を滅して孔雀王朝を創立したのである。アレキサンダー大王の死後種々の事件もあり、遂に孔雀王朝は全印度を統

アレキサンダー大王の侵入



一する大強國となり、文化も大いに高揚され、産業も開發され、又ギリシヤとの交通も大いに開け、印度の美術工藝もギリシヤの影響を受けて非常に發達したのである。旃陀羅笈多の孫阿育王は紀元前二七二年に即位したが、王は佛教を深く信仰し、全印度に佛教を布教せしめ、この時代は孔雀王朝の勢も全印度に及んだ時である。

(五) 回教徒の印度侵入時代

十世紀の頃回教徒はアフガニスタンにガズニ王國を建設し、その王マームード十一世紀の第一年に印度侵入を企て十數回に亙り印度に侵入、寺塔・佛像を破壊し去り、一二〇六年には奴隸王朝が起り、更に一三〇〇年にはトグラク朝立ち、この時チムールの大軍が都デリーに侵入したのである。一五二六年にはチムール六世の孫バベルはアフガニスタンから印度に侵入、回教徒と結んで印度人を征服し、デリーに都を置き莫臥兒帝國を築いたが、この王朝も一八五七年英國軍のために遂に滅亡したのである。

(六) 英國東印度會社時代

一八五七年莫臥兒帝國が滅亡して以來、英國は全印度の統治を強行するに至り、當時の英國朝野は自由貿易主義をかざして、自由貿易制こそは英國を繁榮に導き、又其の繁榮を恆久的なものとするであらうとの確信をもち、これが實行を計りつゝあつたのである。

印度の綿業

當時英國が把握して居た近代的産業の中心をなして居た綿業は最も優れたもので、世界の産業指導權は綿業であり、而も其の綿業發展の鍵は對外供給であり、之がためには當時の印度は英國の綿業製品に對する無限に擴大する消費市場の觀を呈して居つたのである。英國の指導者達は凡ゆる犠牲を拂つても印度市場を確保せんとしたのである。

而して遂に一六〇〇年東印度會社を創立し、一六〇一年國王の特許狀をもつて第一回の航海を行ひ、又一六二二年にはペルシヤと同盟して、ポルトガル人をオルムズから驅逐し、同三二年には印度藩王と條約を結び、印度に金屬製品・礦物等を輸出し、印度からはキャラコ・生絲・茶等印度の特産物を輸入したのである。續いて一七五七年にはブラシーで印度軍と戦ひ之を大敗せしめたが、此の時の戦はロバート・クライブの指揮により大勝し、戦後クライブは東印度會社からベンガル總督に任命された。一七六四年には會社の軍隊がベンガル、ベハール、オリツサ等三州の收稅權を握るに至り、會社の勢力は遂に中部印度にまで及んだのである。その後マドラス、ベンガル二地方の監督權の問題で、會社側と英本國政府との間に紛争が惹起され、一七七三年遂に會社組織は一大改革を餘儀なくされ、政府任命の總督の監督下に置かれるに至つた。初代の總督はヘースティングで彼は頗る活躍し、又第四代總督ウエルズリーは印度各地に侵入し全印度を征服したのである。

一八五八年印度は會社の手から政府の手に移り内閣に印度事務大臣を置き、一八七七年に印度帝國が成立し、ヴィクトリア女王は印度皇帝を兼ね、一八八六年にビルマを、同八七年にはペルチスタンを併合したのである。

(七) 英領印度時代及び其の後

ヴィクトリア女王は印度諸王侯の權利の保護、人民に對しては人種・宗教の如何を問はず、自由權を與へしめ、又公職に就くことを許可す等を宣言したのであるが、事實はこれに反し英國の統治は印度人をして満足と自由との何れをも與へしめなかつたのである。一八八五年ボンベイに第一回の國民大會が開催され、これが今日に至る印度國民運動の母體となり、遂に英國の憂患となつたのである。十九世紀——二十世紀初頭にアフガニスタンから南下印度に迫

印度總督の創設

印度の國民運動



最近の展望

らんとしたロシアの勢力を怖れた英國は、日英同盟を結びロシアの勢力を防ぎ、幸ひ日露戦争により、ロシアの印度侵入の野望は中絶したが、日本の勝利は印度國民運動に一層の拍車をかけるに至つたのである。

一九一九年英國は印度統治法を成立化したのであるが、この中には討議組織によるところの國民議會が制定されたが、同案は代議員は討議は自由に出來るが、討議による決定を實行する權限は與へられて居らなかつたのである。英國政府は歐洲大戰にあたり、印度兵の出兵（一二〇萬）を行ひ、兵力の補充を計ると共に戰費三十億の援助を求め、この代償として印度自治の内約を與へたのであるが、印度人側は印度人自身の完全な自治を要求し、政府のこの代償に對し猛烈な反對と幾多の紛擾を重ねたのである。

反英國民運

本國政府は更に一九二七年サー・ジョン・サイモンを首席とする印度調査委員會を任命して印度に責任政府を樹立する根本方針の是非、又地方立法議會制度策等に關しての調査を計つたが、同計畫は印度人民を侮辱する調査であるとして、印度人側の猛烈な反對に遇ひ、遂にサイモン委員會を相手とせずと云ふ強硬決議案の提出とまでなつた。然しサイモン調査委員會は印度側の此の反對を押しつけて調査報告案を製作し、三度に亘つてロンドンで英印會議を開催したのであるが、最初から之に反對してゐた印度國民會議派は積極的反英行動を開始して、在印英人官吏の政務遂行阻止の行動に出て、英國國の羈絆を脱する印度の完全獨立をスローガンとし、一切の權限をガンヂイー翁に與へて抗英運動を開始した。英國政府は抗英運動に彈壓を加へ、第一次英印會議までに三萬人近くの反英運動者を投獄した。斯くして英印會議は印度人側の反對にも拘はらず、第一、二次と開催され、印度人側の希望は遂げられず、一九三二年の第三次會議により始めて、印度新憲法の骨子が事實上取極められたに過ぎなかつた。新憲法なるものはビルマを印度

印度新憲法

左翼右翼の對立

から分離すること、英領印度各州と土侯國とによる印度聯邦の結成、英領印度に自治權を與ふること等であり、これは一九三五年英國議會を通過し、一九三七年四月一日より實行に移されたのである。新憲法の實施その他について詳細に説明する必要があるが、紙數の都合上省略するも、一九三七年二月早くも國民會議派は同案排斥運動を實行したのである。然し乍らこの運動は國民會議派内の左翼・右翼の對立を激化するのみとなり、遂に一九三八年十二月會議派右翼の長老ラジエンド・ラブラサドを總裁としてこの運動を弱力なものとし、英國の對印統治を容易ならしむるに至つたのである。此の好英的空氣はボース、ネール等左翼急進分子が會議派の指導權を握るまでは持續されるものに見られるのである。

## 二、地誌

印度は南部亞細亞の中央を占め北はヒマラヤ山脈によつて支那の新疆、西藏及ネパール、ブータンの二國と接して居り、東は支那の雲南省、泰國等に、西はアフガニスタン、ペルシヤの兩國に各々接して居る。

地勢 ヒマラヤ山岳部、ヒンドスタン平原部、デガン半島の三地理的單位に分けられて居り、ヒマラヤ山岳部にはエヴェレスト（八八七〇米）カンチャンジャンガ（八五八五米）等の高峯があり、ガンジス河もヒマラヤに其の源を發して居る。

印度帝國の總面積は約百八十萬萬方哩で、このうち英國直轄各州の面積は百三十一萬方哩、屬領は四十九萬方哩（ビルマの三萬方哩を除く）である。



人口 一九三一年調査により總人口は三億五千萬人で、このうち男は約一億八千萬人、女は一億七千萬人、一九二一年調査に比して其の人口増加率は一〇・六%である。(別表参照)

面積と人口

行政區畫別面積人口(一九三一年調査)

州名	面積(方哩)	人口(人)	州名	面積(方哩)	人口(人)
アジメールナルワラ	二、七二一	五、〇、二二二	バルチスタン	一、四、六六六	八、六、六七
アングマン及ニコラス島	三、一四三	二九、四三三	ベンガル	八二、九五五	五二、〇、七三六
アッサム	六七、三三四	九、三、四七七	ビハール、オリッサ	一一、七三三	四三、三、九六三
ボンベイ	一五、〇七三	三六、三、九七九	ハイドラバッド	八二、六六八	一四、四、三六八
中央諸州及ベラール	一三三、〇九五	一七、九、〇七七	カシミール	八四、五六六	三、六、四六二
クナール	一、五九三	一、三、三三七	西方印度委任地	三三、四四三	三、九、九、二五〇
デラリス	五七三	六、六、二四六	スライキム	二、八二八	一、〇、九、八〇八
マドラス	一四三、八七〇	四七、一、九、六〇三	ミソル	二九、八二六	六、五、七、三〇三
北西國境諸州	三六、三五六	四、六、四、三六四	コイチン州	一、四八〇	一、〇、五、〇、〇八一
パンジャブ	一〇五、〇三〇	二四、〇、八、六三九	ガルガル州	二六、三六七	三、五、三、三、〇八一
聯合州	一三、一九一	四、六、四、八三三	トランバンコト	七、六五五	五、〇、九、五、九三三
以上英領インド各州計	一、〇、八、四、九四四	二七、四、四、〇九六	ラシアン	二九、〇五九	一一、三、五、七、三三
バングラダ	八、一六四	二、四、四、〇〇七	以上インド諸國計	四九、〇、三三三	三、三、三、三、五七七
中央インド委任地	五、五九七	六、六、三、七九〇	總計	一、八、八、六、七九	三、五、一、八、三、七、七八

住民 印度の原住民族はアフリカ黒人と蒙古人種との混血種であるところのドラヴィダ族であつたが、後ち西北から侵入したヒンズー族のために、デッカ高原方面に驅逐され此處に現存して居る。現在印度で最も多い種族はドラヴィダ族(約六萬人)ヒンズー族(約二億人)であるが、印度は四十五種の人種を算へることが出来る。

都市 人口十萬以上のものが三十九あるが、人口の都市集中の近代的現象は餘り顯著ではない。印度の首府は德里で總督府は此處に置かれてある。主なる都市を列擧する。(人口單位萬人)

都市人口	都市名	人口(萬人)	都市名	人口(萬人)
カルカッタ	コロンポア	二四・〇	ボンベイ	一、二〇・〇
ポナ	ツリチノポリ	一四・〇	アグラ	二二・〇
メーラー	ハイデラバード	五〇・〇	インドール	一三・〇
德里	ベナレス	二一・〇	ラホール	四三・〇
アルラハバッド	ダッカ	一三・〇	マドラス	一八・〇
ペシヤワール	アーメダバット	三一・四	アジメル	一三・〇
バンガロア	バトナ	一六・〇	ルクノウ	二八・〇
マンダレ	ラウルピンデイ	一三・〇	シヨラプル	一四・〇
バロタ	カラナ	二二・〇	マルラドバッド	一一・〇

右の外、人口三萬以上の都市は四十三を數へる。  
宗教 印度の宗教は極めて雑多であり、主なるものは十種近くあり、此の中でも最も多いのは全人口の七〇%を占めるヒンズー教である。

(イ) ヒンズー教 バラモン教の變種で萬有神教即ち萬物は神なりと信するものであり、現在では風俗・習慣・禮儀・作法・道徳・法律の一切に於て、其の信者の生活を支配して居る。

(ロ) マホメット教 外來宗教として發達し、現在では印度總人口の二%を占むる信者を有して居る。



(ハ) 佛教 印度に起源を發した佛教も今日では殆んど無力に等しく、其の信者も實に尠く僅かに千餘百萬人である。

この外の宗教としてはシーク教・ジアイナ教・拜火教・キリスト教其の他である。

### 三、政治

印度の政治機關は英本國に關するものと、印度に於けるものとの二つに分ける事が出来る。英本國に關するものは印度事務大臣によりて主宰され、印度に於けるものは英國皇帝親任の印度大守兼總督によつて統轄されて居る。

英本國の政務機關 英本國の印度政務は、印度事務大臣及び此が補佐機關として設置されたる顧問團によりて行はれ、内外に於ける其の歳入歳出の決定權を持つて居る外、本國にあつて印度の政務執行を監督するものである。

印度の政務機關 民政・軍政・兩方面に於て印度の最高機關は總督であり、總督の下に之を補佐する行政參事會が設置され、内閣を組織して印度政府を構成して居るのである。

總督は皇帝の親任によるもので大守を兼務して居り、其の職能は印度に於ける皇帝の唯一の代表者たること、英國政府の代表者たること及び印度政府の首腦者たることとなつて居る。

總督は通常任期五ヶ年で現總督は三十三代目のリンリスゴウ侯である。

行政 行政權は總督にあり、この下に行政參事會が内閣として政務を執り、參事會は七名の會員(即ち閣員)を有して居り、會員は總て皇帝の親任である。參事會員は其の職能に於て各省の長官である。現在の中央政廳は國防・交

行政

通・内務・教育・保健土地・商業労働・外務政務・司法・財政の八省であり、外務の長官は總督兼任、國防省長官は英國の印度駐屯軍々司令官によつて兼務されて居る。

立法 機關は總督及び上下兩院による印度議會にあり、上院は議員數六〇名(官選二七、民選三三)、下院は一四五名(四〇名官選、一〇五名民選)である。印度議會は一定の制限の下に英領印度内の全人民及び王侯領内の凡ての英國臣民並に全世界に居住する英國臣民たる印度人に關する法律を制定するのである。議會は豫算に對しては其の協賛權を持つが、政府は議會に對して責任を持たぬものとされて居る。

司法 マドラス、ボムベイ、ベンガル、アグラ、ビハール、バンジャブ、ペラール、中央諸州の八州に高等裁判所がある。此等は何れも本國の樞密院に對して上告することが出来るのである。この外、地方によつて最高裁判所・上級裁判所・裁判委員等が置かれ、この下に更に刑事及び治安・稅務の三裁判所が置かれて居る。

地方行政 印度帝國の行政は一九三七年四月一日から實施された新聯邦制確立の第一段階である知事州の自治制により直轄領と王侯領との二つに分られて居る。

(イ) 直轄領 即ち英領印度と稱されるものであつて新條令により十七行政區に區分されて居る。マドラス、ボムベイ、ベンガル・聯合州、バンジャブ、ビハール、中央諸州及ペラール、アッサム、北西國境州、オリッサ、シンド(以上十一州は知事が司る)英領バルチンタン、デリー、アジメール、メルワラ、クルীগ、アングマン、ニユバル島、パンス、ピプロダの六地方は英領地域とされ政務長官が置かれている。

十一知事州は責任自治制が採用され、州の行政立法は皇帝代理としての此等知事によつて執行され、知事は内閣を



組織（大臣は州議會議員より選出される）して居る。州議會はマドラス、ボムベイ、ベンガル、聯合州、ビハール、アッサムの六州のみ二院制、他は一院制である。州は其の行政上郡に區分され、郡には民政官を置き、郡の下に區（執行官を置く）があり、區の執行官は長官の監督により行政上區の全權をもつて居る。現在二二一區あり。

（ロ）王侯領 印度諸國と謂はれるものであり、英國の保護の下に各々の國王によりて統治されて居る。印度中央政府は各王國の郵政・關稅・通貨等の問題外は一切王の自由にまかせ何等の干渉を加へて居らず、現在王國數は大小六百餘である。

英國の對印教育方針

教育、思想、文化 印度人の教育程度は極めて低く、總人口のうち文字を解するものは僅かに一〇%にしか過ぎないのである。英國政府の印度に對する教育方針は非常に歪められて居る。中等・高等教育にあつては、文化方面に力を注ぎ、それも印度の文化ではなく、歐米文化の移植に主力を注ぐ有様であり、盲目的な歐米崇拜思想の植付けに努力して居る。

初等教育は義務制度ではないが、漸次義務制度採用となりつゝある。修業年限は六歳より十歳までの四ケ年間である。

中等教育は殆んど大學志望者のための教育機關に過ぎない。高等教育は大學と専門學校とに分けられて居り、大學は十八校あり殆んど英國の大學制を模倣して居り、法・醫・文・理等の各學部があり、大學の附屬として多くの専門學校がある。

印度思想の實行性はガンヂー翁により代表されて居る。ガンヂー翁は非暴力主義を本質とし、之を唯一の武器として居る。

四、經濟

財政 印度の財政は中央と州とに區別されて居り、中央政府は關稅・所得稅・鹽稅・阿片稅・鐵道收益等を其の財源とし、州は土地稅・消費稅・印紙稅を財源として居る。

中央財政

（イ）中央財政 世界大戰前までは健全財政を誇つて居つた印度も、戰爭參加より歳出の増加を來たし、この負擔過重は未だに印度財政の根本的立直りには至つて居らぬのである。

最近の歳出入は別表の通りであるが、政府の主要財源は關稅であつて、歳入總額の四%、次ぎは所得稅で、これは二千ルピー以上の所得の總てに對して課稅されて居る。鹽稅は非常に高稅であつて、ガンヂー翁は此の引下げ運動を印度の民族運動の一つとして永らくに互つて續けて居る。租稅外收入としては鐵道收益のみである。

最近歳出入（單位千ポンド）

年 度	入		出	
	イ ン ド 内	英 國 内	イ ン ド 内	英 國 内
一九三〇	九五、五七九	三、九三五	七〇、二一一	二九、一〇二
一九三一	九〇、六七五	二、七七一	七三、一五一	二八、九八四
一九三二	八九、七一六	一、五一九	七一、五二九	二八、五一六
一九三三	九三、七五一	一、〇四七	六六、三四三	二七、二九一
	計		計	
	九〇、五一四		九九、三一一	
	九三、四四六		一〇二、七三五	
	九一、二三五		一〇〇、〇四五	
	九四、七九八		九三、六三四	



一九三三	一九三四	一九三五	一九三六	一九三七	一九三八
八八、〇二二	九〇、九七八	九〇、九七八	九〇、九七八	九〇、九七八	九〇、九七八
二、二五八	二、八四八	二、八四八	二、八四八	二、八四八	二、八四八
九〇、二八〇	九三、八二六	九一、五〇八	八九、二三七	八九、五六四	八九、五六四
六三、七五〇	六七、四六一	六七、四六一	六七、四六一	六七、四六一	六七、四六一
二六、五三〇	二六、〇九五	二六、〇九五	二六、〇九五	二六、〇九五	二六、〇九五
九〇、二八〇	九三、五五六	九一、五〇八	九〇、六七七	八九、五一〇	八九、五一〇

歳出は國防費が年歳出額の四%、國債費・行政費等が之に次ぎ、國債行政費は殆んど英國に對する(英人官吏俸給等)支拂ひであつて、之が英國へ印度から流入する主要な財源とさへなつて居る。(歳入歳出明細は次表参照)

中央政府項目別歳出入豫算 (一九三八年—一九三九年度)

項目別	歳入		歳出	
	豫算	額	豫算	額
關稅	四三、八一〇	四三、八一〇	一、二二〇	一、二二〇
中央消費稅	七、七六〇	七、七六〇	四三、〇〇八	四三、〇〇八
會社稅	一、五五〇	一、五五〇	七、五〇〇	七、五〇〇
會社稅以外ノ所得稅	一二、四二二	一二、四二二	七一、八〇〇	七一、八〇〇
鹽業稅	八、三五〇	八、三五〇	一、〇八二	一、〇八二
阿片業稅	四四、九二	四四、九二	二六、七九	二六、七九
地稅	二〇、八五	二〇、八五	五、二八	五、二八
州消費稅	二六、三九	二六、三九	七、一八	七、一八

項目別	歳入		歳出	
	豫算	額	豫算	額
印紙收入	三、七八〇	三、七八〇	一、八九四	一、八九四
森林收入	一、七六六	一、七六六	二、三三二	二、三三二
登記收入	八六	八六	九	九
自動車稅條令收入	二、九一	二、九一	二、〇〇九	二、〇〇九
王侯國上納稅	六二、六五	六二、六五	三〇、〇一七	三〇、〇一七
鐵道純收入	三二、五七四	三二、五七四	一〇、七八	一〇、七八
灌溉純收入	一、〇二	一、〇二	八〇、四八	八〇、四八
郵便、電話收入	七四、六一	七四、六一	一四、六二二	一四、六二二
利子收入	六六、三三	六六、三三	一一、三一八	一一、三一八
行政收入	九九、九九	九九、九九	三七、四三	三七、四三
通貨、造幣局收入	六六、九四	六六、九四	三、一三六	三、一三六
公共事業收入	三〇、九〇	三〇、九〇	三、六三三	三、六三三
雜收	九二、二一	九二、二一	五〇、七七六	五〇、七七六
國防收入	五、五九六	五、五九六	三、〇四八	三、〇四八
臨時項目	三、七五四	三、七五四	一、八八	一、八八
合計	一、二二、二七二	一、二二、二七二	一、二二、一八四	一、二二、一八四

州財政

(ロ) 州財政 州財政の主要財源は土地稅を第一とし、此によつて州收入の三分の一を占めて居る。消費稅・印紙稅等も主要なものとして居るが、土地稅に依存するところに印度民衆の課稅負擔の原因がある。歳出の主要なものは官吏俸給で、全體の六〇%以上を占めて居る。これは州政府の英人高級官吏に支拂ふべきものであつて、印度民衆



汗と血の結晶は彼等を統治する官吏の俸給となり、そしてこれが英本國の収入の重要な一部として流入するのである。

### 五、軍 備

印度軍備の重要部分は、英本國政府に屬する陸・海・空軍によつて占められ、印度政府は之に對して年々多額の獻金を行つてゐる。

**陸軍** 印度總督統率の下に航空隊・正規兵・土民軍・補助軍及び帝國勤務隊（土人より公募）があり、補助軍は英國民衆の義勇兵のみより成り、歩兵は六十四日、其の他は八十日の訓練を経て正規軍の第二線に編入せられる。又歩兵は英國正規兵一箇大隊に土民軍三箇大隊の割で組織し、騎兵・砲兵・戰車隊・航空隊は英兵のみの組織である。一九三九年の常備兵數（土民軍を含む）約二十一萬中、英國印度守備隊は約六萬である。

**海軍** 本國より派遣の東印度艦隊の外に、印度海軍を有し、又ボンベイには海軍小工廠を、ツリコマリ（セイロン島）には海軍工廠があり、海軍兵力は左の通りである。

- 東印度艦隊 巡洋艦 五隻 スループ 一隻
- 印度海軍 母艦 一隻 測量艦 一隻 護送艦 五隻 曳的艦 一隻 哨戒艇 十一隻
- 空軍 本國より派遣せるものゝ外に、印度空軍一箇中隊がある。

### 六、産 業

印度は全人口の七〇%までが農民であり、従つて印度は支那と共に世界有数の農業國と云はれるのである。然し最近は印度の工業化が印度人の手によつて著々と進められて來つゝあるが、印度を近代的な資本主義的な産業國へと發達させることは、英國の印度統治の方針と全く相反するものとし、英本國としては種々な方法をもつて印度の工業化を防がんとして居るのである。

印度農業の特質

**農業** 印度人口の七〇%は農牧業（牧業二〇%）に従事して居り、然も全人口の九〇%近くまでは農村に居住して、家内工業・商業・其他に従事して居る。斯様に農物業者が多いにも係はらず、地主階級は全體の僅か三%しか居らず、他の六七%は貧農者であり、三%の地主は一億數十萬エーカーの耕地の六〇%近くを占有して居る。僅少の地主によつて土地を占有されて居ると云ふことは、印度の農業の封建的なことを如實に示すものとして注目される所である。印度農業の特質は人口灌漑が極めて發達して居るために、雨量が少くないにも係はらず、容易に耕作を行ふことが出来るのである。現在人工灌漑を受けて居る耕地は、約四千萬エーカーに達して居る。

#### 主要農産統計（一九三六年—一九三七年度）

種 別	作付面積	收 穫	種 別	作付面積	收 穫
米	八四、四二〇、〇〇〇 <small>(エーカー)</small>	三三、一九七、〇〇〇 <small>(トン)</small>	甘 蔗	四、四三五、〇〇〇 <small>(エーカー)</small>	六、七二六、〇〇〇 <small>(トン)</small>
小 麥	三三、二三七、〇〇〇	九、八一八、〇〇〇	茶	八三四、三〇〇 <small>(エーカー)</small>	三、九五一、一八〇、四〇〇



胡麻	五、五七〇、〇〇〇	四八四、〇〇〇			
茶種、芥子	五、八一八、〇〇〇	九七六、〇〇〇	ゴ	二二八、二〇〇	六〇、〇六三、〇〇〇
亞麻	三、五九四、〇〇〇	四一八、〇〇〇	コ		
黃麻	二、八八六、〇〇〇	九、六一一、〇〇〇	落	七、二七九、〇〇〇	二、八〇八、〇〇〇
棉花	二五、一四八、〇〇〇	六、二六一、〇〇〇	甘蒜麻子	一、四〇五、〇〇〇	一二八、〇〇〇

米は八千餘萬エーカーの作付年三回の收穫により約三千萬噸の收量であるが、此等は殆んど國民の常食用とされて居る。

棉花は世界第二位の生産國であつて、年額約六百萬噸、黄麻は印度に於ける重要輸出農作物であり、七百萬噸の年産額である。

原始的産業

**畜産、林業、水産業** 印度の農業は原始的農業で、耕作・運搬等に家畜を使用するため、牛・馬の飼育数は頗る多く、又ヒンズー教徒及マホメット教徒は牛を尊敬し、之を食用に供せず専ら役牛として飼育して居る。食用家畜としては羊・山羊等をあて、之亦を頗る豊富に飼育されて居る。

林業はチーク林・ヒマラヤ杉・菩提樹・紫檀・黒檀等が重要生産材であり、木材の主産地はヒマラヤ山地の如き高温多湿な地方である。

水産業は全く振はず、此の事業に従事して居るものは人口の約一〇%にしか過ぎない。

鑛業 印度の鑛物資源が頗る豊富であることは、種々な點から見て誤りのない所とされて居るが、其の開発は全く

微々たるものであり、其の生産は極めて少くないのである。石炭・マンガン・金・鉛等が其の主要鑛産物であり、之の開発は今後にかゝつて居るが、石炭の如きは自國の使用量にも満たず、不足量は他國から輸入して居る状態にある。

**工業** 農業國である印度は古くから家庭工業國でもあつたが、英領となつてからは英國の印度統治方針により、印度の近代的工業化は極力抑壓されて來たのであるが、纖維工業・金屬製造工業等は素晴らしき躍進振りを示し、綿業の如きは世界の五大生産國の一つとなつたのである。工業人口は一〇%を占めるのみであるが、このうち纖維工業に従事するもの約四分の一以上を占めて居り、如何に印度が之に重きを置いて居るかが判然とする。印度の紡績工業の發展は日本綿業に打撃を與へることが甚だしく、これがため日印會商が屢々開催されて居るのである。印度の紡績工業は印度を最大市場とするマンチエスター(英國)紡績資本が力となつて居るので、日本としてもこれに對抗するには非常な困難と努力とが必要である。

印度の紡績工業地はボムベイ、マドラス等であり、現在印度に於ける紡績錘数は(工場數三四四)約九百萬、機數は十九萬臺、而して其の生産高は一九三七年度に於て綿絲約十億五千四百萬封度、綿布七億八千二百萬封度である。

七、貿易

印度の外國貿易は概して良好で出超を續けて居り、最近の統計によれば次表の如き額を示して居る。

日印會商



日印貿易 (單位ルピー)

年 度	對 日 輸 入	對 日 輸 出
一九三六	二一四、一八〇、七三四	二七一、六五九、七九二
一九三七	二三〇、三〇三、二二五	二五〇、二〇二、六九八
一九三八	一五五、七七二、〇一七	一四五、三九九、三九四

最近の印度貿易 (單位ルピー)

年 度	輸 入		輸 出	
	商 品	正 貨	商 品	正 貨
一九三三—三四	一、一七三、〇四五、四三三	一九、六五五、二二五	一、五一一、七五五、一〇九	六五五、六六三、九八
一九三四—三五	一、三三三、八五五、〇六六	五二、九七七、一六五	一、五五四、九七七、六四四	六三三、〇四六、一三九
一九三五—三六	一、三六七、六六六、九四四	七四、四八八、五六九	一、六四三、九六七、九四四	四五六、六八八、一四七
一九三六—三七	一、二七三、二二三、三三三	一五五、〇八九、九九四	二、〇三四、八九八、八四四	七〇一、〇四〇、三三四
一九三七—三八	一、七三三、三七七、九九九	四七、二四四、七六六	一、八九七、六〇九、一六二	一九七、六七〇、二五七

日印貿易

印度の主要輸入品は綿製品であつて之が壓倒的數量に上つて居り、之の綿製品は全く日本品であるが、これがため遂に日印會商を開かざるを得なくなつたのである。主要輸出入品は前表の如くであるが、此處で日印貿易について説明を加へて置く。印度の輸出品は棉花・黄麻・黄麻製品が最も多く、これに次いで茶・米・種子類等であり、輸出品

の總てが農産品である。

**日印會商** 日本と印度との貿易が極めて密接であることは既に述べた通りであるが、密接であるだけに常に通商上の問題が絶へず紛争を惹起して居るのである。

日本の貿易上に印度が占める地位は頗る重要であり、圓ブロック内及び米國に次いで第三位を占めて居る。

日本主要國別貿易 (昭和十三年、單位千圓)

輸 出	輸 入
(内譯)圓ブロック 一、一六五、五四〇	二、六六三、四三七
米 國 四二五、一二三	五九四、一五一
印 度 二〇四、三四二	九一五、三五四
	一八〇、四一六

逆に印度の立場から見ると、日本が重要な市場であつて英帝國を除けば第二位にある。印度の輸出貿易(一九三八年)十六億二千七百七十三萬七千ルピーのうち、日本は一億四千五百七十七萬六千ルピーを占めて居る。

日印貿易の圓滑な發展を阻害するものは、日印の通商關係が極めて密接であるを同時に、印度が英國の最大の市場であり、英國は印度の市場權を掌握するために、極力印度産業の必然的發展を阻止して居り、従つて英國の産業に優先的利益を與へるためには、他國と印度の通商に對し差別的待遇を與へるのである。之の場合最も打撃を受けるのは、英國に次ぐ輸出をなす日本である。先きに印度の紡績等の背後の力は、ランカシャー紡績資本であると述べたが、印度綿業の發展はランカシャーに打撃を與ふるものであるが、それかと云つて印度綿業の發展を抑壓することは



印度統治上不可能に近いことである。此のランカシャーの受ける打撃を日本に轉嫁し、日本の犠牲によつてランカシャーの蒙る打撃を回避せんとし、結局日本綿製品に對する差別待遇となり、日印間の紛争となつたのである。

第二次日印會商

一九三七年四月に締結された（一九四〇年三月末日まで有効）第二次日印通商協定と云ふのは、日本は毎年百萬俵の棉花を印度から輸入し、之れに對し、印度は二億八千三百萬碼の綿布を日本から輸入すること、假りに棉花百萬俵を輸入するときは、綿布は三億五千八百萬碼まで増加出来るのである。この取極めにより日印間の貿易は順調に進んで居たが、昭和十四年三月英印新通商協定が締結されてから再び日印通商は暗轉し、遂に第三次日印會商となり、既に日本側代表は現地で交渉中であることは新聞の報ずる通りである。

第三次日印會商

第三次會商は目下の所困難な問題が多いのである。即ち英印新協定は印度紡績業者にとつて頗る不満とする所であるので、英國側はこの不満緩和策として、日本の犠牲を求めんとして第三次會商を開催したのであるから、日本が苦境に立ちつゝあるのは當然のこととされるのである。

### 八、交通及び通信

**道路** 印度の道路はカルカッタ—マドラス間、マドラス—ボムベイ間、ボムベイ—デリー間、カイバル峠—カルカッタ間の四本が幹線道路とされ、總延長五千餘哩、英領印度の鋪設道路は約七萬哩に達し、道路は發達して居る。

**鐵道** 鐵道は英領及び諸領のものをも含めて延長四萬五千餘哩であるが、軌道の規格は種々なものがあつて、標準

の五呎六吋のものは僅かに二千餘哩である。鐵道網はガンヂス河流域の生産地帯に最も發達し、又ボムベイ、マドラス等の主要港を中心とする鐵道も相當に發達して居る。

**海運** 印度の二大港はカルカッタ、ボムベイであつて、貿易港としては世界有數のものである。

**通信** 電話、電燈事業は逓信省の管理により、カルカッタ、ボムベイ、其他主要都市には政府の許可による私設會社が事業を經營して居り、電信も亦發達し電信線十一萬哩に達して居る。

## セイロン島

### 一、沿革

セイロン島最初の住民はヴェダス人であつて彼等は現在も生存して居る。次いでヴィジャヤ人がセイロン島を占據して此處にシンハリズ王朝を樹立したのである。（紀元前五四三年）ヴィジャヤ人はヒンズー族の一種であつて、文化も進んで居り、農業技術に於ても頗る進歩して居り、先住民族をして大いに啓發する所があつた。紀元前三〇八年に印度から佛教が傳來し、非常な勢ひをもつて、セイロン島全部に普及し、之が今日でも尙多數の信者を有するセイロン島の強力な宗教となつたのである。

シンハリズ王朝は外敵の侵入を屢々受けたが、依然として持續して居つたが、一五〇五年にポルトガル人アルメーダが同島に漂着したが、之が端緒となつて、ポルトガルはセイロン島に商業及び宗教の發展に努力し、かなりの勢

シンハリズ王朝



力を植付けるに至つた。然し乍ら、一六〇二年にオランダ提督スルベルグがセイロン島に上陸し、ポルトガルの勢力を駆逐して、オランダがポルトガルに代るに至つた。オランダはセイロンの商業發展に力を入れて、かなりの善政を施し、自國の勢力擴大に懸念の努力を拂つたが、英本國とオランダとの開戦となり、遂に一七八二年に至り英國の東印度會社は艦隊によりて、同島のオランダ勢力を驅逐したのである。

## 英國の占領

英國は十四年後の一七九六年に遂にセイロン島を完全に自領のものとし、次いで一八〇三年には英領として承認されたのである。

一八一五年に至りて、シンハリズ王朝は滅ぼされたが、其後セイロン島民は英國の植民地政策に反抗して一八一七年・一八四三年・一八四八年の三回に互つて叛亂したが、結局英國の直轄植民地として今日に至つて居る。

## 二、地誌

セイロン島は印度半島の東南海上にある卵形の一小島であり、印度とはポーク海峡とマナール灣とによつて隔てられて居る。

セイロン島の形狀は南に低くして北に狭く、海岸線の發達は全般に悪く、港灣の如きも人工的に改良されて居る状態、コロンプの如きも人工的改良によつて今日の如き良港となつて居るのである。

セイロン島の中央南部は山岳部を成して居り、北部は平野をなし、山岳としてはピヅルタラガラ山が海拔二千五百餘米突で最高であり、河川は中央山地から放射狀に流れて居り、マハウエリ・ガンガは延長三五〇餘料である。

## 季節風

氣候 印度に接近して居るために殆んど印度と同程度であるが、此處にはセイロン獨特の季節風の影響がある。即ち西南の季節風は五月上旬から中旬にかけて同島の西海岸を襲ひ、之が十月頃まで引續き、十月から十一月下旬までは東北の季節風が東北岸を猛襲する。季節風の襲來する地方は殊に雨量が多く、同島の首府コロンプでは二千餘耗の降雨量がある。

面積人口 セイロン島の面積は二五、三三二方哩にして、其の人口は一九三二年の調査によれば五三〇萬人餘であつて、一方哩の人口密度は二〇八人である。

都市人口 總人口の一三二%を占め、首府はコロンプ(二八萬人)であり、ジャフナ(四萬六千人)ガツレ(三萬八千人)カンデイ(三萬七千人)等が其の主要都市である。

住民 セイロン島の住民は原住民であるヴェダス人を始めとして、幾多の民族によつて構成されて居るが、最も多數を占めるものは、シンハリズ人で總人口の約四分の三を占めて居り、之についてはタミール人が多く、印度系・セイロン系等を合して約百拾萬人に達して居る。

## 在留邦人

セイロン島在住の日本人に關する調査は其の詳細を知るを得ぬが、印度、ビルマ、セイロン等に在住する日本人は昭和十年調査によれば約千五百人に達して居り、之を職業別に見ると一般商業に従事せるもの約四百五十人・工業百人・官吏其他百三十人・水産業四十七人・其他此等の家族が約七百人となつて居り、このうちセイロン居住のものが何人かは知るを得ぬが、百人程度なりと見られるのである。



三、政治

セイロン島は英國の直轄植民地とされ、憲法は一八三三年に制定されたが、其後數度に互り改變され、現在のものは一九三一年三月二十日の勅令によつて居る。

行政權は知事が握つて居り、之れを國務評議會が補佐して、行政上立法上の事に關して參與して居る。現在の知事はカルデコットであり、總務長官はウエデルヴァーンである。

行政 行政權は知事にあつて知事は十名の各省大臣を任命し、これによつて政務を執行して居るのである。大臣十名中三名は總務長官・法務長官・財務長官（以上の三長官を國務官と稱する）により兼務されて居り、残り七名は國務評議會委員會々員から選出されるのである。

ローマ、オランダ法

立法、司法 司法權は知事と國務評議會にあり、同評議會は五十名の被選舉議員と八名の官吏外の任命議員と三名の國務官をもつて構成されて居る。法律は大體に於てローマ・オランダ法を基礎とし、之に植民地諸法令を加へ適宜に改變したものであり、セイロン刑法は印度刑法典に準じて制定されて居る。裁判所は高等法院・警察裁判所・小額債權裁判所・地方裁判所等である。

地方行政 セイロン島は地方行政上之を九ヶ州に區分し、各州には政府駐劄官が任用され、中央政府の命令の下に行政權を握つて居るのである。

四、經濟

財政 セイロン島最近の歳入歳出状態は次の如くであり、歳入の主要なものは關稅で、全體の二分の一を占めて居る。歳出の主なものは教育費であつて、一九三七年を例にとつて見ても實に百萬ポンドに上つて居るのである。

セイロン島最近の歳入歳出（單位ポンド）

年 度	歳 入	歳 出
一九三六—一九三七	七、九四六、四六〇	七、二五一、九一九
一九三七—一九三八	七、五六四、九五六	八、〇一二、六九三
一九三八—一九三九	七、八二八、四四三	八、五九六、八六〇

宗教 主なる宗教の信徒數は佛教が絶對大多數を占めて居り約二八〇萬人を算へ、これについては印度教徒即ちヒンズー教徒の約九八萬人、それからマホメット教徒三〇萬人、キリスト教徒四四萬人等である。

佛教は紀元前三世紀に印度からセイロンに傳來し、シンハレーズ人の間に盛んに信仰され、今日では南部地方に居住するシンハレーズ人の間に於て盛んに信仰されて居る。印度教は大部分タミール人によつて信仰されて居るのである。

教育

教育 セイロン島政府は教育に重きを置き、その費用歳出は巨額に達して居る。政府は土著語を用ひる學校に對しては授業料を徴收せず、この費用は政府で負擔する。現在土著語を使用する學校は官立・其他を合して五千校を突破し、この外王立専門學校と師範學校があり、是等の學校に各々英語使用學校を附屬して居る。大學は一九二二年に開校され現在約六百人の生徒數である。この外工業學校が八五校あり、又産業學校もあり、これは現在約九百人の生徒

宗教



數で産業教育を施して居る。この外佛教徒による寺子屋式學校がある。

### 五、産 業

農業

セイロン島の主要産業は農業で、其の主要生産物の耕作面積は米が約八十五萬エーカー、カカオ三萬四千エーカー、肉桂二萬六千エーカー、茶五十五萬七千エーカー、ゴム六十萬五千エーカー、ココナット(椰子)百十萬エーカーであり、之のうち茶がセイロン産業の最大のもので居るのである。茶の耕作は比較的最近のことであるが、氣候に恵まれて居るためか、其の生産状況は頗る良好で、セイロン茶作の良否は支那茶と共に日本茶の海外に於ける取引に重大な影響を與へて居るのである。現在の茶生産額は全世界の茶生産額の約三分の一を占めて居る。

鑛業

農業に次いで盛んなのは鑛業である。セイロンは有數な鑛産地であるが、其中黒鉛の産出は重要鑛産物とされ、この外、金、トリウム、モナザイトの鑛産物も多少はあるが、之の外サファイア、ルビー、猫眼石、日長石等の寶石類も産出されて居る。

工業

工業は大體に於て農産業に附随したものが多く、植物性油製造・製茶業・ゴム工業等が其の主要なものであり、之の外煙草製造工場もある。植物油製造工業としては、ココナット油とか、茶油製造工場があり、茶油工業では各種の香料原料の製造も行つて居る。此等の農産關係の生産工業に屬する工場は現在千五百近くある。

### 六、貿 易

セイロンの貿易相手國として最も關係の深いのは英本國及び英領諸國である。商品貿易を部類別に觀て特筆すべきことは、輸出が茶、ゴム、椰子等の種類の極めて限定された農産食料品或は原料品であつて、一方輸入が大部分食料品及び完成品であり、而も其の内、番外的大輸入品たる米を除外するならば完成品輸入が斷然多い事である。

輸出商品中最も重要なものは茶であつて、一九三七年の輸出高は一千餘萬ポンドであつた。茶の輸出先は殆んど英本國で六九%は英國に占められ、濠州六%、米國五%である。

ゴムの輸出は五百萬ポンド、主要仕向國は米國四二%、英國二六%等である。茶、ゴム等について重要なものは、椰子油、コブラ、乾燥椰子及び椰子纖維、椰子油槽等椰子關係品であるが、これらの三大輸出品について注目されるのは石墨、肉桂、カカオ等である。

セイロンの輸出入貿易(單位ポンド)

年 度	輸 入	輸 出
一九三二	一三、〇九一、一七一	一一、三五三、九七九
一九三三	一一、八二三、一九四	一三、三四九、九〇六
一九三四	一四、四七二、五九三	一七、五九二、五一六
一九三五	一五、一六九、〇〇二	一六、八七六、〇八一
一九三六	一四、二九五、六三一	一七、九〇六、一四二
一九三七	一六、二〇九、〇五五	二二、一四一、一二八

輸入品の最大のもの米であつて年額(一九三七年)約三五〇萬ポンドであり、セイロンの輸入貿易の約三〇%近くを占めて居る。この外、綿雜品(五百萬ポンド)、石炭・燈油・燃料油等も主要輸入品である。

對日貿易 セイロンの對日貿易は常に日本側の出超であり、最近は次表の如き状態を示して居る。

對セイロン貿易中最も主要なるは織物類、特に綿織物で去る昭和九年の如きは七三〇萬圓の輸出高を示したのであ

對日貿易



對セイロン貿易(單位圓)

年 度	輸 入	輸 出
一九三八年	二、二九七、四六八	一四、六二〇、〇三八
一九三七年	四、〇七六、七三七	一八、六五五、六三五
一九三六年	二、六二二、七二三	一三、八四〇、〇六八

六八  
る。綿織物に次いで絹織物であり、それから各種(サロン、サリト、手巾、其の他)衣類及び同附屬品類である。

日本側の輸入品は、セイロンの特産品たる石墨・茶・椰子纖維等が最も重要で之等三種のもののみで

全輸入額の八〇%にも達して居る。

セイロン紅茶の輸入も相當に多く、昭和十年には七十萬圓であつた。

## 第二節 ビルマ

### 一、沿革

ビルマ戦争

ビルマ王朝が倒れて英國の植民地となつたのは一八八五年であるが、此は第三回ビルマ戦争の結果である。ビルマは古來印度支那族に屬する所の、ビルマ人が佛教を奉じて早くより居住して居つたのであるが、一七五四年ベグが獨立してタイ國を攻略するまで再三、元・明・清等によつて侵略を受けたのである。

一八二三年より二五年の第一回ビルマ戦争はビルマのアロンブラが清朝の援助の下に英領アッサムの内亂に干渉した結果惹起され、一八五二年の第二回戦争には又々英國に敗戦し、遂に第三回戦争により、ビルマの獨立は解消する

反英抗争

に至つたのである。その後永らく英領印度の一部として印度總督の統治下にあつたが、一九三七年には印度から分離し直轄の植民地となり、この印度分離を契機としてビルマ獨立運動が猛烈に展開され、殊に最近の日支事變及び第二次世界大戰の影響を受け、この運動は激烈を極めつゝある。

反英抗争は今に始められたものではなく、一八八五年より潜行的に続けられつゝあつたもので、殊に最近は激烈で表面化して來たのである。英國としては印度の獨立反英運動と、ビルマの獨立反英運動との二つにより頗る手を焼きつゝあるが、ビルマの此の運動は印度のそれよりか一層深刻であり、又根強いものがある。この原因としては、ビルマが英國植民地となつた歴史が浅いことで、現在のビルマを代表する壯年層はまさまさと母國の蹂躪されたことを知りすぎて居るだけに、反英思想も強烈であること、又此の獨立運動が最初印度人とビルマ人との民族闘争に端を發し反英獨立へまで進展して來たことも其の原因の一つとされるのである。

對日感情と  
援蔣行爲

此の獨立運動はバーモ内閣打倒の暴動となり、死傷者數百人を出す程であつた。獨立運動開始以來のビルマの對日感情は良好で、日本に對する認識が深まり、アジア的理念が高揚され、強化されつゝあることは吾々として大いに注目すべきことである。

ビルマ人は外南洋の民族中最も氣力に富み、實行力も比較的大で統制もとれて居り、このことは英國の憂患となる怖れが充分にある。ビルマが日本に對し好感をもちながら、今回の日支事變に對してビルマ雲南ルートにより、援蔣のため武器を輸送することは大いに注目される所であるが、吾々はこれについて次の様な解釋をすることが出来る。

ビルマは政府首脳部も一般人も、日本人に對して好感を持つて居り、ビルマ雲南ルートによる武器其の他の輸送が



行はるゝ事はこの對日好感を否定するものと見られるが、雲南ルートによる支那への輸送に對し、ビルマの通過税は輸入税の八分の一を收め、ビルマへ入つた商品がまたビルマから出る場合に税關に八分の六は返却し、八分の一を通過税として徴つて居つたものを新に十三分の一に引下げた。このことはどこに目的があるか、この事實をも見逃してビルマの對日好感を認むべきか？ このことは英國が表面支那の權益に見切りをつけ、裏面支那に手をつけんとする手段としてビルマが利用されて、強制的に引づられて居るに過ぎぬと見るべきであらう。

## 二、地誌

**地勢** ビルマは北緯一〇—二八度、東經九二—一〇一度で、東南はタイ國及び佛領印度支那のラオスに接して居り、其の東北は支那雲南省及び西康省に、西南はベンガル灣及びマルタバン灣となつて居る。印度との境はアラカン山脈であり、中央には低いペグ山脈を有して居るのである。

**氣候** 氣候は熱帶性でアラカン地方は北東及び南西季節風の影響で雨量が相當に多いが、中心部は乾燥地になつて居るのである。

**面積、人口、住民** 面積は二十六萬方哩で、其の人口は一九三一年の調査によれば一、四六三萬七千餘人で、首都ラングーンは約四十萬人である。住民は一千萬人を占めるビルマ人は、タイ族の一部であつて、この外に各種の民族が居住して居る。

種族

## 三、政治

ビルマの政治上の最高權力は英國皇帝により親任のビルマ總督の手にある。之の下に知事があり、知事は定員十名以内の内閣をもつて、政務を遂行するのである。地方行政は省内を上ビルマ、下ビルマに區別し、上ビルマは三州、下ビルマは四州に分れ、各別に英國の行政官が配置されて居る。

此の外シャン州には酋長が居り、酋長聯合會を作り、英國行政官の指揮を受けて居るのである。ビルマの議會は二院制であつて、上院は三三名の議員によつて組織され、下院は一三二名の議員から成る。

**社會** ビルマの社會を考へる上には先づ英國の帝國主義的支配とビルマ人の熱烈な佛敎信仰を見逃すことは出來ないのである。佛敎に對する厚い信仰と云ふことは、ビルマの新知識人の内にあつてさへ熱烈であつて、ビルマの社會問題は知識階級と僧侶との参加とを考へるべきであらう。今回の獨立運動及び暴動事件も其の發端は印度商人とビルマ僧侶との争に對し、一般の民衆が参加した結果であることを見れば、この内の事實を充分うかがひ知ることが出来る。社會問題の今一つの原因は英國の帝國主義新支配と云ふことで、ビルマの資源である石油、チーク材、鑛山等の事業が總て英人の獨占下にあり、其の利益は總て英本國に送られる故、輸出超過を誇りながらも、ビルマ大衆は貧窮のどん底にあると思はれる。

**經濟** ビルマは元來産業國であるので、ビルマの經濟は販賣する農産物の價格と收穫の如何によつて左右されて居るが、世界的の經濟界混亂からビルマのみが超然として居ることは到底許される所ではなく、ビルマも亦スペイン戰

酋長聯合會



争・日支事變・第二次世界大戦等により、商品・株式價格・貿易收支等は漸次下落の途をたどりつゝある。本年春議會に提案された三九一四〇年度の豫算に現はれたビルマの財政は、ビルマ王國時代の遺物たる惡税、即ち人頭税及び戸數割税の減額漸行の資金とされるために、歳入増を計つて居るのである。ビルマ人は元來農民であるので、經濟的思想には頗る乏しい上に近代の經濟様式を採用する機會にも恵まれて居らぬために、經濟界は殆んど、歐米人・印度人等によりて定められて來たのであるが、一九三七年四月英國總督の下にビルマ人による内閣を組織し、若干なりとも自治制を布く様になり、經濟界にもビルマ人が進出することとなり、今やビルマ經濟の再建に著手して居るから、やがては健全な經濟組織を持つことが出来るであらう。

財政

財政状態を見ると、一九三六年―七年の歳入は九千二百萬ルピー、歳出は九千二十萬ルピーであり、歳入の主なるものは地租・森林收入・消費税・印紙税・行政收入・灌溉收入等の順である。歳出の方は警察費及び總督費・行政費・教育費等が主なるものとなつて居る。ビルマが印度の一州たりし時代には、印度に對し毎年四十萬ルピーづゝの貢納金をなしたが、分離と同時にこの制度は廢止となり、その代償として五億八百萬ルピーを年賦にて印度政府へ渡すこととし、年賦金七五〇萬ルピーを納めて居ること等もビルマ財政の一つの特徴とされる。

ビルマ財政の今一つの問題は、多額に上る國防費の過重、即ち總督自治領に要するものゝみにても二五〇萬ルピー（總額三千萬ルピー）に上ることはビルマ人にとり承服出來難い點で、此處に反英抗争の遠因もある。

産業 ビルマの主要なる資源は錫・銀であつて、世界有數のものとなされ、その出產量は實に四千七百噸、又タンングステン鑛の產出も頗る豊富であつて、年産三千餘噸に達して居る。銀も六千オンス、又石油の產出高は約二億七千萬

ガロンであり、その外森林の面積は約三萬方哩に達して居る。

農産物としては有名な米があり、この外豆・棉花もある。

貿易（主として對日貿易） ビルマの外國貿易、主として對日貿易につき説明を加へるが、一九三八年より三九年に至る對外輸出は四億八千五百萬ルピー、輸入は二億七百八拾萬ルピーで出超である。對日貿易額は一九三八年度對

最近五ヶ年間の外國貿易

年 度	輸出 (ルピー) 萬	輸入 (同上)
一九三四—三五	五〇七三	二〇四四
一九三五—三六	五四一四	二〇八三
一九三六—三七	五六一〇	二四七八
一九三七—三八	五〇四四	二三八一
一九三八—三九	四八五〇	二〇七八

日輸出八百四十七萬ルピーであり、前年に比して二三%の大減出である。又對日輸入九百九十萬ルピーも前年に比して、二三%（四百七十八萬ルピー）の大減少と云ふ状態である。

日本がビルマから輸入する主要物資は、米・豆・棉花・鉛・亞鉛等であり、最近は米及び豆も日本への輸出が減少して居た。然るに昭和十四年度日本内地及び朝鮮の産米減收はビルマ米の輸入となり、外米輸入中に於てタイ米と共に最も注目すべ

き輸入米とせられてゐる。豆は他の南洋産のものに比し高價であることが輸入減（日本へ）の原因となつて居る。日本からの輸出品は煉乳・藥品・化學機具・ゴム製品・木材及び同製品・綿襪絲・各種綿布・毛織物・人絹・靴類・陶磁器・硝子及び硝子器・金物類・其の他雜品であるが、今後の對ビルマ貿易の増減は英國ビルマ通商條約・印度ビルマ通商條約等の成行如何によるものとされて居るのである。最近ではビルマ市場に於て、印度品と日本品との競争が激化しつゝあり、日本品の進出は相當の打撃をうけて居るのである。

對日貿易



### 第三章 中央亞米利加

#### 第一節 メキシコ

沿革

メキシコは十五世紀の中頃、現在の北米南部から中米全般に亘つて大帝國を建て、文化も亦進んであつて、南米ペルーのインカ帝國と共に新世界の花形であり、舊世界の古國であつた埃及・メソポタミア・印度・支那の四箇國と並び稱せられて居た。

永正十六年(一五一九)西班牙人エルナン・コルチスが、兵船十一隻を率ゐるヴェラ・クルズに上陸し、首都テノチチトラン(現メキシコ市)に進入して、國王モンテズマ二世に西班牙國の主權を奉ぜしむることとなし、次で(大永二年(一五二二))全メキシコをヌエヴァ・エスパニヤ(新西班牙)と名づけて西班牙領とした。(文化七年(一八一〇))ヒゴルダの獨立運動を初めとして、内亂政變を繰返し、(天保六年(一八三六))遂に西班牙はメキシコ共和國の獨立を承認した。同年テキサス州が合衆國に合同を宣言せるため、メキシコは(弘化三年(一八四六))合衆國と開戦せしも連敗して、(嘉永元年(一八四八))和議が成立し、千五百萬弗の代償にて、テキサス、ニューメキシコ、カリフォルニア三州を合衆國に割譲し、翌一八四九年アリゾナ、ネバダ、ユター、ワイオミングの一部も讓渡するに到つた。其の後も國內騷擾が繰返へされたが(明治十年(一八七七))ドン・ボルフィリオ・デアス大統領が就任して獨裁政治を行ひ、(明治四十四年(一九一))迄其の地位を保つて、此の間に大に國力を恢復した。

デアス大統領引退後は内亂再び絶へず、革命と大統領の廢立とが相繼ぎ秩序も亂れ勝ちなりしも(大正九年(一九二〇))オブレゴン新政府の成立により、漸く安定し今日に至つて居る。

近年は極少數の資本家と地主との横暴を抑へ、大多數貧民の生活及び文化を向上せしむると云ふ理想が、急激な左翼政策となつて表はれ、又一方國家主義は排外運動となり、自國の富源(主として石油)の開發及び鐵道等に投資せる外人の勢力を排除し、奪はれたる利權を取り返せと云ふ極端なる排外政策が強化せられ、先般油田問題として表はれたのである。

メキシコ人は、歴史的にアメリカに對しては強き憎惡の念を持ち、日本に對しては伊達政宗時代から好感を持つて居る。併し最近は容共政策が實施せられて居るので、對日傳統的好感も漸次消失するに非ずやと思はれる。

自一九一〇年國內革命による米人の被害賠償金は(昭和十年(一九三五))六月二十八日メキシコ市で調印せられ、總額五、四四八、〇二〇弗(毎年六十萬弗)を米國に支拂ふこととなつた。

メキシコは(昭和六年(一九三一))九月八日國際聯盟に加入した。

メキシコ政府は國產石油管理局を設け國家統制に乘出し、勞働爭議に際し一九三八年三月四億弗の外國系石油會社(主として英米)の財産收容に關し大統領令を發布したから會社側は既得權益侵害として之を拒否した。メキシコ政府の損害賠償聲明により米國政府は満足したが、英國は地中海不安のためメキシコ油を高く評價し、四月八日英人所有會社の收用財産返還を求めたが、同十二日メキシコ政府は主權の範圍内行爲として之を一蹴し、十四日英京駐劄公使を引揚げ同公使館閉鎖を命じ強硬態度に出で、英國も亦同日駐墨公使を召還し、兩國交は事實上斷絶するに至つた。

對米・對日  
感情



地誌

メキシコは中南米諸國中で、ブラジル、アルゼンチンに次ぐ第三位の大國であり、總面積七六三、九四四方哩(一、九五四方呎、日本帝國の三倍、合衆國の四分の一)で、北米合衆國の南に隣する廣大な地域である。

地勢は國全體が高原で、平均海拔二千米の高原に住民が居り、首都メキシコ市は海拔二、二四〇米の高地である。

全 人 口 一六、五五三、千人(一九三〇年五月國勢調査による、一九三七年推定一九、一五四千人)

(内譯)

- 四、六二一、人 印 甸 人
- 九、〇四一、人 メスチゾス族(西班牙人と土人との混血)
- 二、四四四、人 白 人
- 一六〇、人 諸 外 國 人

米國への移民は無制限なる爲め、一九二五年來毎年約六萬の移民があり、一九三〇年四月調にて、在米メキシコ人一、四二二、五三三名であつたが、自一九三〇年の不況により四年間に、三一、七一六名の歸國者があつた。

海岸線は六、三〇一哩(太平洋海岸四、五七四哩、カリブ海岸一、七二七哩)である。

ラテン・アメリカ人の氣風は、一般に派手を好み形式を重んじ、動作緩慢享樂的で小康に安んじ、建設努力の氣概に乏しいが、一方感激性に富み人種的偏見がないから、外人の移住には好都合である。

メキシコは一聯合區、二十七州、三地方に分割せられ、(安政四年二月五日北米合衆國に倣ふて憲法を制定し、一九一七年現行憲法に改正)メキシコ聯邦共和國と稱した。

政治

聯邦政府は行政・立法・司法の三權があり、行政長官は大統領で(下に副大統領があり)任期は六ヶ年(副大統領

と同日選舉)である。

内閣には、外務・内務・教育美術・農商植民工務・逓信工部・大藏公債・陸軍・海軍の八省長官がある。

立法權は、元老院及び代議院(即ち上下兩院)から成る國會に屬して居る。上院議員(五八名、任期六年)は各州二名宛、下院議員(一七〇名、任期三年)は普通選舉により、人口十萬毎に一人を選出する。尙ほ閉院中は、上院議員十四名、下院議員十五名より成る常設委員會を置く。

司法は高等法院(任期六年の法官一五人を選擧する)・巡回裁判所・地方裁判所(判事三十二名)がある。州に知事を置くのは他の諸國と同じである。

國防軍備

陸軍は志願兵制度にて現役約六萬、豫備役約三萬あり、メキシコ市に陸軍士官學校がある。空軍は約三百五十名で陸軍に屬して居る。

海軍は中米唯一の海軍國で、主として沿岸警備・密貿易・密漁撈等の監視・取締に任じ、海軍局は國防省に屬し、ヴェラクルーズ市に海軍兵學校がある。一九三九年現有船艦は總計二十五隻約二萬五千噸であり、其の内譯は次の通りである。

- 海防艦 一隻
- スloop 七隻
- 砲 艦 一〇隻
- 沿岸監視艦 四隻
- 運送船 三隻

此の外、内務省管轄の巡查十二箇中隊(約三千六百名)あり、平時は地方の警備に當り、事變に際しては騎馬隊として軍事行動に従事する。

産業

メキシコは、米大陸中最も古くから開發せられたが、國民の勤勞不足、殊に連發する政變や最近の勞働爭議等で、



社會的不安に災されて、産業は後れて居る。其の上、注目すべきものは何れも外國の投資である。(英國約一億八千三百萬弗) 農業及び鑛産資源は極めて豊富で、最近の社會的不安は、一方に國民の自覺を促し、産業の全面的開發と外國資本の束縛から解放せられんとして、(昭和九年) 以來産業六ヶ年計畫の施行を見るに至り、將來の發展は注目すべきものがあらう。

産業六箇年計畫

此の六ヶ年計畫は、カルデナス大統領の著手した自一九三四年のもので、其後一般經濟界の恢復に恵まれて、收支好轉の爲め比較的容易に豫期以上の成果を擧げて居る。即ち、國民革命黨は既に一九三四年本計畫に關與し、一九三三年十二月議會は、大統領に本件處理の權限を與へ、第一段として社會主義學校の改革を行ひ、一方に、

- (イ) 産業のメキシコ化
- (ロ) 輸出入統制委員が、貿易を聯邦政府に直接交渉すること
- (ハ) 政府補助の借款及び輸出業者に對する保證
- (ニ) 在外官選販賣代理人協定

を定め、此の新方針によつて、國有電信の新式化、模範労働者住宅の建築が行はれた。更に翌年一月一日に農林省が新設せられ、憲法第二十七條により各町村に自治を促進した。又電力の有力なる聯邦電力會社が設立され、他に多くの公共事業(一九三四年各地給排水灌漑用に)を計畫した。

農業

農業は鑛業と共に、メキシコ産業の中樞であるが、一九二六年に始めた聯邦計畫により、一九三四年四月迄に三十五萬二百エーカーを開發し、約八千萬ペソを費したが、耕地は未だ總面積の六%(二千八百萬エーカー)に過ぎない。

牧場

又大農場の他は栽培法が幼稚で、今後の開發に待つものが多く、前述六ヶ年計畫中にも灌漑設備の改善・擴張・農業信用制度の整備により、耕地の増加を計つて居る。

牧場面積は一億六千四百萬エーカー、森林は六千三百九十七萬エーカー(内二千五百萬エーカー中には松・樅・杉・マホガニー等が豊富)である。

農産物の主なるものは玉蜀黍・米・砂糖・麻・棉花・小麥・珈琲・バナナ・トマト・豆類・煙草等で、珈琲・麻・冬季野菜が輸出され、其の他は國內で消費される。

最近米國の農産物減産政策に恵まれて、メキシコ農業は好況を呈して居り、殊に棉花は一九三五年以來栽培面積著しく擴張せられ、(一九三四年一六九千ヘクタール) 其の生産高一九三六年(八萬五千七百應)は、一九三四年(四八、三四五應)に比べ八割増である。

シサル麻はユカタン半島に産し、世界産額の五割であるが、近來其の産額は漸減して居る。

森林地帯は、松・樅・杉・マホガニー等に富むが、近來グラユールからゴム採取が有望視されて居る。

メキシコ農産物(一九三六年調)

耕地面積 (千エーカー)		生 産 額		耕地面積 (千エーカー)		生 産 額					
砂 糖	—	三六〇、〇〇〇(應)	玉 蜀 黍	七、二九八	六五、九二七(千ツセル)	珈 琲	四一八	二五〇、五二六(バレル)	小 麥	三二	二六、五九八(千ツセル)
棉 花	四一八	二五〇、五二六(バレル)	煙 草	一、二七九	一〇、七一二(千ツセル)	花 椒	二二一	八七、四四三(千ツセル)			